

授 業 科 目 の 概 要			
(地域保健学域看護学類)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	解剖生理学 A	<授業形態>講義 <目標>人間は誕生、成長、病み、老い、死に至る有限の生物である。生物はこの過程を繰り返して種を維持する。解剖生理学Aは、生物学的側面の人間、身体の構造と機能、生命現象の論理的な思考の形成を目的とする。 <授業計画の概要> ・人間の身体の調節系と統御系の構造と機能、病態 ・日常生活活動の維持の仕組み	
専門 基礎 科目	解剖生理学 B	<授業形態>演習 <目標>解剖生理学Bでは器官系の形態と機能を学習させる。器官系は独立して機能するのではなく、解剖生理学Aで学習した調節系と統御系の基で、器官の活動が調節されていることを理解させる。器官の傷害は人々の日常生活活動に障害を与える。器官系に関する知識の獲得で人々の健康状態、病態生理、疾病を理解させ、病気をもつ人々へ援助できる能力を育成する。 <授業計画の概要> ・器官系の形態と機能 ・調節系と統御系の基での器官の活動の調節 ・器官の傷害による人々の日常生活活動への障害	
専門 基礎 科目	生化学A	<授業形態>講義 <目標>人間の体は主にどのようにして成り立っているのか、それらの生体の物質がどのような仕組みで代謝されるのか、そして、それらの物質が人または生体という装置の中でどのような働きをするのか学ばせる。 <授業計画の概要> ・酵素反応の概略 ・糖質の代謝とエネルギーの産生 ・脂肪酸の代謝とエネルギーの貯蔵 ・蛋白質の構造と機能 ・アミノ酸の代謝 ・ヌクレオチドの代謝	
専門 基礎 科目	病理学	<授業形態>演習 <目標>病理学の医学における位置づけを学ばせ、病理学そのものの性格を理解させる。そして、疾病を病因の観点から説明し、また、疾病の基本である病変を奇形、代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症及び腫瘍の6つに分類し、それぞれについて視聴覚教材等を用いて学ばせ、あわせて各々の病変の代表的な疾患について理解させる。 <授業計画の概要> ・病理学の医学における位置づけ ・奇形、代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症及び腫瘍 ・病変の代表的な疾患	
専門 基礎 科目	疾病・治療論 A	<授業形態>演習 <目標>内科系疾患及び老年病の成り立ちを理解させ、回復に関する知識を理解させる。循環器疾患(虚血性心疾患、腎不全)、脳神経疾患(神経難病)、皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)、呼吸疾患(結核、肺炎)、消化器疾患(肝硬変)、自己免疫疾患(エイズ、リウマチ、SLE)を学ばせる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式/全15回) (162 松本智成/8回) ・循環器疾患(虚血性心疾患、腎不全) ・脳神経疾患(神経難病) ・皮膚疾患(アトピー性皮膚炎) ・呼吸疾患(結核、肺炎) ・消化器疾患(肝硬変) ・自己免疫疾患(エイズ、リウマチ、SLE) (163 宮下光太郎/7回) ・代表的な神経疾患に関する基礎知識 ・脳血管疾患、神経・筋変性疾患、脱髄疾患、神経系感染症等	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(地域保健学域看護学類)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	疾病・治療論B	<授業形態> 演習 <目標> 外科系疾患の成り立ちを理解させ、回復に関する知識を理解させる。消化器・循環器外科疾患(胃癌、胆石、肝臓癌、食道癌、心筋梗塞等)、整形外科疾患(骨折、変形性膝関節症、椎間板ヘルニア)、泌尿器科疾患(前立腺肥大、膀胱癌)、耳鼻咽喉科疾患(上下咽頭癌、喉頭癌)、救命救急(ショック、熱症、中毒)を学ばせる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式/全15回) (154 高内裕司/2回)・麻酔学 (146 今本治彦/3回)・消化器外科疾患の病態と診断・治療 (151 垣本健一/2回)・泌尿器科疾患の病態と診断・治療 (159 藤見 聡/2回)・救急救命の診断と治療 (147 上村裕和/2回)・耳鼻咽喉科疾患の病態と診断・治療 (150 音野慶仁/2回)・整形外科疾患の病態と診断・治療 (160 正井崇史/2回)・心臓外科疾患の病態と診断・治療	オムニバス
専門 基礎 科目	疾病・治療論C	<授業形態> 演習 <目標> 女性生殖系系の病態生理、産科疾患及び小児の疾患の成り立ちに関する基礎的知識を学習させる。女性生殖系及び産科領域では女性のライフサイクルの各ステージ、特に周産期に焦点をあて、妊娠、分娩、産褥の生理及び病態を理解させる。小児領域では、小児の成長発達や生活の特徴及びチーム医療の重要性を理解させ、小児医療でよくみられる主要な疾患の病態生理について学習させる。 <授業計画の概要> ・女性生殖系系の病態生理、産科疾患及び小児の疾患の成り立ち ・妊娠、分娩、産褥の生理及び病態 ・小児の成長発達や生活の特徴及びチーム医療の重要性 ・小児医療の主要な疾患の病態生理	
専門 基礎 科目	疾病・治療論D	<授業形態> 演習 <目標> 精神疾患の全体像を体系的に捉えるとともに、各疾患の病態と検査、診断、治療に関する基本的知識を習得させることを目標とする。 <授業計画の概要> ・器質性疾患の原因と病変局在による精神症候学的特徴、脳解剖・機能画像ほかの臨床検査に関する知識 ・機能性精神疾患及び心因性精神疾患の記述症候学と心理学的検査法 ・今日の代表的な各種精神病理学、性格と環境の要因に基づく精神力動論ならびに生物学的病態理論、治療法の知識 ・高齢社会に対応する認知症等の総合的見地	
専門 基礎 科目	医療遺伝学	<授業形態> 講義 <目標> ゲノム科学の進歩は医学や医療の方法論を変えつつあり、遺伝医療は21世紀の医療のなかで重要な位置を占めようとしている。臨床遺伝専門医、遺伝専門看護師、遺伝カウンセラー等の遺伝専門職と協働して治療やケアにあたる看護師にとって必要な遺伝医学の知識、遺伝カウンセリング技術、遺伝看護ケアの基本について学ばせる。 <授業計画の概要> ・遺伝医学の知識 ・遺伝カウンセリング技術 ・遺伝看護ケアの基本	
専門 基礎 科目	微生物学概論	<授業形態> 演習 <目標> 自然界には肉眼では見えないほど小さな多種類の細菌、真菌、原虫、ウイルス等の微生物が存在しており、そのなかには有益なものや人、動物に病気を起こすものがある。これらの微生物に共通する性質を解説し、個々の微生物の性状について説明し、感染症の発症要因となる原因菌について理解を深めさせる。 <授業計画の概要> ・微生物に共通する性質 ・個々の微生物の性状 ・感染症の発症要因となる原因菌	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域保健学域看護学類）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	薬理学	<授業形態> 演習 <目標> 病気の治療方法にはいろいろあるが、薬物治療は近代医学において欠くことのできない手段であり、薬物治療の占める割合も著しく高い。また、近年、種々の新薬が開発され、その臨床応用も多岐にわたっている。講義では、薬物の科学的構造、作用機序、副作用、相互作用等について学ばせる。 <授業計画の概要> ・薬物の科学的構造 ・薬物の作用機序 ・薬物の副作用、相互作用等	
専門基礎科目	公衆衛生学A	<授業形態> 講義 <目標> 健康と社会・環境の関わりについて理解させる。本講義では、人間や人間の生活を生態系の中に位置づけ、人間の行動特性と生体維持の基本的メカニズムについて理解させ、社会や環境の変化が健康に与える影響を学ばせる。さらに、健康の概念を解説し、健康の維持推進や疾病予防を社会生活の中で実現するための考え方と方法について理解させる。 <授業計画の概要> ・人間の行動特性と生体維持の基本的メカニズム ・社会や環境の変化が健康に与える影響 ・健康の概念 ・健康の維持推進や疾病予防を社会生活の中で実現するための考え方と方法	
専門基礎科目	栄養学総論	<授業形態> 講義 <目標> 「栄養」は命の営みそのものである。しかしその重要性は命を守る仕事に関わる人々も十分認識されていないのが実状である。一方、「栄養」について過剰認識すると、不老不死が得られる「栄養」がありそうな幻覚を抱くこともある。講義では、根拠に基づいた栄養学を基に、幅広い領域にまたがる「栄養」について学ばせる。 <授業計画の概要> ・根拠に基づいた栄養学 ・幅広い領域にまたがる「栄養」	
専門基礎科目	疫学	<授業形態> 講義 <目標> 人間集団を対象に疾病とその発症に寄与する要因について解析する疫学の基本的な知識を理解させることを目的とする。 <授業計画の概要> ・疾病頻度を測る指標、rateやrisk等の概念、曝露効果を表す指標 ・因果関係の考え方、因果関係に影響を及ぼす偏りや交絡の概念 ・症例対照研究、コホート研究、介入研究等の代表的な疫学研究のデザイン	
専門基礎科目	保健統計学	<授業形態> 講義 <目標> 看護・保健医療分野において必要な保健統計資料の収集及び活用の方法と、数理統計学に関する基礎的な知識を理解させる。 <授業計画の概要> ・保健統計資料や文献検索の手技、保健医療システムの実際 ・調査票の設計からデータ解析までを含めた調査研究の手法等 ・推測統計に必要な確率の基本性質と標本理論 ・推定や検定などに関する基礎理論とその活用方法	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域保健学域看護学類）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	医療と社会福祉学	<授業形態>講義 <目標>社会福祉の概念がこれまでの一部特定の社会弱者を対象とする社会擁護等の制度から高齢化社会の問題に見られるようなすべての国民が共通の課題とする社会的取り組みへと変化している。本授業では、これまでの社会福祉の対象論、制度論、援助論を医療との関連において取り上げ、医療職者としての患者、障がい者の関わりにおける社会福祉的視点についての理解を深めさせる。 <授業計画の概要> ・社会福祉の対象論、制度論、援助論の医療との関連 ・医療職者としての患者、障がい者の関わりにおける社会福祉的視点	
専門 基礎 科目	カウンセリング論	<授業形態>講義 <目標>カウンセリングは人間への援助に関わるすべての領域で必要である。本授業では、カウンセリングの基礎理論や基本的技法を解説し、カウンセリングの人間観、医療におけるカウンセリングの実践を学ばせる。 <授業計画の概要> ・カウンセリングの基礎理論や基本的技法 ・カウンセリングの人間観 ・医療におけるカウンセリングの実践	
専門 科目	学域 共通 科目 生命倫理学	<授業形態>講義 <目標>生命の「コントロール」をも可能にした高度先端医療には、これまで社会が直面してこなかった問題が発生している。本講義では、医療と生命科学、および生命をめぐる倫理的問題を、生命の尊重とQOL(クオリリティ・オブ・ライフ)の観点を生命倫理の基礎として論じる。そして人としての尊厳を失わず、より良く生き続けることの大切さとこれを支援する専門職者の役割を学ばせる。 <授業計画の概要> ・生命倫理学の基礎 ・QOLの概念 ・人工受精、体外受精 ・安楽死・尊厳死 ・生命に関わる諸問題と専門職者の役割	
専門 科目	学域 共通 科目 人間支援科学論	<授業形態>講義 <目標>人々の健康と福祉の向上に寄与する専門的・協働的実践力の基礎と、人と社会を包括的に捉える視点を身につけさせることを目的に、科学としての人間支援の全体像について学ばせる。講義共通のキーワードとして小児・児童、家族、貧困、患者、高齢者等。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全8回） （63 今木 雅英／1回） ・科学としての人間支援とは何か ・人間支援の多様性と専門性 （1 高見沢恵美子／1回） ・患者と家族に対する看護学的支援 （15 檜木野裕美／1回） ・子どもと家族に対する看護学的支援 （3 上野 昌江／1回） ・地域の高齢者に対する看護学的支援 （66 高畑 進一／1回） ・患者と家族に対するリハビリテーション学的支援 （64 奥田 邦晴／1回） ・高齢者、障害者に対するリハビリテーション学的支援 （69 山野 則子／1回） ・子どもと家庭に対する社会福祉的支援と教育的支援 （70 吉田 敦彦／1回） ・高齢者に対する社会福祉的支援と教育的支援	オムニバス 集中

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	学域 共通 科目	コラボレーション論	<授業形態>講義 <目標>人の健康と福祉は多様な側面から成り立ち、各側面は相互に影響しあいながらその全体を形成している。健康と福祉を回復、維持、あるいは育むためには、人が本来持つ強さを活性化する支援が重要であり、そのためには多様な領域の専門性と各領域間の協働が必須となる。本講義では、専門領域や専門職の多様性の理解に基づき、協働の達成に必要な基礎知識を学ばせる。 <授業計画の概要> ・専門領域と専門職の多様性 ・協働の意義 ・発展プロセス、促進・阻害要因 ・協働の具体的方法 (他職種間チームワーク、施設・組織間ネットワーク、組織と制度のリンケージ)	
専門 科目	学域 共通 科目	コミュニケーション論	<授業形態>講義 <目標>人間は人とののかかわりの中で自己を形成し、成長発達をとげていく。また、他者との意思の相互伝達であるコミュニケーションを基礎に社会は成り立っている。本授業では、コミュニケーションに関する理論を紹介し、医療職者に必要なコミュニケーション技法について学ばせる。 <授業計画の概要> ・コミュニケーションの基本理念 ・社会的相互作用とコミュニケーション ・対人コミュニケーションの基礎 ・プログラム学習法を応用した基本的関わり技法の習得	
専門 科目	学域 共通 科目	ケアリング論	<授業形態>講義 <目標>ケアリングとは、他者に対する具体的なケア（世話、心づかい）の実践であり、ニーズへの応答や他者への責任、傾聴や許容、ジェンダーといった概念と深く結びついている。本講義では、ケアの理論的基礎と、学域の各専門領域におけるケアリングの意義と課題を学ばせる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式／全15回) (65 児島 亜紀子/3回)・ケアの概念、ケアの倫理 (70 吉田 敦彦/3回)・教育とケア (67 田間 泰子/3回)・家族におけるケアリング、ジェンダーとケア (71 田垣 正普/3回)・軽度障害とケア、障害の経験とケア (72 三田 優子/3回)・精神障害者・知的障害者とケア	オムニバス
専門 科目	基礎 看護 学	看護学概論	<授業形態>講義 <目標>看護及び看護学を学ぶ導入部として、歴史的変遷をふまえて看護の独自性、専門性に関して言及する。看護及び看護学に関する理解を深めさせ、看護観を構築する基盤形成を目指す。 <授業計画の概要> (オムニバス方式／全15回) (2 青山ヒフミ/10回 平成24年度)(7 志田京子/10回 平成25～27年度) ・看護の定義と看護理論、専門職としての看護、歴史からみた看護、看護における人間、健康の概念の理解、保健医療システム他について講義を行う。 (17 星 和美/5回 平成24年度)(18 細田泰子/5回 平成25～27年度) ・看護における環境の理解、看護の倫理と法的責任について講義を行う。	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	基礎 看護 学	基礎看護技術学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>看護は、看護者が対象者との関わりを通してその人間関係の枠組みの中で、その力動を使って展開される活動である。本講義では、良好な対人関係に必要な基本的な概念の理解と習得を目指す。その上で、保健医療・看護の場面における、効果的な対人関係の技術を考え、実践する力を養わせる。授業は、体験学習等を用いて行う。 <授業計画の概要> ・対人関係の技法に関連する概念 ・非言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーション ・集団の中でのコミュニケーションの手法 ・看護記録、個人情報保護法、インフォームド・コンセント ・臨床場面における対人関係の技法	
専門 科目	基礎 看護 学	基礎看護技術学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>看護ケア提供のために必要な基礎看護技術のうち、日常生活を支援する技術について科学的根拠を踏まえて教授し、技術の習得を目指す。 <授業計画の概要> ・基本的コミュニケーション ・安全・安楽 ・日常生活援助を支援する環境調整 ・食事援助 ・排泄援助 ・活動休息援助 ・清潔・衣生活援助 ・バイタルサインズの観察	
専門 科目	基礎 看護 学	基礎看護技術学Ⅲ	<授業形態>演習 <目標>看護ケア提供のために必要な基礎看護技術のうち診療に伴う看護技術について科学的根拠を踏まえて教授し、技術の習得を目指す。 <授業計画の概要> ・身体的状況を理解するためのフィジカルアセスメントの基礎 ・薬物療法に必要な技術として与薬法 ・検査に必要な技術として静脈血採血 ・臨床上よく出会う症状に必要な技術として酸素投与、吸入、浣腸、導尿、経管栄養、創傷ケア ・基礎看護技術のまとめ	
専門 科目	基礎 看護 学	看護過程展開論	<授業形態>演習 <目標>専門職として科学的な看護ケアを提供するための基盤となる代表的な看護理論について教授する。また、看護上の問題を解決するためのプロセス、つまり情報収集とアセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価の各段階の展開方法についての理解を目指す。さらにヘンダーソンの看護理論に基づいた看護過程の展開方法について、事例を用いた演習を通して学ばせる。 <授業計画の概要> ・看護過程と主な看護理論 ・ナイチンゲールの看護論 ・オレムの看護論 ・ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の展開 ・看護過程展開の演習	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	基礎 看護学	看護管理学	<授業形態>講義 <目標>チーム医療における協働、リーダーシップ、組織の目標と情報の共有、報告の必要性和意味、リスクマネジメント、危機発生時の対処方法について理解させ、看護ケアの基盤となる方法のうちマネジメント方法の習得を目指す。 <授業計画の概要> ・看護管理の定義、管理論、組織論の変遷、管理の原則 ・組織における行動 ・人材育成 ・キャリアディベロップメント ・看護マネジメント過程と組織化 ・看護の質保証 ・医療安全・リスクマネジメント ・医療経済と看護サービス	
専門 科目	基礎 看護学	看護教育学	<授業形態>講義 <目標>看護教育制度、看護教育課程、看護継続教育、看護教育方法、看護教育評価、看護教育におけるインストラクショナルデザインに関する基礎的知識を学ばせ、看護の質の継続的改善のために必要な看護職の役割について理解を深めさせる。 <授業計画の概要> ・教育制度とカリキュラム ・生涯教育と看護継続教育 ・学習理論と看護教育方法 ・看護教育評価 ・インストラクショナルデザイン ・看護基礎教育の比較	
専門 科目	基礎 看護学	基礎看護学実習Ⅰ	<授業形態>実習 <目標>看護の対象となる「人」と、その人をめぐる「環境」への理解を深めるとともに看護を学ぶ動機となるよう、医療施設や介護老人保健施設や養護学校・産業保健の場等の見学実習を通して看護の実際を体験的に学ばせる。また、そこで働く看護職及び専門職によるケアの実際を知ることにより、保健・医療・福祉の場において看護の果たす役割を理解させる。 <授業計画の概要> ・実習オリエンテーション ・医療施設における実習 ・介護老人保健施設や養護学校・産業保健の場等の実習 ・実習のまとめ	
専門 科目	基礎 看護学	基礎看護学実習Ⅱ	<授業形態>実習 <目標>看護の対象となる「人」、その人をめぐる「環境」、看護の目的である「健康」から看護を考える機会となるよう、看護の実際を通して体験的に学ばせる。具体的には医療施設における実習を行い、対象者との対人関係を築きながら、対象者を総合的に理解し、対象者に必要な看護を日常生活の援助技術を中心に実践し省察することにより、看護実践の基礎的能力を養わせ、自らの看護観を育ませる。 <授業計画の概要> ・実習オリエンテーション ・既習の専門的知識・技術を用いた臨地実習 ・対象者への看護に関する計画・実践・評価 ・実習のまとめ	

授 業 科 目 の 概 要				
（地域保健学域看護学類）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	療養支援看護学	療養支援看護学概論	<授業形態>講義 <目標>健康と発達、ニーズ、危機、リハビリテーション等の概念・理論を学習させ、健康障害をもつ人を総合的に理解させる。さらに、療養生活を送る人が、疾患を受容するとともに健康状態の変化から回復し、セルフケア能力を高め、その人らしく生活できるような援助について学習させる。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全15回） （16 旗持知恵子／4回）・療養支援看護学の構造と構成および特徴、セルフケア理論、慢性疾患患者の看護 （11 田中京子／3回）・ストレス・危機理論、周手術看護（術前）、がん看護 （1 高見沢恵美子／5回）・周手術看護（術中・術後）、療養支援に必要な看護過程 （19 堀井理司／3回）・リハビリテーション看護に必要な概念、感染看護	オムニバス
専門科目	療養支援看護学	病態看護論	<授業形態>演習 <目標>実践場面で患者が呈する様々な症状の発生機序、程度、経過、軽減・増悪させる要因、ならびに必要なとされる看護援助について学ばせる。また、事例を用いた演習を通して、患者の病態を適切にアセスメントするための方法について学ばせる。 <授業計画の概要> - 様々な症状を有する患者の看護 - 呼吸器系、循環器系、脳・神経系、消化器系に障害のある患者の事例を通してアセスメント演習 - 総合的なアセスメントが必要な患者の事例演習	
専門科目	療養支援看護学	療養支援論：急性Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>疾病の急性期にある患者、および周手術期にある患者とその家族の特徴、体験する苦痛を理解させる。また、患者の回復過程において個々の療養生活を営み、社会生活に適応する際に直面する諸問題について理解し、自立・自律した生活を送ることができるような援助について学習させる。 <授業計画の概要> - 急性期にある患者の看護 - 創傷のある患者の看護 - 麻酔を受ける患者の看護 - 低侵襲手術を受ける患者の看護	
専門科目	療養支援看護学	療養支援論：急性Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>代表的な手術を受ける患者の術前・術後の各期における患者と家族が抱える身体・心理・社会的問題を理解させ、安全安楽な状態を保ちながら順調な回復過程をたどり社会復帰を目指す援助について学ばせる。さらに、急性期および周手術期にある患者の援助に必要な看護技術について学ばせる。 <授業計画の概要> - 代表的な手術を受ける患者の看護 - 術前・術後のケア - 救急蘇生 - 看護過程演習	
専門科目	療養支援看護学	療養支援論：慢性Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする人と家族の身体・心理・社会的特徴を理解させる。事例を通して、疾病のコントロールのためにライフスタイルの変更を余儀なくされた慢性病患者と家族の看護について理解させる。演習を通して慢性病患者への学習支援のための援助技術について学ばせる。 <授業計画の概要> - 慢性病患者とその家族の特徴 - ライフスタイルの変更を余儀なくされた患者の看護とその家族の支援	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	療養支援看護学	療養支援論:慢性Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>慢性病患者とその家族のQOLの充実に向けて、患者が主体的に療養生活に取り組めるよう支援するための看護援助について学習させる。慢性病患者の事例について健康レベルと病の経過の観点に応じた看護過程を展開させる。看護過程の展開および慢性病患者とその家族の援助に必要な看護技術の演習を通して、実践への応用能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・慢性病と共に生きる患者と家族のQOL ・慢性病患者に対する援助過程	
専門科目	療養支援看護学	療養支援論:がん	<授業形態>演習 <目標>がんの治療経過に伴って生じる身体・心理・社会・霊的苦痛とそれらを緩和する援助について理解させると共に、がんと診断された患者とその家族の療養生活を支えるための人的・物的資源について学ばせる。さらに、がん医療にまつわる様々な倫理的問題およびがん患者・家族の擁護者としての看護師の役割について理解させる。 <授業計画の概要> ・告知を受けるがん患者の看護 ・治療を受ける患者の看護 ・がん患者の緩和ケア ・がん患者の家族への援助 ・終末期がん患者の看護 ・がん患者を取り巻く倫理的問題と看護	
専門科目	療養支援看護学	療養支援論:感染	<授業形態>演習 <目標>ヒトと微生物の関係、ヒトの感染防御機構や免疫獲得過程、人生各期に多い感染症の特徴を理解して、感染予防方法について学ばせる。また、病院感染の要因や様相を理解させ、感染予防や感染管理における看護職者の役割や活動について学ばせる。さらに、演習を通して感染予防技術の意義を学ばせるとともに易感染患者や感染症患者の看護の必要性について学ばせる。 <授業計画の概要> ・ヒトの感染防御機構と免疫の獲得過程 ・感染予防の原則と方法 ・感染予防技術の意義 ・ライフサイクル各期に多い感染症 ・感染症患者の看護 ・易感染患者の看護 ・診療に伴う感染症発症のリスクとその予防 ・今日の入院患者と病院感染の特徴	
専門科目	療養支援看護学	療養支援看護学実習:急性	<授業形態>実習 <目標>手術を体験する患者とその家族を対象とし、外科的侵襲に伴う著しい変化と心身両面の回復や社会生活への適応についての諸問題を理解させる。また、患者と看護者の援助関係を基盤に、系統的アプローチによって、QOLの充実に向けて、患者及び家族が療養生活に主体的に取り組めるよう援助を行わせ、看護を実践する基礎能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・手術を受ける患者の全体像をふまえて身体症状、心理・社会的影響に対応した援助を行う ・手術室・集中治療室（ICU）における看護について見学・実習を行う ・術後の経過に伴う身体症状・日常生活の規制に対応した援助を行う ・退院後の生活の中で予測される身体・心理・社会的問題に対処できるよう援助を行う	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	療養支援看護学	療養支援看護学実習：慢性	<授業形態>実習 <目標>生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする患者と家族を対象に、健康レベルに応じて、健康上の諸問題について理解させる。慢性病患者と看護者の援助関係を基盤に系統的アプローチによって、心身両面の回復や社会生活への適応、QOLの充実に向けて、慢性病患者と家族が療養生活に主体的に取り組めるよう援助を行わせ、看護を实践する基礎能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・慢性病患者の身体的・心理的・社会的状態を理解し、患者と家族がQOLの充実に向けて療養生活を主体的に送れるよう援助する。	
専門科目	生活支援看護学	生活支援看護学概論：老年	<授業形態>講義 <目標>加齢に伴う心身の機能低下や複合的な病態像、社会的な役割変化等の老年期の特徴を踏まえて、高齢者の健康と生活を多角的かつ総合的に理解するための基本的な視点や理論を学ばせる。また、高齢者の尊厳を守り、個々人の潜在能力を最大限に引き出すための看護のあり方、高齢者ケアシステムにおける看護の役割等、高齢者看護の展開の基礎となる考え方を学習させる。 <授業計画の概要> ・老年期の特徴 ・高齢者の健康と生活の基本的な視点や理論 ・高齢者の看護のあり方 ・高齢者ケアシステムにおける看護の役割等	
専門科目	生活支援看護学	生活支援看護学概論：在宅	<授業形態>講義 <目標>地域で療養生活を維持・支援するための在宅看護について学ばせる。在宅看護の対象となる療養者と家族を理解させる。在宅看護の提供システムや制度等について理解させる。在宅看護における移行支援及び連携活動、訪問看護ステーションについて理解させる。 <授業計画の概要> ・在宅看護における活動理念、歴史・文化的背景、生活環境 ・生活支援諸システム及び活用理論 ・療養者と家族の理解、生活の理念と場 ・在宅看護の提供システムや制度、ケアマネジメント等 ・在宅看護における移行支援及び連携活動、訪問看護ステーションの運営・管理、倫理等	
専門科目	生活支援看護学	生活支援看護学概論：精神	<授業形態>講義 <目標>精神的健康問題、精神疾患、精神障害から生じる「生活のしづらさ」を抱えている人及びその人と関連する人や環境を対象にし、生活の立て直しや生活のしづらさを援助するための理論、方法、技術、対象者理解、精神機能と生活、精神医療・福祉の変遷、精神医療における倫理的側面等について、その概略を学ばせる。 <授業計画の概要> ・生活のしづらさを援助するための理論、方法、技術 ・対象者理解、精神機能と生活 ・精神医療・福祉の変遷、精神医療における倫理的側面等	
専門科目	生活支援看護学	生活支援論：老年Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>加齢に伴う疾病・障害を持ちながら生活する高齢者と家族について総合的に理解させる。 <授業計画の概要> ・高齢者を取り巻く身体的・心理的・社会的な状況から発生しやすい生活障害の特徴 ・QOLを高める看護援助のあり方 ・高齢者及び家族とのパートナーシップ ・持てる力を最大限に発揮できる環境、自己決定を支援する看護援助方法	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生活支援看護学	生活支援論:老年Ⅱ	<授業形態> 演習 <目標> 高齢者及び家族とのパートナーシップを築くことを基盤として、持てる力を最大限に発揮できる環境を整え、自己決定を支援するための看護援助方法について学ばせる。さらに、高齢者を取り巻くケアシステムを理解させ、病院、施設、在宅で生活する高齢者と家族の健康生活を支援する看護展開について学習させる。 <授業計画の概要> ・高齢者を取り巻くケアシステム ・病院、施設、在宅で生活する高齢者と家族の健康生活を支援する看護展開	
専門科目	生活支援看護学	生活支援論:在宅Ⅰ	<授業形態> 演習 <目標> 療養者と家族の生活を支える様々な社会資源とその役割について理解させ、サービス調整を含むケアマネジメントとチームアプローチの方法について学習させる。また、対象別訪問看護の実践について理解させ、在宅看護活動のあり方を総合的に学習させる。 <授業計画の概要> ・療養者と家族の生活を支える様々な社会資源とその役割 ・サービス調整を含むケアマネジメントとチームアプローチの方法 ・難病患者、ターミナルケア、小児患者、認知症および精神疾患患者等の対象別訪問看護の実践	
専門科目	生活支援看護学	生活支援論:在宅Ⅱ	<授業形態> 演習 <目標> 在宅看護で必要となる訪問時のコミュニケーション技術をはじめ、在宅看護場面で必要となる医療処置に伴う援助技術について学習させる。また、事例展開を通し、看護展開の一連のプロセスを学習させる。 <授業計画の概要> ・訪問時のコミュニケーション技術 ・在宅呼吸管理、在宅経管栄養、在宅褥創処置等の援助技術 ・事例展開を通じた看護展開の一連のプロセス	
専門科目	生活支援看護学	生活支援論:精神Ⅰ	<授業形態> 演習 <目標> メンタルヘルス、及び精神疾患患者への看護に関する基礎理論を学ばせ、対象となる人々の理解やアプローチの方法を考えることにより、精神看護学の基本的概念について主体的な学びを通して理解を深めさせる。また、その学習を通して学生が自身の精神的健康に日頃から取り組むさせる。 <授業計画の概要> ・メンタルヘルス、及び精神疾患患者への看護に関する基礎理論 ・対象となる人々の理解やアプローチの方法 ・精神看護学の基本的概念	
専門科目	生活支援看護学	生活支援論:精神Ⅱ	<授業形態> 演習 <目標> 既習の精神医学や諸理論と関連づけ、精神の健康問題を抱える人々とその家族へ多側面から援助が展開できるよう精神疾患患者への看護を学ばせる。また、学生自身が事例を用い看護過程を展開することで、日常生活援助の中で行われる、精神の健康問題を抱える人々とその家族への精神科看護の役割を考察できる力を養わせる。 <授業計画の概要> ・精神の健康問題を抱える人々とその家族への多側面からの援助の展開 ・事例を用いた看護過程を展開 ・精神の健康問題を抱える人々とその家族への精神科看護の役割	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生活支援看護学	生活支援看護学実習：老年	<授業形態>実習 <目標>高齢者の総合的な理解に基づく看護実践を通して、その人らしい生活の実現に向けた看護を展開する能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・身体的・心理的・社会的な視点からの高齢者の総合的な理解 ・対象者のニーズに応じた看護実践を通じた高齢者の主体的な生活を支援する老年看護のあり方 ・チームアプローチの実践、ケアチームにおける看護の役割 ・老年看護における倫理的課題	
専門科目	生活支援看護学	生活援助実習	<授業形態>実習 <目標>地域のさまざまな場で生活する人々への看護実践活動について理解する。 <授業計画の概要> ・地域で生活する人々にかかわる保健・福祉機関についての理解 ・保健・福祉機関を利用する人々の健康問題への支援	
専門科目	生活支援看護学	生活支援看護学実習：在宅	<授業形態>実習 <目標>在宅看護に関する講義・演習で学んだ知識・技術を基盤に、在宅療養者とその家族の健康状態と生活、看護上の問題を明確にさせ、看護過程を展開できる能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・地域の療養者と家族への看護活動を通じた地域ケアシステムの理解 ・看護の機能と役割 ・訪問看護ステーションにおける看護活動の実践 ・在宅療養者とその家族の健康状態と生活、看護上の問題の明確化、看護過程の展開	
専門科目	生活支援看護学	生活支援看護学実習：精神	<授業形態>実習 <目標>精神科病院での実習を通し、対象となる人々に関心を注ぎながら、精神的健康が生活に与える影響を理解、必要な援助を見いだし、実践できる能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・精神的健康が生活に与える影響の理解、必要な援助の実践 ・臨床における看護職の機能と役割 ・デイケア施設の機能と役割 ・地域社会で生活する上での諸問題やそれに対する必要な援助	
専門科目	生活支援看護学	公衆衛生看護学概論	<授業形態>講義 <目標>家庭や地域といった生活の場を基盤として、人間発達のあらゆる段階、疾病や障害のあらゆる状態にある個人・家族、集団、地域を対象とする看護について学ばせる。 <授業計画の概要> ・地域看護の理念、歴史的背景 ・活動の基盤となる概念 ・基本的な活用理論 ・病院・施設における看護と地域における看護の違い	
専門科目	生活支援看護学	公衆衛生看護学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>地域看護の活動方法について学ばせる。また、地域で生活する人々の保健活動がどのようなヘルスケアシステムの中で実施されているかを理解させる。地域のケアシステム及び社会資源について理解させる。 <授業計画の概要> ・保健指導、健康相談、健康教育、地区組織化活動 ・ライフステージ別、健康レベル別ヘルスケアシステム ・病院・施設における看護と地域における看護の継続性及び連携の重要性	

授 業 科 目 の 概 要				
（地域保健学域看護学類）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生活 支援 看護学	公衆衛生看護学Ⅱ	<授業形態> 演習 <目標> 個別支援の活動方法である訪問指導、集団支援の活動方法である健康教育について演習を通して学ばせ、実習を通して実際に展開できる能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・訪問指導のアセスメント、計画、実施と評価 ・健康教育の企画、計画書の作成、教材作成、発表と評価	
専門科目	生活 支援 看護学	公衆衛生看護学Ⅲ	<授業形態> 演習 <目標> 地域における対象（個人・家族、集団、地域）をとらえる方法である地域診断について学ばせる。さらに、地域における保健活動の展開方法のプロセスを理解させる。実習を通して実際に展開できる能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・地区踏査の実施、地域の人口動態等の既存資料の収集・活用を通じた地域診断に必要なデータ収集・整理 ・保健活動の展開（情報収集、アセスメント、計画、実施、評価）	集中
専門科目	生活 支援 看護学	保健医療福祉行政論	<授業形態> 講義 <目標> 拡大する保健師の活動分野において、健康に関する政策・施策の立案、関係機関・関係者との連携・調整が重要になってきている。その基盤である、地域で実施される事業についての法律、制度、政策、行政課題である保健計画の基本的な考え方、作成過程、推進、評価について学ばせる <授業計画の概要> ・その基盤である、地域で実施される事業についての法律、制度、政策、行政課題である保健計画の基本的な考え方、作成過程、推進、評価について学ばせる	
専門科目	生活 支援 看護学	公衆衛生看護学実習	<授業形態> 実習 <目標> 地域における公衆衛生看護の実践機関である保健所・保健センターについて理解させるとともに、地域特性をふまえた地域における保健活動の展開方法のプロセスを主体的に体験して学ばせる。さらに、地域における保健・医療・福祉の連携の実際について理解させる。また、学校や産業の場における保健活動について理解させる。 <授業計画の概要> ・保健所・保健センターの機能・役割 ・個人・家族、集団、地域を対象としての地域における保健活動の展開（情報収集、アセスメント、計画、実施、評価） ・地域における保健・医療・福祉の関係機関との連携の実際 ・学校や産業の場における保健活動	
専門科目	家族 支援 看護学	家族支援看護学概論：母性	<授業形態> 講義 <目標> 本講義では、女性のライフスタイルが社会変化の様々な要因の影響により変容することを学習させた上で、女性のライフサイクル各期における健康課題について考えさせる。さらに、リプロダクティブヘルスライツについての理解を深め、母性看護の機能と果たすべき役割を理解させる。 <授業計画の概要> ・母性とは、母性看護の対象・目的・根底にある考え方 ・母性・父性の発達 ・ライフサイクル各期にある女性・家族の健康課題と看護 ・女性と家族を取り巻く環境と健康問題	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	家族支援看護学	家族支援看護学概論:小児	<授業形態>講義 <目標>急速に進行している超少子高齢化の中で、あらゆる健康のレベルにある子どもを健やかに育てることは、小児看護の課題である。本講義では、現代の社会環境の変化が子どもに与える影響を捉えると共に、子どもの発育や成長発達段階、親子関係に対する理論を理解させる。さらに、小児看護学の歴史、子どもの人権に対する理解を深め、子どもと家族を取り巻く小児医療・看護の課題についても考察できる力を養わせる。 <授業計画の概要> ・子ども観の変遷と小児看護学 ・小児医療における子どもの権利 ・発達理論：概観	
専門科目	家族支援看護学	家族看護論	<授業形態>講義 <目標>家族看護論では、家族を看護するために、社会の変化に伴う家族形態・機能の変容、それらが家族の健康及び家族のライフサイクルに及ぼす影響など「家族」について学ばせ、家族を対象にした看護を展開するために必要な家族看護の概念・定義、健康問題のある家族のアセスメント、介入に必要な理論と方法を学習させることから、家族看護の役割を理解させ、基礎的知識を習得させる。 <授業計画の概要> ・家族の概念/家族の機能/家族の発達段階と課題 ・家族の健康、家族援助の目標 ・家族看護の諸理論 ・家族を含めた看護ケア技術	
専門科目	家族支援看護学	家族支援論:母性Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>家族支援看護学概論：母性で習得した基礎知識をもとに、妊娠、分娩、育児というライフサイクルの移行期にある周産期の母子（胎児）と家族に焦点をあて、対象の特性と適応過程を理解させる。移行期にある母子と家族の健康課題を明確にし、対象のウェルネスに向けた看護援助の必要性について学習させる。さらに、現在の周産期医療における看護の課題と期待される看護師の役割を考えさせる。 <授業計画の概要> ・妊娠期の身体的、心理的、社会的特性 ・産褥期の身体的、心理的、社会的特性 ・新生児の生理的特性と適応過程	
専門科目	家族支援看護学	家族支援論:母性Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>家族支援論：母性Ⅰを基盤として、周産期にある母子（胎児）と家族の健康課題について、母子と家族のウェルネス、ヘルスプロモーション、セルフケアの視点から、個々の母子と家族の状況に応じた具体的な看護実践の方法や他職種との協働について学習させる。また、家族関係・家族機能の調整、役割獲得過程、家族の意志決定への看護援助について理解を深めさせる。 <授業計画の概要> ・妊婦のアセスメント演習 ・CTGモニタリング判読演習 ・褥婦と新生児のアセスメント演習 ・事例に基づく看護過程の展開	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	家族支援看護学	家族支援論：小児Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>家族支援看護学概論：小児で習得した子どもの成長発達に関する基礎知識をもとに、子どもの成長発達段階に応じた日常生活援助について学習させる。また、健康障害や入院が子どもの成長発達や日常生活、家族に及ぼす影響を理解した上で、子どものフィジカルアセスメントのあり方、子どもに特徴的な症状や健康障害の状況を踏まえた看護援助についての理解を深めさせる。 <授業計画の概要> ・発達段階別子どもの養育 ・子どもと家族の入院生活 ・子どものフィジカルアセスメント	
専門科目	家族支援看護学	家族支援論：小児Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>家族支援論・小児Ⅰを基盤として、健康障害のある子どもとその家族の健康課題に対する看護援助について、統合的なアセスメントのあり方、看護実践の具体的方法、子どもの特殊看護技術、多職種との協働や社会資源に対する理解を深めさせる。また、事例展開を通して看護展開の一連のプロセスを学習させるとともに子どもとその家族への小児看護の役割を考察できる力を養わせる。 <授業計画の概要> ・健康障害を抱えた子どもと家族のケア ・グループワークによる事例展開 ・小児の特殊看護技術演習	
専門科目	家族支援看護学	家族支援看護学実習：母性	<授業形態>実習 <目標>周産期にある母子とその家族を対象として、ウェルネス、ヘルスプロモーション、セルフケアの視点から対象の健康課題をとらえ、母子とその家族の個別的な特徴を踏まえた看護実践に必要な基礎的能力を養わせる。また、周産期にある母子とその家族へのケアを通して、女性や家族にとっての出産の意味、周産期医療の倫理的課題、母性・父性・親性について考察させる。 <授業計画の概要> ・受け持ち事例による周産期にある母子と家族に対する看護実践 妊婦健康診査の見学 分娩見学を含む ・事例発表による看護実践に対するディスカッション	
専門科目	家族支援看護学	家族支援看護学実習：小児	<授業形態>実習 <目標>臨地実習では、講義や演習で学習した既習の知識を統合して子どもを全人的にとらえ、子どもと家族が生き生きと生活できるための看護を実践する基礎的能力を養わせる。入院している子どもと家族への関わりを通して、個々の成長発達や健康レベルを科学的根拠に基づいてアセスメントを行い、子どもと家族のニーズを抽出し、看護計画の立案し、計画に基づいて実践し、評価できる基礎的能力を養わせる。さらに、看護過程の展開を通じて、利用可能な社会資源や他職種との連携における看護師の役割を考察させる。 <授業計画の概要> ・学生は教員、実習指導者の指導の下で、入院中の子どもとその家族に対して看護を実践する。	
専門科目	家族支援看護学	基礎助産学	<授業形態>講義 <目標>助産師は性と生殖に焦点をあてて女性とその家族を支援する専門職であることを理解させ、助産の歴史や教育の変遷とともに変化する助産の概念、助産活動の対象、展開の場、内容及び助産倫理について学習させる。さらに助産活動に必要なチーム医療や関係機関、関連職種との調整・連携について学習させ、助産活動の今後の方向性を考察させる。 <授業計画の概要> ・助産の概念(対象、展開の場、看護職における助産の位置づけ) ・助産業務の独自性 ・助産師の教育、助産に関する研究 ・助産に関わる倫理的問題	

授 業 科 目 の 概 要			
（地域保健学域看護学類）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	家族支援看護学	助産診断技術学Ⅰ	
		＜授業形態＞演習 ＜目標＞女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康課題・問題について、対象の身体的・心理社会的健康状態のアセスメントと支援に必要な知識、相談・教育・援助技術の原理や方法の基礎を学ばせる。また、家族計画に指導に必要な受胎調節に関する知識・技術を習得させる。 ＜授業計画の概要＞ ・助産診断・技術の考え方 ・妊娠経過〔初期・中期・末期〕のアセスメントとケア ・助産過程の展開、妊婦への健康教育案作成と発表 ・家族計画と受胎調節	
専門科目	家族支援看護学	助産診断技術学Ⅱ	集中
		＜授業形態＞演習 ＜目標＞マタニティサイクル上にある妊産婦と児とその家族に焦点をあてて、対象の身体的、心理社会的健康状態について、正常経過とその逸脱の判断に必要な知識を統合し、診断・アセスメントする方法を理解させる。また分娩各期、新生児期のアセスメントとケア、分娩介助、新生児蘇生に関する基本的な助産技術を習得させる。 ＜授業計画の概要＞（集中授業） ・分娩期の診断の特徴、視点 ・分娩第1期～第4期の診断とケア ・出生直後の新生児の診断とケア ・P B L事例展開演習と分娩介助技術演習	
専門科目	家族支援看護学	助産管理	集中
		＜授業形態＞講義（ただし助産所での演習を1日含む） ＜目標＞看護職の中で、唯一開業権を持つのが助産師であることを踏まえ、助産師業務に付随する法的責任を学ぶとともに、病院及び助産所において医療安全を確保しながら助産師業務を効果的、効率的に遂行するための管理について学ばせる。また、医療事故への対応について学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ ・助産管理の概念 ・助産管理の特性 ・病院における助産業務管理 ・助産所における助産業務管理	
専門科目	家族支援看護学	助産学実習	
		＜授業形態＞臨地実習 ＜目標＞助産に関連する既習科目で学んだ知識、技術を統合し、マタニティサイクル上にある妊婦・産婦・褥婦と胎児・新生児及びその家族に焦点をあてて、助産を実践する基礎的能力を養わせる。特に妊娠期から産褥期を通して正常経過からの逸脱の可能性及び健康生活に関わるウェルネスに基づくアセスメントと、正常経過あるいは健康生活を維持していくための支援を行わせる。また、病院・助産所における助産業務管理の実践を学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ ・病院において10例程度の分娩介助実習を行う ・周産期における援助 分娩第1期～分娩第4期の経過観察とケアを行う ・病院・助産所における助産業務管理の実践を学ぶ ・他機関、他部門、多職種との連携の必要性、社会資源について学ぶ	
専門科目	看護の統合と実践	研究方法論	集中
		＜授業形態＞講義 ＜目標＞総合研究の先行科目として位置づけられた科目である。看護における研究の意義、目的、研究デザイン、データ収集方法、文献検討や計画書の作成など研究過程の概要を学習させる。また自分が持つ看護実践上の疑問や問いを明らかにしていく方法、文献のクリティークの実践などを学ばせ、総合研究への基礎とさせる。その学習過程のなかで看護研究に取り組む必要性、基本的態度と基礎的知識を習得させる。 ＜授業計画の概要＞ ・研究の意義、研究過程の概要 ・看護実践上の疑問や問いを明らかにしていく方法 ・文献のクリティークの実践	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護 の統 合と 実践	総合研究	<授業形態>実習・実験 <目標>これまでに習得した様々な領域の臨地での実習と、既習の看護専門科目を統合させて、看護実践を科学的に思考できる能力を養い、将来の研究活動のための基盤となる能力を身につける。 学生が臨地実習で関心を持った看護領域で見いだした課題に対して、臨地での実習指導者の指導・協力を得て、本科目の所定の実習期間内に課題解決のための看護実践を行う。さらに、担当教員の指導で課題に対して研究的なまとめをし、指導教員及び実習指導者の参加を得て研究の成果を発表する。なお、課題研究に付随する文献検討、報告書の作成に関しては、学生が自主的に取り組むものとする。 <授業計画の概要> ・課題に対しての課題解決のための看護実践 ・課題に対しての研究的なまとめ ・研究成果の発表	
専門 科目	看護 の統 合と 実践	国際保健	<授業形態>講義 <目標>諸外国における保健・医療・看護従事者教育や保健医療看護実践活動について学ばせ、保健医療看護についてグローバルな視野を養わせる。また、異文化社会での看護活動経験者等から、発展途上国を支援するための保健医療看護実践活動、国際保健医療協力等、国際協力活動に携わる保健医療看護職の活動実態や課題、今後のあり方等について学ばせる。さらに、国際ボランティア組織や活動等についても理解させる。 <授業計画の概要> ・諸外国における保健・医療・看護従事者教育や保健医療看護実践活動 ・発展途上国を支援するための保健医療看護実践活動、国際保健医療協力等 ・国際協力活動に携わる保健医療看護職の活動実態や課題、今後のあり方 ・国際ボランティア組織や活動等	
専門 科目	看護 の統 合と 実践	災害支援看護論	<授業形態>講義 <目標>災害の発生直後から、混乱期、安定期、撤退期等時系列的に地域内で住民の間に発生する様々な健康障害・環境問題と保健・医療・福祉行政の問題と対応・対策、さらに看護職に求められる役割や救護スタッフ活動について、時系列的に学ばせる。また、災害発生時の地域住民主体の対処システムの構築、ボランティア組織と活動支援等について学ばせる。さらに災害被災者と救護者のストレスとそれへの対処について学ばせる。 <授業計画の概要> ・災害により地域内で住民の間に発生する様々な健康障害・環境問題 ・保健・医療・福祉行政の問題と対応・対策 ・看護職に求められる役割や救護スタッフ活動 ・災害発生時の地域住民主体の対処システムの構築、ボランティア組織と活動支援等 ・災害被災者と救護者のストレスとそれへの対処	
専門 科目	看護 の統 合と 実践	セクシュアリティと看護	<授業形態>講義 <目標>セクシュアリティの概念について学ばせるとともに、人間の性、生き方を洞察しながら、各自のセクシュアリティ観を育ませる。さらに看護職者としてさまざまなライフサイクル及び健康レベルにある人々のセクシュアリティとその看護について考えさせる。 <授業計画の概要> ・セクシュアリティの概念 ・セクシュアリティ観の育成 ・さまざまなライフサイクル及び健康レベルにある人々のセクシュアリティとその看護	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域保健学域看護学類)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	看護 の統 合と 実践	看護援助論	<授業形態>講義 <目標>健康な状態から病気を得て入院した場合の患者や家族への看護援助のあり方、その対象者が入院治療が終了して在宅療養に移行したときの看護援助のあり方について、同じ患者を想定したデジタルコンテンツ事例を分析していくことで、健康問題をもつ対象者の生活の場の変化に対応した看護を継続して提供できる能力を養わせる。eラーニングと演習を用いて、学習を行なわせる。 <授業計画の概要> ・健康な状態から病気を得て入院した場合の患者や家族への看護援助のあり方 ・在宅療養に移行したときの看護援助のあり方 ・生活の場の変化に対応した継続した看護の提供	
専門 科目	看護 の統 合と 実践	総合実習	<授業形態>実習 <目標>専門分野での実習を踏まえ、実務に即した実習を行なうことで、看護技術の総合的な評価を行う内容とする。加えてチーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する内容とし、看護をマネジメントできる基礎的能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・看護技術の総合的な評価を行う内容 ・チーム医療及び他職種との協働 ・看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップ ・看護のマネジメント	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域保健学域 総合リハビリテーション学類 理学療法学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	形態機能学Ⅰ	＜授業形態＞講義・演習 ＜目標＞人体は誕生、成長、活動、病み、老い、死に至る有限の動物である。生物はこの過程を繰り返すことで、種を維持する。本講義では、生物としての人間、その営み、生命現象について論理的な思考を形成する。また、主として、身体の調節系と統御系の視点から、人間の生物学的更生と機能を相互に学習し、日常生活を可能にしている身体の機構と意義について考察する。 ＜授業計画の概要＞ ・身体のあらまし ・顕微鏡実験 ・神経系、消化器系、泌尿器系の構造と機能 ・感覚について ・血液とリンパ	講義 15時間 演習 30時間
専門 基礎 科目	形態機能学Ⅱ	＜授業形態＞講義・演習 ＜目標＞本講義では、器官系の働きを学習する。器官系はそれぞれ独立して機能するのではなく、神経系、ホルモン等の物質でその活動が調節されていることを理解させる。器官の傷害は人間の生命活動に大きな影響を与えるので、器官に関する知識の獲得は、人間の健康状態を判断するために必要である。その延長線上には、病態生理の理解、疾病の解釈、病気を持つ人々への援助があることを理解させる。 ＜授業計画の概要＞ ・循環器系、呼吸器系の構造と機能 ・電解質と体液、ホルモン ・生殖器系と発生 ・骨格と関節	講義 15時間 演習 30時間
専門 基礎 科目	形態機能学Ⅲ	＜授業形態＞講義・演習 ＜目標＞人体の構造と機能について全身の運動器（骨・関節・筋）並びに末梢神経を中心にマクロ的に詳細に講義し、体表から深部の骨や筋、末梢神経の走行を的確に把握させる。また筋収縮によって起こる身体運動の方向を理解し、拮抗筋や共同筋の相互作用についても構造的に解説する。ミクロ的には骨や筋・靱帯等の顕微鏡観察を行い、各組織の正常な微細構造を理解することにより運動時や疾患時に発現する様々な現象について組織レベルでの検討につなげる。 ＜授業計画の概要＞ ・運動器系と末梢神経系 ・顕微鏡実験 ・関節運動と筋	講義 15時間 演習 30時間
専門 基礎 科目	形態機能学実習	＜授業形態＞実習 ＜目標＞人体の生理機能について実習をとおして生体への理解をはかる。動物標本を用いた生理実験や生体反応をみることにより理解を深める。またデータの取り方やレポートの書き方についても学ぶ。 ＜授業計画の概要＞ ・神経の興奮と伝達のしくみ ・神経伝導の電気生理的観察および薬理的調節による変化 ・骨格筋の収縮の機構と収縮時に発生する電氣的興奮 ・体性感覚と中枢神経・脊髄での反射、受容 ・心臓の機能と循環 ・呼吸機能	講義 15時間 実習 45時間
専門 基礎 科目	基礎運動学	＜授業形態＞演習 ＜目標＞主に正常な身体運動を理解させることを目標とし、身体各部位の運動の特徴を系統的に教授する。四肢・体幹および各関節の構造と機能を解説した後、起立、歩行等の基本的動作を中心に人間の諸動作を分析し、それが身体の各分節の絶妙な連携によって成り立っていることを理解させる。また、運動制御の中枢神経機構についても考察する。 ＜授業計画の概要＞ ・運動学用語の解説 ・人体の構造・機能と運動学 ・身体各分節の運動と動作との関連、分析方法 ・運動連鎖と運動制御	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	基礎運動学実習 A	<授業形態>実習 <目標>運動学で学んだ知識を、実際に身体運動を観察・触察することによりさらに深め、理学療法評価や治療の基礎とすることを目標とする。関節運動や筋活動を実際に確認し、身体各部の運動による身体重心の移動と各部位間の相互の影響を理解させる。さらに、姿勢や歩行等の基本動作を様々な動作分析機器を用いて計測する方法と得られた数値の意味について理解させる。 <授業計画の概要> ・四肢・体幹の運動観察および触察 ・筋電図、三次元動作解析装置などを用いた運動解析実習	
専門基礎科目	微生物学総論	<授業形態>講義 <目標>自然界には肉眼では見えないほど小さな多種類の微生物（細菌、真菌、原虫、ウイルス）が生息しており、その多くはヒトには無害であるが、なかには有益なもの、あるいはヒトや動物に病気を起こすもの（病原微生物）もある。本講義では、これらの微生物に共通する性質や疾病を引き起こす代表的な微生物について教授し、感染症についても概説する。 <授業計画の概要> ・微生物学の基礎 ・感染と感染症 ・感染症の種類 ・感染に対する生体防御機構 ・感染症の予防・診断・治療	
専門基礎科目	薬理学総論	<授業形態>講義 <目標>医薬品には副作用や薬物中毒などの好ましくない作用がある。本講義では、医薬品が人体の生理機構のなかで、どのように作用するかを解説し、使用方法など医療職者が知っておくべき医薬品の基礎知識を学ばせる。 <授業計画の概要> ・薬物作用と受容体、薬効に影響を与える因子 ・薬物の体内動態、薬物相互作用など ・自律神経系と体性神経系の機能 ・交感神経系・副交感神経系興奮薬と遮断薬 ・オータコイド ・心臓・血管系、中枢神経系に作用する薬物	
専門基礎科目	病理学総論	<授業形態>講義 <目標>本講義では、病理学の医学における位置づけを教授し、病理学そのものの性格を説明する。そして、疾病を病因の観点から説明し、また、疾病の基本である病変を奇形、代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍の6つに分類し、それぞれについて視聴覚教材等を用いて講義する。あわせて各々の病変の代表的な疾患についても解説する。 <授業計画の概要> ・病理学の意義と役割 ・細胞障害の機序とその修復 ・炎症 ・感染症、免疫異常、代謝障害、循環障害、染色体・遺伝子及び発生異常、腫瘍	
専門基礎科目	内科学 I	<授業形態>演習 <目標>代表的な内科系疾患の原因や病態の理解、リスク管理などに必要な症候学、病態生理学や臨床検査データの理解、感染症予防のための基本的事項の理解とともに、一般的な治療方法についても理解させることを目標とする。本講義では、主に循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患などを中心に講義する。 <授業計画の概要> ・内科学の概念 ・診断と治療の実際 ・症候学 ・循環器疾患 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患 ・肝胆膵疾患	
専門基礎科目	内科学 II	<授業形態>演習 <目標>代表的な内科系疾患の原因や病態の理解、リスク管理などに必要な症候学、病態生理学や臨床検査データの理解、感染症予防のための基本的事項の理解とともに、一般的な治療方法についても理解させることを目標とする。本講義では、主に代謝系疾患、免疫疾患、感染症疾患などを中心に講義する。 <授業計画の概要> ・血液・造血器疾患 ・代謝性疾患 ・内分泌疾患 ・腎・泌尿器疾患 ・膠原病・アレルギー疾患・免疫不全 ・中毒および環境要因による疾患	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	小児・高齢医学	＜授業形態＞演習 ＜目標＞人間のライフステージにおける初期段階としての周産期・小児期と、最終段階としての高齢期に焦点をあて、それぞれのステージにおける身体特性と疾患特性について教授する。 ＜授業計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） （109 落合 利佳／7回） 小児期における発達、先天異常、新生児、神経等の分野から、小児の疾患・障害の原因、付随する問題点の病態に関する基本事項を講義する。 （98 阿部 和夫／8回） 高齢期における加齢に伴う身体および精神的側面の変化と特徴的疾患について概説し、これら疾患・障害の原因ならびに対処法に関する基本事項を講義する。	オムニバス
専門基礎科目	整形外科学Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞整形外科疾患の原因や病態、検査データをもとにした診断や画像診断、治療等に関して系統的に教授することで、運動器系障害の基礎的知識を十分に習得させ、理学療法および作業療法の評価・治療に展開させる。本講義では、保存的治療と観血的治療という代表的整形外科的治療法を概説した上で、外傷、関節リウマチ、変形性関節症、骨系統疾患、代謝性骨疾患等について総論的に教授する。 ＜授業計画の概要＞ ・歴史、筋骨格系組織の生理学について ・骨折と脱臼 ・骨と関節の感染症 ・関節リウマチ、壊死性骨疾患、骨系統疾患、腫瘍ほか	
専門基礎科目	整形外科学Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞整形外科疾患の原因や病態、検査データをもとにした診断や画像診断、治療等に関して身体部位ごとに各論的に教授することで、運動器系障害の基礎的知識を十分に習得させ、理学療法および作業療法の評価・治療に展開させる。本講義では、運動器疾患の具体例を呈示し、その対応について理解させることを目標とする。 ＜授業計画の概要＞ ・身体部位ごとの運動器疾患各論 ・スポーツと整形外科疾患 ・運動器疾患とリハビリテーション	
専門基礎科目	神経内科学Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞神経疾患の全体像を体系的に捉えるとともに、各疾患の病態と検査、診断、治療に関する基本的知識を習得させることを目標とする。 神経内科学Ⅰでは、総論的に中枢神経系および末梢神経系の解剖生理学的知識を踏まえた神経症候学を解説し、各種の代表的疾患の原因ならびに病変局部位と症候の対応を理解させ、解剖・機能画像、神経生理検査ほかの臨床検査をもとにした診断ならびに治療についての基本事項を教授する。 ＜授業計画の概要＞ ・中枢神経系および末梢神経系の神経症候学 ・各種代表疾患の原因ならびに病変部位 ・各種代表疾患の診断ならびに治療の概要	
専門基礎科目	神経内科学Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞神経疾患の全体像を体系的に捉えるとともに、各疾患の病態と検査、診断、治療に関する基本的知識を修得させることを目標とする。中枢神経系および末梢神経系における腫瘍・免疫疾患・変性疾患等の代表的疾患の原因ならびに病変局部位と症候の対応を理解させ、神経解剖・機能画像、神経生理検査等をもとにした診断ならびに治療についての基本事項を教授し、リハビリテーション治療の基礎となる知識を修得させる。 ＜授業計画の概要＞ ・変性疾患 ・脱髄疾患、免疫疾患 ・脳腫瘍	
専門基礎科目	精神医学Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞精神疾患の全体像を体系的に捉えるとともに、各疾患の病態と検査、診断、治療に関する基本的知識を習得させることを目標とする。 精神医学の歴史を概説し、他の医学分野と異なる方法論的特性を有することを理解させ、基本的な精神症候学を学ばせたうえで、統合失調症・気分障害・神経症・人格障害・発達障害・摂食障害・物質関連性障害・てんかん・認知症・睡眠障害に関する基本的知識を教授する。 ＜授業計画の概要＞ ・精神医学の歴史 ・統合失調症、気分障害、神経症、人格障害 ・発達障害、摂食障害 ・物質関連性障害 ・てんかん、認知症、睡眠障害	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目		リハビリテーション医学	<授業形態>演習 <目標>各種の機能障害の基礎的知識、さらにリハビリテーション医療の対象となる主な疾患の障害像と治療について理解させることを目標とする。リハビリテーションを進める上で重要な一次的の機能障害ならびに二次性の障害の代表である廃用症候群の発生機序とその治療・予防について演習課題を交えながら教授する。 <授業計画の概要> ・代表的な対象疾患の概要 ・各種疾患のリハビリテーション（中枢神経疾患、運動器疾患、内部疾患等）	
		人間発達学	<授業形態>演習 <目標>人の人格形成には、身体の成長とともに、精神面での発達が年齢に応じて成長することが重要である。人間発達学は、この成長の過程ならびに退行期の特徴を医療職者として、知識を習得する必要がある。本講義では、身体面、心理面や社会性などの形成過程において発生する問題を理解させ、人としての成長の度合いを観察する力を養わせる。 <授業計画の概要> ・「人間発達」とは ・胎児期、周産期 ・新生児期・乳児期 ・乳児期・幼児期・児童期 ・思春期・青年期 ・成人期・老年期 ・発達臨床	
		臨床心理学	<授業形態>演習 <目標>臨床心理学とは、心理学の応用分野の一つであり、心に悩みをもつ人に対する科学的援助体系である。実践分野としては、心理検査法と心理療法に分かれる。 本講義では、臨床心理学上の基本的な考え方と、実践に用いる基本技法の習得をめざす。また、悩める人を理解し、適切なサポートを実施できる技能と視点の修得、心の健康を維持増進するためのストレスマネジメントの修得もめざす。 <授業計画の概要> ・臨床心理学とは何か ・臨床心理学からみた症状(不安障害、気分障害) ・臨床アセスメントの必要性	
		公衆衛生学B	<授業形態>演習 <目標>健康と社会・環境の関わりについて理解させる。本講義では、人間や人間の生活を生態系の中に位置付け、人間の行動特性と生体維持の基本的メカニズムについて理解させ、社会や環境の変化が健康に与える影響を学ばせる。さらに、健康の概念を解説し、健康の維持増進や疾病予防を社会生活の中で実現するための考え方と方法について理解させる。 <授業計画の概要> ・健康維持増進、疾病予防に関する基礎的な概念 ・公衆衛生の歴史、法制度の変遷 ・領域別保健対策 ・喫煙、飲酒 ・疾病予防のメカニズム	
		リハビリテーション概論	<授業形態>講義 <目標>国内外におけるリハビリテーションの意味、理念、定義とこれらの歴史的変遷について教授するとともに、リハビリテーションを取り巻く最近の動向を詳説し、今後の課題について考察させる。 <授業計画の概要> ・「リハビリテーション」の歴史的変遷（概念、理念、定義、対象、方策等） ・障がい（者）とリハビリテーション ・QOLとリハビリテーション ・リハビリテーションを取り巻く近年の動向と今後の課題	
専門科目	学域共通科目	生命倫理学	<授業形態>講義 <目標>) 生命の「コントロール」をも可能にした高度先端医療には、これまで社会が直面してこなかった問題が発生している。本講義では、医療と生命科学、および生命をめぐる倫理的問題を、生命の尊重とQOL(クオリリティ・オブ・ライフ)の観点を生命倫理の基礎として論じる。そして人としての尊厳を失わず、より良く生き続けることの大切さとこれを支援する専門職者の役割を学ばせる。 <授業計画の概要> ・生命倫理学の基礎 ・QOLの概念 ・人工受精、体外受精 ・安楽死・尊厳死 ・生命に関わる諸問題と専門職者の役割	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学域共通科目	人間支援科学論	＜授業形態＞学域複数教員による集中講義 ＜目標＞人々の健康と福祉の向上に寄与する専門的・協働的实践力の基礎と、人と社会を包括的に捉える視点を身につけさせることを目的に、科学としての人間支援の全体像について学ばせる。講義共通のキーワードとして小児・児童、家族、貧困、患者、高齢者等。 ＜授業計画の概要＞ （オムニバス方式、全8回） (13 今木 雅英／1回)・科学としての人間支援とは何か ・人間支援の多様性と専門性 (17 高見沢恵美子／1回)・患者と家族に対する看護学的支援 (20 檜木野裕美／1回) ・子どもと家族に対する看護学的支援 (14 上野 昌江／1回) ・地域の高齢者に対する看護学的支援 (16 高畑 進一／1回) ・患者と家族に対するリハビリテーション学的支援 (1 奥田 邦晴／1回) ・高齢者、障害者に対するリハビリテーション学的支援 (23 山野 則子／1回) ・子どもと家庭に対する社会福祉的支援と教育的支援 (24 吉田 敦彦／1回) ・高齢者に対する社会福祉的支援と教育的支援	オムニバス
	学域共通科目	コラボレーション論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞人の健康と福祉は多様な側面から成り立ち、各側面は相互に影響しあいながらその全体を形成している。健康と福祉を回復、維持、あるいは育むためには、人が本来持つ強さを活性化する支援が重要であり、そのためには多様な領域の専門性と各領域間の協働が必須となる。本講義では、専門領域や専門職の多様性の理解に基づき、協働の達成に必要な基礎知識を学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ ・専門領域と専門職の多様性 ・協働の意義 ・発展プロセス、促進・阻害要因 ・協働の具体的方法 （他職種間チームワーク、施設・組織間ネットワーク、組織と制度のリンケージ）	
	学域共通科目	コミュニケーション論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞人間は人とのかかわりの中で自己を形成し、成長発達をとげていく。また、他者との意思の相互伝達であるコミュニケーションを基礎に社会は成り立っている。本授業では、コミュニケーションに関する理論を紹介し、医療職者に必要なコミュニケーション技法について学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ ・コミュニケーションの基本理念 ・社会的相互作用とコミュニケーション ・対人コミュニケーションの基礎 ・プログラム学習法を応用した基本的関わり技法の習得	
	学域共通科目	ケアリング論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞ケアリングとは、他者に対する具体的なケア（世話、心づかい）の実践であり、ニーズへの応答や他者への責任、傾聴や許容、ジェンダーといった概念と深く結びついている。本講義では、ケアの理論的基礎と、学域の各専門領域におけるケアリングの意義と課題を学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） (15 児島 亜紀子／3回)・ケアの概念、ケアの倫理 (24 吉田 敦彦／3回)・教育とケア (19 田間 泰子／3回)・家族におけるケアリング、ジェンダーとケア (26 田垣 正普／3回)・軽度障害とケア、障害の経験とケア (27 三田 優子／3回)・精神障害者・知的障害者とケア	オムニバス
	学類共通科目	理学療法学総論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞理学療法学について体系的に理解させることを目標とする。理学療法の歴史的変遷、医療制度・体系における理学療法の位置づけと役割等について教授する。また、各種理学療法手段について概説し、理学療法場面における思考・判断・行動プロセスの概要を教授するとともに、治療原理における運動制御の重要性についても言及する。 ＜授業計画の概要＞ ・理学療法学の基礎、学問的背景 ・理学療法の実践（目的、対象、手段、治療における理論的背景） ・医療機関および福祉機関における理学療法学実践	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類共通科目	作業療法学総論	<授業形態>講義 <目標>作業療法の理念や役割の変遷、日本の保健・医療・福祉・教育・職業関連活動領域における作業療法の役割や今後の活動展開を理解させ、作業療法実践の基礎となる対象者の評価、計画の立案・実施、効果の判定などの必要性を認識させ、専門領域への導入を図る。 <授業計画の概要> ・作業療法の概要 ・作業療法の歴史 ・作業療法の過程と実施 ・作業療法士（専門職）に求められる資質と適性 ・障害体験演習とディスカッション ・作業療法部門の管理と運営	
	学類共通科目	基礎栄養学	<授業形態>講義 <目標>健康の維持増進や疾病の予防、治療、回復において、重要な役割を果たす栄養の意義について理解させる。本講義では、免疫機能や治癒力を向上させる栄養素の概略の解説、栄養素の消化・吸収、栄養素の機能など栄養の働きを学ばせた上で、疾病の治療期や回復期の栄養管理の必要性を理解させる。ついで、エネルギー所要量、栄養所要量の意味と意義を理解させ、その必要量の求め方や策定の基本を学ばせる。 <授業計画の概要> ・栄養の概念と歴史 ・消化と吸収 ・糖質、タンパク質、ビタミンの栄養、無機質の栄養 ・水・電解質の代謝、エネルギー代謝 ・遺伝と栄養	
	学類共通科目	言語療法学	<授業形態>講義 <目標>生活におけるコミュニケーションの意義についての理解に基づき、リハビリテーション対象者に高頻度にみられる失語症、言語発達障害、種々の構音障害などのコミュニケーション（言語）障害の種類と分類、特徴、発生機序および基本的な評価法などを教授する。また、失事例を通して言語障害の有無と障害の程度を評価する方法を紹介し、指導・援助の原則と方法を修得させる。 <授業計画の概要> ・言語と言語障害 ・失語症と種々の構音障害 ・嚥下障害 ・聴力障害 ・対象者（児）との対応	
	学類共通科目	地域リハビリテーション論	<授業形態>講義 <目標>地域社会におけるリハビリテーションについて、その概念や制度に関する知識を深め、今後のあり方について考察させることを目標とする。地域リハビリテーションにおける専門職の役割について教授するとともに、今後の地域リハビリテーションのあり方について考察させる。 <授業計画の概要> ・地域リハビリテーションとは ・地域リハビリテーションの制度と関連専門職の役割、社会資源 ・行政における地域リハビリテーションの歴史的変遷 ・地域リハビリテーション推進事業	
	学類共通科目	救急蘇生法	<授業形態>講義 <目標>救命救急に重要な救急蘇生法についての基本的知識を修得させることを目標とする。臨床現場に出た際に不可欠な救命救急に関する知識を中心に、救急蘇生処置が必要となる状況を理解するために、心原性および非心原性ショックや急性呼吸不全等の病態について教授するとともに、その対処方法である呼吸管理、循環管理、輸液管理の重要性や外傷学についても解説する。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全8回） （132 松尾吉郎／4回）救命救急に関する知識を中心に、初期救急医学に関する内容を講義する。 （119 谷口昌宏／4回）国際蘇生連絡協議会の動向も踏まえた上で、人工呼吸法、心臓マッサージ法を始めとする実際の救急蘇生法および、AEDの原理と使用方法を解説し、蘇生法実習を交えて講義を進める。	オムニバス
	専攻専門科目	医療コミュニケーション論	<授業形態>講義 <目標>将来の医療専門職として、他者理解のために重要なコミュニケーション理論を理解するとともに、コミュニケーションスキルについての理論と基本的手法を修得することを目標とする。医療職として重要な対象者とのコミュニケーション能力を高めるため、一方的に意向を伝えるのではなく対等な関係の下で行われる医療面接の実際を紹介し、演習を交えて講義を進める。 <授業計画の概要> ・医療におけるコミュニケーションの重要性 ・コミュニケーションスキルについて ・医療面接	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	リスクマネジメント論	<授業形態>講義 <目標>保健・医療・福祉におけるヒューマンエラーや組織上の危機および危機管理について、医療専門職者として安全な医療を提供するために必要な、リスクファクターの考え方やリスクコントロール等について理解させることを目標とし、講義形式で授業を行う。具体的には、「安全な医療とは」、「医療におけるリスクとは」等を解説し、それを管理するためのシステムとしてのインシデント報告の具体例を紹介する。また、医療従事者自身の安全を守ることの重要性についても言及する。 <授業計画> （オムニバス方式／全8回） （136 山口 淳／2回）「安全な医療」および「医療におけるリスク」について解説し、システムとしてのリスクマネジメントのあり方を概説する。 （115 塩見一成／3回）主に医療機関におけるリスクの理解と予防、インシデント報告等の問題発見システムについて、具体例を交えて教授する。 （112 北原照代／3回）産業衛生の視点から医療従事者自身のリスク管理の重要性を理解させることを目的に、医療従事者としてのリスクマネジメント、組織としてのリスクマネジメントについて教授する。	オムニバス
	専攻専門科目	理学療法基礎評価学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>理学療法の全過程を通じて必要となる理学療法評価について、身体の形態と機能、日常生活活動、社会的役割等に関する情報から対象者ごとの目標を設定し、目標達成のための理学療法プログラムの選択に至る理学療法評価の全プロセスを理解させる。また、身体機能・生活機能に関する客観的評価方法を紹介し、科学的な問題解決型思考能力の基礎を修得させる。 <授業計画の概要> ・理学療法評価のプロセス ・バイタルサインの取り方 ・身体ランドマークの触診 ・形態計測（四肢長測定、四肢周径測定、他）	
専門科目	専攻専門科目	理学療法基礎評価学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>理学療法基礎評価学Ⅰに引き続き、評価の目的と具体的手法を教授する。理学療法基礎評価学Ⅱでは主に運動器の基本的評価方法を取り上げる。具体的には、四肢体幹の関節可動域テストについて評価技術を修得し、測定値が示す意味について理解させることを目標とするが、今後の評価学ならびに治療学において基本となる対象者への触れ方、動かし方等、「治療者としての接し方」に重点をおいて授業を進める。 <授業計画の概要> ・関節可動域制限 ・四肢および体幹の関節可動域テスト	
専門科目	専攻専門科目	理学療法評価学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>理学療法基礎評価学Ⅰ・Ⅱで学んだ理学療法評価の目的と具体的手法を基に、神経・筋機能の評価方法を修得させることを目標とする。具体的には、様々な筋力評価法を紹介した後、全身の骨格筋に対する徒手筋力検査法について段階付け理論とテストの実際を学ばせる。また、神経系の理学的検査法として表在感覚、深部感覚、病的反射等の検査法について解説するとともに、実際の評価技術を修得させる。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全15回） （5 岩田 晃／8回）種々の筋力評価法について解説し、全身の筋に対する徒手筋力テストの理論と技術を修得させる。 （7 米津 亮／7回）温度覚・触覚・圧覚等の表在感覚テスト、関節位置覚・受動運動感覚等の深部感覚テスト、深部腱反射検査、病的反射検査等の測定値が示す意味について理解させ、実際の評価技術を修得させる。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	理学療法評価学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>理学療法基礎評価学Ⅰ・Ⅱで学んだ評価の目的と具体的手法を基に、中枢神経系の評価方法を修得させることを目標とする。また、動作分析・歩行分析においては運動神経生理学の知見に基づいた運動制御の観点を取り入れた考え方・分析方法についても教授する。 <授業計画の概要> ・筋トーンス、運動麻痺回復段階、協調運動、平衡機能等の検査法 ・動作分析、歩行分析 ・脳神経テスト、高次脳機能検査法	
専門科目	専攻専門科目	理学療法評価学総合演習	<授業形態>演習 <目標>理学療法評価の総合的な演習を行う。具体的には、これまでに学んだ各種の理学療法評価に関する知識を基に、初診時の応対を想定した面接から情報の収集、理学療法に必要な検査や動作観察項目を抽出・実施し、生活機能を考慮した治療目標を導き出す一連の過程を、グループ単位で教員担当制により指導し、科学的根拠に基づいた問題解決の思考および手法を修得させる。 <授業計画の概要> ・症例ビデオを用いた理学療法評価演習 ・模擬患者による理学療法評価演習 ・学生のロールプレイによる理学療法評価演習	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	臨床生体構造学実習	<授業形態>実習 <目標>身体運動を司る運動器の構造に関する知識は理学療法の実践に際して必要不可欠である。理学療法専門科目の履修に先立ち、生体構造学で学んだ解剖学の知識を基本に、運動学ならびに運動器障害への理学療法を実用的な知識として修得させることを目標に、模型・標本の観察および生体観察等を通して、骨・関節、筋の連結について立体的に学び、解剖学的特徴と運動学的特性に基づいた運動療法の基礎となる知識を修得させる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式／全15回) (99 荒川高光／8回) 主に上肢および体幹の解剖学的特徴と運動学的特性について講義と実習を行う。 (129 藤田直人／7回) 主に下肢の解剖学的特徴と運動学的特性について講義と実習を行う。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	運動療法学	<授業形態>演習 <目標>種々の運動機能障害に対する理学療法の中心となる理論と実践の体系である運動療法について、基礎的な運動様式と種類、運動療法の定義、目的、基本的手技とその理論的背景等を理解させる。基本的な運動療法手技については実技演習を交えて授業を進める。また、運動機能回復に関する先行研究を紹介し、運動機能回復を科学的に証明する研究方法論の基礎を修得させる。 <授業計画の概要> ・筋収縮形態の様式と種類 ・関節可動域運動 ・筋力・持久力増大運動、協調性改善運動 ・神経筋再教育、神経筋促通法	
専門科目	専攻専門科目	物理療法学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>物理療法の原理を物理学的・生理学的見地から演習形式で教授し、温熱、水等の物理的刺激に対する生体の生理的反応の理論的背景を理解させ、施行方法を修得させることを目標とする。治療環境の設定、患者の心理面への配慮および説明方法を解説した上で、症例に即した適切な物理療法が施行できるよう実際の施行過程を学習させる。 <授業計画の概要> ・物理的刺激に対する生体の生理的反応 ・温熱療法、寒冷療法の実際と治療機器の理解、適応と禁忌 ・水治療法の実際と治療機器の理解、適応と禁忌	
専門科目	専攻専門科目	物理療法学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>物理療法の原理を物理学的・生理学的見地から演習形式で教授し、電気、牽引、マッサージ等の物理的刺激に対する生体の生理的反応の理論的背景を理解させ、施行方法を修得させることを目標とする。治療環境の設定、患者の心理面への配慮および説明方法を解説した上で、症例に即した適切な物理療法が施行できるよう実際の施行過程を学習させる。 <授業計画の概要> ・物理的刺激に対する生体の生理的反応 ・低周波電気刺激、牽引、マッサージの実際と治療機器の理解、適応と禁忌	
専門科目	専攻専門科目	日常生活活動学	<授業形態>演習 <目標>理学療法学における日常生活活動学の位置づけに関して論じ、日常生活活動の分析、評価、指導方法、生活環境等、生活指導を行うにあたって必要な知識を修得させる。各種疾患における基本動作および応用動作について、運動学的評価に基づいた理解を促し、動作の指導法および介助法を教授する。また、QOLを高めるための一手段である介助機器等の補装具についても解説する。 <授業計画の概要> ・日常生活活動とその評価 ・補装具、自助具、介助機器 ・代表的疾患における日常生活活動評価の実際	
専門科目	専攻専門科目	日常生活活動分析学	<授業形態>演習 <目標>基本、応用動作の分析・評価および対象者への支援・指導方法を修得させる。車椅子や杖等の使用体験を通じて、補装具と障害や対象者の動作との関係について理解させるとともに、心理的側面の理解に努め、生活支援者としての役割について考察させる。主に運動学的な動作分析手法により得た客観的データを日常生活活動指導の基礎とし、障がい者の日常生活面での問題の解決策について解説し、具体的な指導方法等の演習を行う。 <授業計画の概要> ・障害と補装具 ・代表的疾患における日常生活活動指導の実際	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	福祉用具論	<授業形態>講義 <目標>在宅高齢者や障がい者の生活をより豊かにし、自立生活や介護負担軽減を図るために用いる福祉用具について、その種類と機能、特性を解説し、生活範囲の拡大を目指した福祉用具の適用原則と注意点を理解させる。また、身体機能の評価に基づく移乗・移動用福祉用具の選択、使用法、さらに介護者への指導方法を修得させる。また、現在の医療施策や社会福祉施策における福祉用具に関連する制度についても学ばせる。 <授業計画の概要> ・福祉用具の種類と機能、適用の原則 ・福祉用具に関する社会制度	
	専攻専門科目	住宅環境論	<授業形態>講義 <目標>日常生活の基礎となる住宅の安全面や機能面への配慮の必要性を理解させることを目標とする。耐久性、温熱環境、光環境、音環境等住宅に関する諸問題を解説し、障がい者や高齢者が、その家族とともに安全で快適に住み続けられる住宅の構造、障害に応じた住宅改造の原則と具体的方法について理解させる。住宅の品質確保の促進等に関する法律や住宅の改造助成制度、公共建築物に関するバリアフリー法も解説する。 <授業計画の概要> ・住宅における環境とは ・快適な住宅とは ・住宅改造の原則と諸制度	
専門科目	専攻専門科目	障がい者スポーツ指導論	<授業形態>講義 <目標>リハビリテーション、競技、レクリエーション等、障がい者にとってスポーツが有する多面的な意義と指導方法について理解させる。障がい者スポーツの歴史、組織、種目、障害区分等について解説するとともに、車いすバスケットボール、車いすテニス、ボッチャ、シットバレー等の障がい者スポーツの紹介と模擬体験を通して、心身面への影響も含め、障がい者スポーツへの理解を深め、指導者としての役割を認識させる。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全8回） （ 1 奥田邦晴／3回）障がい者のスポーツが有する多面的な機能について解説し、スポーツを介して、生活支援者としてのリハビリテーション専門職者の役割について考察する。 （118 高橋 明／5回）障がい者のスポーツの歴史および種々のスポーツについて解説し、模擬体験を通して心身面への影響も含め障がい者のスポーツへの理解を深める。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	義肢装具学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>義肢および装具の概略と、装具の種類や具体的適応について理解させる。四肢切断者の失われた身体機能を代償する義肢と、四肢の運動機能の低下を代償するために用いられる装具の概要を講義した上で、装具の種類、適応等について教授する。体験用装具を装着して実際に動作を行わせ、装具による運動制限を体感させ、装具の力学的特性をより深く理解させることにより、装着指導法のスキルアップを図る。 <授業計画の概要> ・義肢とは、装具とは ・装具学総論 ・各種装具について	
専門科目	専攻専門科目	義肢装具学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>主に理学療法の対象となる下肢切断と義足について理解を深め、義肢使用に必要な運動療法や動作指導の方法を修得させる。切断に関する医学的知識を教授した後、義肢を日常生活の中で使いこなすための運動療法や装着訓練等、義肢使用者の生活を支援する理学療法全般について授業を進める。さらに、近年増加傾向にある血管原性疾患による高齢切断者への義足適応におけるチームアプローチの重要性についても言及する。 <授業計画の概要> ・義肢学総論 ・切断と義肢 ・切断者リハビリテーション	
専門科目	専攻専門科目	運動器理学療法学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>身体運動の基礎である運動器官の正常な役割を理解した上で、各運動器が障害を起こした場合の理学療法の基本的な考え方を修得させる。運動器の正常な役割を確認することにより、障害発生の原因や治療の理解へ結び付ける。また、運動器の障害評価に基づく代表的な理学療法手技の選択について解説する。さらに、正確な身体運動には神経系の調節機能が重要であることにも言及する。 <授業計画の概要> ・運動器とは ・運動器障害の評価と理学療法 ・運動器障害の運動療法と動作訓練	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	運動器理学療法学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>運動器疾患の病態と障害に対する理学療法の基本的な考えを身体各部位ごとに適用できる能力を修得させる。臨床で遭遇する機会の多い代表的な運動器疾患に対して用いられる理学療法技術に焦点をあて、運動機能を高めるためのアプローチについて身体各部位ごとに演習を交えて授業を進める。 <授業計画の概要> ・運動器障害の概要 ・運動器の運動性、安定性、協調性 ・各関節ごとの運動器障害に対する運動療法	
	専攻専門科目	運動器理学療法学Ⅲ	<授業形態>演習 <目標>運動器疾患の病態と障害に対する理学療法の基本的な考えを総合的に修得させる。臨床で遭遇する機会の多い代表的な運動器疾患に対し、疾患特性を理解した上で適応する方法について教授する。また、運動器疾患の病態別に物理療法の適応と禁忌、理学療法における注意点等を含め、日常生活上の指導に至るまでの理学療法全過程について演習を行い、総合的な知識と技術を修得させる。 <授業計画の概要> ・運動器障害を呈する代表的疾患 ・代表的な運動器疾患に対する理学療法の実際	
専門科目	専攻専門科目	スポーツ傷害理学療法学	<授業形態>講義 <目標>スポーツ活動によって生じる急性外傷や慢性障害に対する理学療法について、損傷部位の治療、スポーツ復帰、再発予防までを包括的に理解させる。具体的には、急性外傷の代表例として膝関節ACL損傷、慢性障害の代表例として肩関節の投球障害を取り上げ、これらの発生机序と受傷後の医学的治療およびメディカルリハビリテーションからアスレチックリハビリテーションを経て競技復帰までの理学療法過程について解説し、再発予防法についても言及する。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全8回） （113 小柳磨毅／4回）急性損傷の一例として、代表的なスポーツ外傷であるACL損傷を取り上げ、急性期の処置、および術後から競技復帰までの理学療法について教授する。 （ 5 岩田 晃／4回）慢性障害について、投球障害を中心にして、そのメカニズムを明らかにし、治療法および再発予防法について理解させる。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	神経理学療法学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>主に脳血管障害やパーキンソン病の障害像とこれらの障害に対する理学療法の基本的な考え方を理解させる。また、基本的な治療原理と手技、リスク管理のための基礎知識等について講義する。また、運動神経生理学の知見などを通じた運動制御異常の理解にも重点をおいて講義し、その理解に基づいた理学療法プログラムの立案を検討させる。 <授業計画の概要> ・神経系障害の評価と理学療法 ・脳血管障害に対する理学療法の実際 ・パーキンソン病に対する理学療法の実際	
専門科目	専攻専門科目	神経理学療法学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>中枢神経系疾患の中でも主に脊髄疾患に起因する障害像について解説し、これらの障害に対する理学療法の基本的な考え方を理解させる。具体的には、脊髄損傷を含む脊髄疾患によって生じる病態ならびに障害像を理解させるとともに、急性期から社会生活への復帰までの理学療法全過程について授業を進める。基本的な治療原理、リスク管理のための基礎知識等について教授する。 <授業計画の概要> ・脊髄障害の臨床像 ・脊髄障害の理学療法評価と治療の実際 ・脊髄障がい者の生活を支援する理学療法とは	
専門科目	専攻専門科目	神経理学療法学Ⅲ	<授業形態>演習 <目標>脳血管障害を対象とした中枢神経疾患の理学療法について、より実践的かつ臨床的に理学療法の進め方を理解させる。模擬症例検討や臨床経験の伝承などを通して、学習者に臨場感のある理学療法臨床のイメージを生成させ、後続する臨床実習の準備的な学習場面を提供する。また、神経発達学的治療など、神経系理学療法において適用される手技の基本的な概念やテクニックについて演習を交えて授業を進める。 <授業計画の概要> ・脳血管障害の臨床像 ・脳血管障害の理学療法評価と治療の実際 ・症例提示、検討	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	発達理学療法学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>発達障害に対する理学療法の考え方および基本的なアプローチについて修得させる。発達障害を呈する主要な疾患について概説し、正常な小児の運動・認知・言語面の発達段階と対比しながら発達障害の臨床像を教授する。運動面での臨床像の理解には発達の観点に加えて神経生理学の知見に基づいた運動制御的観点も導入して理解を促す。また、基本的な治療手技については演習を交えて授業を進める。 <授業計画の概要> ・発達障害を呈する代表的疾患 ・発達障害の臨床像 ・神経生理学に基づく理学療法の実際	
	専攻専門科目	発達理学療法学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>発達障害に対する理学療法全般の流れを実際の臨床像を提示しながら体系的に理解させる。具体的には、疾患・障害別にみた発達障害に対する基本的な評価方法および患児（者）の発達の諸側面を把握するための各種発達検査法、問題点の捉え方、さらに運動療法を中心とした理学療法技術について修得させる。また、小児疾患における超急性期理学療法についても、NICU症例の提示を交えて授業を進める。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全15回） （135 藪中良彦／7回）疾患・障害別にみた基本的な評価方法および患児（者）の発達の諸側面を把握するための各種発達検査、問題点の捉え方、さらに運動療法を中心とした理学療法技術について教授する。 （111 瓦井義広／8回）超急性期小児 ICU（NICU）における理学療法について言及する。また、患児（者）をとりまく家族・教育関係者に対する関わり方、援助方法および家族教育の方法論を教授する。	オムニバス
	専攻専門科目	内部障害理学療法学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>高齢化の進展に伴い増え続ける呼吸器系疾患に対する呼吸リハビリテーションの概要を教授したうえで、呼吸理学療法の位置づけと基本的内容を理解させる。また、肺癌や食道癌術後等に起こりうる急性呼吸不全と、今後ますます増加が予想される慢性閉塞性肺疾患でみられる慢性呼吸不全の障害像を教授するとともに、その評価や治療および生活指導の実際について解説し、それらの技術修得に向けて演習を交えて授業を進める。 <授業計画の概要> （オムニバス形式／全15回） （ 4 伊藤健一／12回）呼吸リハビリテーションおよび理学療法に関する基本的事項について講義・実習を行う。 （110 金 光浩／1回）急性期の具体的な症例におけるケーススタディを行い、基本事項と臨床の結び付けの演習を行う。 （130 堀江 淳／2回）在宅酸素療法に関する講義、・実習を行う。また、慢性期の具体的な症例提示によるケーススタディを行い、基本事項と臨床の結び付けの演習を行う。	オムニバス
	専攻専門科目	内部障害理学療法学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>循環器疾患のリハビリテーションの中心となる心臓リハビリテーションの概要を教授したうえで、循環器疾患におけるリスク管理の重要性とともに、リスクに配慮した運動療法の実際と理学療法士の役割について理解させる。さらに、心筋梗塞や狭心症等のいわゆる虚血性心疾患、ならびに、慢性心不全の障害像を臨床例を提示しながら教授するとともに、その評価や治療、特に留意すべき点等について解説し、それらの技術修得に向けて演習を交えて授業を進める。 <授業計画> （オムニバス形式／全15回） （ 4 伊藤健一／12回）心臓リハビリテーションおよび理学療法に関する基本的事項を教授する。 （ 97 安達裕一／2回）主に急性期症例におけるケーススタディを行い、基本事項と臨床の結び付けの演習を行う。 （114 佐藤真治／1回）主に維持期症例におけるケーススタディを行い、運動継続の工夫に主眼をおいた演習を行う。	オムニバス
	専攻専門科目	内部障害理学療法学Ⅲ	<授業形態>演習 <目標>糖尿病療養の概要を教授したうえで、糖尿病および、その関連疾患（腎不全等）に対する理学療法の位置づけ、評価、治療法について理解させ、基本的な治療技術を修得させる。具体的には、効果的な理学療法を実施するために必要な内科的検査結果の解釈について知識を確認した後、糖尿病の病態と障害およびその理学療法評価や治療法、特に留意すべき点等について解説し、それらの技術修得に向けた実技演習を実施する。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全15回） （125 野村卓生／8回）糖尿病の病態と障害を教授し、その評価や治療について講義を行い、それらの技術修得に向けた実技実習・演習を行う。また、効果的な理学療法を実施するために、内科的検査結果の解釈についても復習する。 （100 池田聖児／2回）がんの病態と障害を教授し、その評価や治療について講義を行い、それらの技術修得に向けた実技実習・演習を行う。 （ 4 伊藤健一／5回）糖尿病に関連する種々の障害について講義を行い、それらの技術修得に向けた実技実習を行う。	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	理学療法治療技術論	<授業形態>演習 <目標>基本的な理学療法の十分な理解を前提に、高度な理学療法治療技術について、実際の臨床における適応と有効性の限界にも言及しながら、当該分野の第一線で活躍する講師により教授する。具体的には、運動連鎖の概念に基づく運動器障害に対する運動療法、脳卒中患者に対する早期理学療法の実践、発達障害に対するVojta法、神経生理学に基づくPNF法等について、根拠となる理論と基本的手技を修得させる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式／全15回) (122 中江徳彦／4回) 主に整形外科疾患症例に対する運動連鎖の概念に基づく理学療法の理論と実際を教授する。 (102 今井保／3回) 主に脳卒中片麻痺症例に対する早期理学療法の理論と実際を教授する。 (123 中嶋信太郎／4回) 主に発達障害症例に用いられるVojta法に関する理論的背景と基本手技を教授する。 (126 橋本壽美子／4回) 神経生理学に基づく、固有感覚神経筋促通法に関する理論的背景と基本手技を教授する。	オムニバス
	専攻専門科目	老年期・難病理学療法学	<授業形態>演習 <目標>理学療法の対象者の大半を占める高齢者の特徴を理解した上で、疾患・障害に応じた理学療法が実践できるよう、高齢者の一般的特徴を理解させるとともに、高齢期に好発しやすい神経難病に対する理学療法について理解させることを目標とする。具体的には、高齢者の加齢に伴う身体・精神機能の変化を生理学的側面から教授する。また、神経難病についてはALS、MS、脊髄小脳変性症等を取り上げる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式／全15回) (樋口由美／8回) 加齢に伴う身体的・精神的機能の変化を生理的側面から解説し、高齢者の一般的特徴を理解させる。その上で、疾患・障害に応じた理学療法が実践できるよう高齢者の機能障害の特徴と理学療法実践上の留意点等を教授する。 (井上 悟／7回) 地域における理学療法実践の観点から重要となるALS、MS、脊髄小脳変性症等の特定疾患に代表されるいわゆる難病患者に対する理学療法的対応について教授する。	オムニバス
	専攻専門科目	地域理学療法学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>地域リハビリテーションにおける地域理学療法の位置づけや目的を明確にし、現状と今後の課題について理解させる。医療モデルから生活モデルへの流れを学習する中で、医療・介護に関する保険制度の概要に言及し、在宅を中心とした地域における理学療法の機能について理解させる。また、介護予防における理学療法の役割について言及し、評価指標の紹介ならびに評価測定方法について教授する。 <授業計画の概要> ・地域リハビリテーションにおける地域理学療法学 ・介護予防制度と理学療法 ・地域理学療法における評価、実践	
	専攻専門科目	地域理学療法学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>地域における理学療法の実践について実践例を紹介し、地域理学療法学Ⅰで学んだ内容の具現化をはかる。また、医療から「地域」へリハビリテーションをスムーズに繋げるために、理学療法士に求められる事項について考察させる。事例を通じて、対象者の生活能力や家族介護者の評価、周辺環境および地域社会の分析をはじめ、在宅における理学療法実践に際しての留意点を理解させる。 <授業計画の概要> ・地域理学療法の実践 ・訪問理学療法 ・在宅サービスに必要なコミュニケーションスキル、医療スキル	
	専攻専門科目	地域理学療法学実習	<授業形態>実習 <目標>地域医療におけるリハビリテーションについて、実習指導者の下、「訪問リハビリテーション」の見学実習を行う。在宅における理学療法の進め方、家族介護者への指導方法、介護職等他職種との連携の実際を学ぶ。また、実習後のセミナーにおいて学生間の経験事例を共有させることで「生活モデル」の理学療法の個別性を体験させるとともに、地域理学療法における現在の課題や今後のあり方についてグループディスカッションにより検討する。 <授業計画の概要> ・訪問リハビリテーション見学実習 ・セミナー	集中

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	クリニック理学療法学	<授業形態>講義 <目標>日本の診療報酬体系に基づく、新たな理学療法学実践の場としての地域クリニックにおける理学療法の必要性とその特徴、具体的方法について理解させる。日常生活を送りながらクリニックに通う患者を対象とした理学療法の特徴や、特有の理学療法概念、患者教育の方法などを紹介するとともに、クリニックにおける理学療法に必要な医療経営概念等についてもトピックス的話題を盛り込みながら教授する。 <授業計画の概要> ・外来理学療法の特徴 ・医療経営概論 ・地域におけるクリニック理学療法的重要性	
	専攻専門科目	健康増進理学療法学	<授業形態>講義 <目標>日本における医療費削減に向けた理学療法を実践するための新たな視点として健康増進分野に着目し、その内容と必要性を理解させる。中年期を中心とした生活習慣病の「予防」と、高齢期における生活機能低下の「予防」を取り上げ、予防医学としての健康増進に関する理学療法実践の概要、およびその手段、問題点、トピックス等について教授する。また、社会医学の視点やソーシャルアクションの方法についても解説する。 <授業計画の概要> (オムニバス方式／全8回) (4 伊藤健一／4回) 今日の生活習慣病の罹患率の増加を勘案し、生活における運動習慣の必要性を教授する。代表的な生活習慣病の実例を提示し、予防的視点からの運動処方について解説する。また、運動を習慣化させるための行動分析とその結果に基づいた運動指導方法について、実技実習を交えながら講義を行う。 (6 樋口由美／4回) 高齢者の生活機能低下をもたらす主要原因の一つ、転倒をキーワードに高齢期における健康増進について教授する。転倒予防のスクリーニングと有効な転倒予防対策について解説する。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	国際支援理学療法学	<授業形態>講義 <目標>世界の先進諸国における理学療法の現状を紹介するとともに、発展途上国における障がい者の現状と、彼らが抱える問題について理解させる。また、理学療法士として発展途上国でCBR活動を行う際に考えなければならない事項や、具体的方法についても教授し、日本の理学療法学を国際支援に活用するための方策についてディスカッションを交えて検討させるとともに、理学療法学の担うべき役割について考察する。 <授業計画の概要> ・海外における理学療法の現状 ・理学療法士による国際支援の実際	
専門科目	専攻専門科目	理学療法早期体験実習	<授業形態>実習 <目標>疾病や障害を持つ人の病態や治療全体の流れを把握し、地域生活における諸問題を長期的に捉える理学療法的重要性を認識させる。病院や介護老人保健施設において施設見学・体験実習等を実施することにより、保健・医療・福祉分野の理学療法の実状を知り、理学療法についての正しい理解を深める。また、実習前後の意見交換を通じて今後の学習に対する動機づけを強化するとともに、自己の意見を論理立てて他者に伝える能力を涵養する。 <授業計画の概要> ・医療・福祉施設におけるグループ実習 ・セミナー	共同
専門科目	専攻専門科目	理学療法臨床実習Ⅰ	<授業形態>実習 <目標>実際の医療現場および臨床での理学療法の位置づけと理学療法業務の概要を理解させることを目的に、主に見学を中心とした臨床実習を実施する。また、実習指導者の指導・監督の下で、患者とのコミュニケーションを図ったり、患者の移動を補助的に行ったりすることで、医療人としての責任感の育成や今後の学習に対する動機づけの向上を目指す。実習で得た経験をもとに、その後の学内教育のカリキュラムの意味や相互関係を学生自らが理解する基礎を築く。 <授業計画の概要> ・臨床実習 ・セミナー	共同
専門科目	専攻専門科目	理学療法臨床実習Ⅱ	<授業形態>実習 <目標>実習指導者の指導・監督の下に、主に理学療法評価に関する臨床実習を実施する。理学療法臨床実習Ⅰの成果を踏まえ、学内で修得した理学療法評価の知識と技術を対象者に適用し、その結果から問題点を把握し、その解決方法を導き出す過程を修得させる。具体的には、主に医療機関において臨床実習指導者の指導の下、対象者の状況に配慮しつつ動作観察や関節可動域検査、徒手筋力検査、感覚検査等多くの検査測定を実施し、障害像の把握と治療目標の設定を行なう。 <授業計画の概要> ・臨床実習 ・セミナー	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	理学療法臨床実習Ⅲ	<授業形態>実習 <目標>実習指導者の指導・監督の下、症例担当制により理学療法過程全般とその過程を記録・報告する方法について学ぶ臨床実習を行う。理学療法評価から治療目標の設定、治療計画の立案そして具体的な理学療法実践までの一連の過程を体験することで、理学療法の実際に関する理解を深めるとともに、これまでに修得した知識と実習指導者の指導や文献等から得られたエビデンスを総合的に解釈し、科学的根拠に基づいた理学療法を展開していくための手段を修得させる。 <授業計画の概要> ・臨床実習 ・セミナー	共同
	専攻専門科目	理学療法臨床実習Ⅳ	<授業形態>実習 <目標>実習指導者の指導・監督の下、症例担当制により理学療法過程全般を経験・理解させる臨床実習を行う。具体的には、理学療法臨床実習Ⅲと同様に理学療法の全過程を経験させるとともに、臨床的知見と既習の知識、実習指導者の指導や文献等から得られたエビデンスを総合的に解釈し、科学的根拠に基づいた理学療法を展開していくための手段を修得させることにより、基本的な理学療法上の課題を独力で解決できる臨床的能力を修得させる。 <授業計画の概要> ・臨床実習 ・セミナー	共同
専門科目	専攻専門科目	理学療法学研究法Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>理学療法における研究の必要性について論じ、研究のすすめ方、仮説形成の方法、研究デザイン、統計処理を含めた結果分析、考察の進め方等を修得させる。これらの方法論を基に、少人数グループで指導教員のゼミに所属し、文献検索方法およびこれら研究方法に関する基礎的な演習を行い、研究活動実践上の基本的スキルを向上させる。同時に理学療法学分野における代表的な研究論文を詳読させる。 <授業計画の概要> ・研究方法論概論 ・科学研究論文の構成について ・研究論文詳読	複数クラス
専門科目	専攻専門科目	理学療法学研究法Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>理学療法学研究法Ⅰで学んだ研究方法に関する基礎的知識および論理的思考方法を基に、少人数グループで指導教員のゼミに所属し、模擬的に研究活動を行う。具体的には、学術的な裏付けの後、予備的な実験や調査を演習し、臨床的課題に即した研究テーマの見つけ方、基本的な研究デザインの方法を修得し、研究者としての基礎的能力を陶冶することを目標とし、４年次の卒業研究への円滑な導入を図る。 <授業計画の概要> ・研究計画の立案 ・調査研究演習 ・実験研究演習	複数クラス
専門科目	専攻専門科目	理学療法学卒業研究	<授業形態>実習 <目標>理学療法学を取り巻く保健・医療・福祉の各領域に関わる研究を、ゼミ指導教員の指導の下に、個人またはグループ単位で実施する。これまでの既習内容はもとより、臨床実習を通じて芽生えた問題意識と理学療法学研究法Ⅰ・Ⅱで修得した研究手法を基に研究テーマを設定し、データ収集・分析、結果の解釈、仮説の検証を実施させる。これら一連の研究プロセスを卒業研究論文としてまとめることにより、基本的な科学的研究の手法を修得させる。 <授業計画の概要> ・研究計画の立案、実施 ・研究論文の作成	複数クラス

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校¹の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（地域保健学域 総合リハビリテーション学類 作業療法学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	＜授業形態＞講義・演習 ＜目標＞人体は誕生、成長、活動、病み、老い、死に至る有限の動物である。生物はこの過程を繰り返すことで、種を維持する。本講義では、生物としての人間、その営み、生命現象について論理的な思考を形成する。また、主として、身体の調節系と統御系の視点から、人間の生物学的更生と機能を相互に学習し、日常生活を可能にしている身体の機構と意義について考察する。 ＜授業計画の概要＞ ・身体のあらまし ・顕微鏡実験 ・神経系、消化器系、泌尿器系の構造と機能 ・感覚について ・血液とリンパ	講義 15時間 演習 30時間
専門基礎科目	形態機能学Ⅱ	＜授業形態＞講義・演習 ＜目標＞本講義では、器官系の働きを学習する。器官系はそれぞれ独立して機能するのではなく、神経系、ホルモン等の物質でその活動が調節されていることを理解させる。器官の傷害は人間の生命活動に大きな影響を与えるので、器官に関する知識の獲得は、人間の健康状態を判断するために必要である。その延長線上には、病態生理の理解、疾病の解釈、病気を持つ人々への援助があることを理解させる。 ＜授業計画の概要＞ ・循環器系、呼吸器系の構造と機能 ・電解質と体液、ホルモン ・生殖器系と発生 ・骨格と関節	講義 15時間 演習 30時間
専門基礎科目	形態機能学Ⅲ	＜授業形態＞講義・演習 ＜目標＞人体の構造と機能について全身の運動器（骨・関節・筋）並びに末梢神経を中心にマクロ的に詳細に講義し、体表から深部の骨や筋の走行、末梢神経の走行を的確に把握させる。また各筋の収縮によって起こる身体運動の方向を理解し、拮抗筋や共同筋の相互作用についても関節を中心として構造学的に解説する。ミクロ的には骨や関節・靱帯・筋・腱等の顕微鏡的な観察を行い、各組織の正常な微細構造を理解することにより、運動時や疾患時に発現する様々な現象について組織レベルでの検討につなげる。 ＜授業計画の概要＞ ・運動器系と末梢神経系 ・顕微鏡実験 ・関節運動と筋	講義 15時間 演習 30時間
専門基礎科目	形態機能学実習	＜授業形態＞実習 ＜目標＞人体の生理機能について実習をとおして生体への理解をはかる。動物標本を用いた生理実験や生体反応をみることにより理解を深める。またデータの取り方やレポートの書き方についても学ぶ。 ＜授業計画の概要＞ ・神経の興奮と伝達のしくみ ・神経伝導の電気生理的観察および薬理的調節による変化 ・骨格筋の収縮の機構と収縮時に発生する電氣的興奮 ・体性感覚と中枢神経・脊髄での反射，受容 ・心臓の機能と循環 ・呼吸機能	講義 15時間 実習 45時間
専門基礎科目	基礎運動学	＜授業形態＞演習 ＜目標＞主に正常な身体運動を理解させることを目標とし、身体各部位の運動の特徴を系統的に教授する。四肢・体幹および各関節の構造と機能を解説した後、起立、歩行等の基本的動作を中心に人間の諸動作を分析し、それが身体の各分節の絶妙な連携によって成り立っていることを理解させる。また、運動制御の中枢神経機構についても考察する。 ＜授業計画の概要＞ ・運動学用語の解説 ・人体の構造・機能と運動学 ・身体各分節の運動と動作との関連、分析方法 ・運動連鎖と運動制御	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	基礎運動学実習B	＜授業形態＞実習 ＜目標＞運動学で学んだ知識を、実際に身体運動を観察・触察することによりさらに深め、作業療法評価や治療の基礎とすることを目標とする。関節運動や筋活動を実際に確認し、身体各部の運動による身体重心の移動と各部位間の相互の影響を理解させる。さらに、姿勢や歩行等の基本動作を様々な動作分析機器を用いて計測する方法と得られた数値の意味について理解させる。 ＜授業計画の概要＞ ・四肢・体幹の運動観察および触察 ・筋電図、三次元動作解析装置などを用いた運動解析実習	
専門基礎科目	生化学B	＜授業形態＞講義 ＜目標＞本講義では、人体を構成する物質の化学的性質と代謝に重点を置いて解説する。また酵素反応の速度論、物質代謝や物質輸送のエネルギー論、および生体内酸化還元反応について解説する。さらに、生体構成物質を生体から分離・分析する技術の基本原理と基礎知識について解説するとともに、代謝経路の異常が疾病の発生に関係していることについても概説する。 ＜授業計画の概要＞ ・生体構成物質の化学 ・酵素の構造と機能 ・生体エネルギー論 ・糖質、脂質、アミノ酸、ヌクレオチドの代謝 ・生体構成物質の分離分析技術	
専門基礎科目	微生物学総論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞自然界には肉眼では見えないほど小さな多種類の微生物（細菌、真菌、原虫、ウイルス）が生息しており、その多くはヒトには無害であるが、なかには有益なもの、あるいはヒトや動物に病気を起こすもの（病原微生物）もある。本講義では、これらの微生物に共通する性質や疾病を引き起こす代表的な微生物について教授し、感染症についても概説する。 ＜授業計画の概要＞ ・微生物学の基礎 ・感染と感染症 ・感染症の種類 ・感染に対する生体防御機構 ・感染症の予防・診断・治療	
専門基礎科目	薬理学総論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞医薬品には副作用や薬物中毒などの好ましくない作用がある。本講義では、医薬品が人体の生理機構のなかで、どのように作用するかを解説し、使用方法など医療職者が知っておくべき医薬品の基礎知識を学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ ・薬物作用と受容体、薬効に影響を与える因子 ・薬物の体内動態、薬物相互作用など ・自律神経系と体性神経系の機能 ・交感神経系・副交感神経系興奮薬と遮断薬 ・オータコイド ・心臓・血管系、中枢神経系に作用する薬物	
専門基礎科目	病理学総論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞本講義では、病理学の医学における位置づけを教授し、病理学そのものの性格を説明する。そして、疾病を病因の観点から説明し、また、疾病の基本である病変を奇形、代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍の6つに分類し、それぞれについて視聴覚教材等を用いて講義する。あわせて各々の病変の代表的な疾患についても解説する。 ＜授業計画の概要＞ ・病理学の意義と役割 ・細胞障害の機序とその修復 ・炎症 ・感染症、免疫異常、代謝障害、循環障害、染色体・遺伝子及び発生異常、腫瘍	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	内科学Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞代表的な内科系疾患の原因や病態の理解、リスク管理などに必要な症候学、病態生理学や臨床検査データの理解、感染症予防のための基本的事項の理解とともに、一般的な治療方法についても理解させることを目標とする。本講義では、主に循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患などを中心に講義する。 ＜授業計画の概要＞ ・内科学の概念 ・診断と治療の実際 ・症候学 ・循環器疾患 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患 ・肝胆膵疾患	
専門基礎科目	内科学Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞代表的な内科系疾患の原因や病態の理解、リスク管理などに必要な症候学、病態生理学や臨床検査データの理解、感染症予防のための基本的事項の理解とともに、一般的な治療方法についても理解させることを目標とする。本講義では、主に代謝系疾患、免疫疾患、感染症疾患などを中心に講義する。 ＜授業計画の概要＞ ・血液・造血器疾患 ・代謝性疾患 ・内分泌疾患 ・腎・泌尿器疾患 ・膠原病・アレルギー疾患・免疫不全 ・中毒および環境要因による疾患	
専門基礎科目	小児・高齢医学	＜授業形態＞演習 ＜目標＞人間のライフステージにおける初期段階としての周産期・小児期と、最終段階としての高齢期に焦点をあて、それぞれのステージにおける身体特性と疾患特性について教授する。 ＜授業計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） （106 落合 利佳／7回） 小児期における発達、先天異常、新生児、神経等の分野から、小児の疾患・障害の原因、付随する問題点の病態に関する基本事項を講義する。 （98 阿部 和夫／8回） 高齢期における加齢に伴う身体および精神的側面の変化と特徴的疾患について概説し、これら疾患・障害の原因ならびに対処法に関する基本事項を講義する。	オムニバス
専門基礎科目	整形外科Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞整形外科疾患の原因や病態、検査データをもとにした診断や画像診断、治療等に関して系統的に教授することで、運動器系障害の基礎的知識を十分に習得させ、理学療法および作業療法の評価・治療に展開させる。本講義では、保存的治療と観血的治療という代表的整形外科の治療法を概説した上で、外傷、関節リウマチ、変形性関節症、骨系統疾患、代謝性骨疾患等について総論的に教授する。 ＜授業計画の概要＞ ・歴史、筋骨格系組織の生理学について ・骨折と脱臼 ・骨と関節の感染症 ・関節リウマチ、壊死性骨疾患、骨系統疾患、腫瘍ほか	
専門基礎科目	整形外科Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞整形外科疾患の原因や病態、検査データをもとにした診断や画像診断、治療等に関して身体部位ごとに各論的に教授することで、運動器系障害の基礎的知識を十分に習得させ、理学療法および作業療法の評価・治療に展開させる。本講義では、運動器疾患の具体例を呈示し、その対応について理解させることを目標とする。 ＜授業計画の概要＞ ・身体部位ごとの運動器疾患各論 ・スポーツと整形外科疾患 ・運動器疾患とリハビリテーション	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	神経内科学Ⅰ	<授業形態> 演習 <目標> 神経疾患の全体像を体系的に捉えるとともに、各疾患の病態と検査、診断、治療に関する基本的知識を習得させることを目標とする。 神経内科学Ⅰでは、総論的に中枢神経系および末梢神経系の解剖生理学的知識を踏まえた神経症候学を解説し、各種の代表的疾患の原因ならびに病変局部位と症候の対応を理解させ、解剖・機能画像、神経生理検査ほかの臨床検査をもとにした診断ならびに治療についての基本事項を教授する。 <授業計画の概要> ・中枢神経系および末梢神経系の神経症候学 ・各種代表疾患の原因ならびに病変部位 ・各種代表疾患の診断ならびに治療の概要	
専門基礎科目	神経内科学Ⅱ	<授業形態> 演習 <目標> 神経疾患の全体像を体系的に捉えるとともに、各疾患の病態と検査、診断、治療に関する基本的知識を習得させることを目標とする。 神経内科学Ⅱでは、各論的に脳血管障害・神経系感染症・代謝障害・変性疾患・筋疾患・神経免疫疾患・脱髄疾患・脳腫瘍・外傷性脳損傷・脊髄損傷・小児神経障害・神経因性膀胱直腸障害・廃用性障害に関する疾患別の病態と検査、診断、治療についての知識を教授する。 <授業計画の概要> ・脳血管障害、神経性感染症、代謝障害、変性疾患などの病態 ・各種疾患に対する検査、診断、治療の概要	
専門基礎科目	精神医学Ⅰ	<授業形態> 演習 <目標> 精神疾患の全体像を体系的に捉えるとともに、各疾患の病態と検査、診断、治療に関する基本的知識を習得させることを目標とする。 精神医学の歴史を概説し、他の医学分野と異なる方法論的特性を有することを理解させ、基本的な精神症候学を学ばせたうえで、統合失調症・気分障害・神経症・人格障害・発達障害・摂食障害・物質関連性障害・てんかん・認知症・睡眠障害に関する基本的知識を教授する。 <授業計画の概要> ・精神医学の歴史 ・統合失調症、気分障害、神経症、人格障害 ・発達障害、摂食障害 ・物質関連性障害 ・てんかん、認知症、睡眠障害	
専門基礎科目	精神医学Ⅱ	<授業形態> 演習 <目標> 代表的な精神疾患の病態理論を学ばせ、各疾患の病態構造を理解させるとともに、病態に応じた治療方針の立て方に習熟させる。 機能的な精神疾患および心因性精神疾患については、代表的な精神病理学的理論、性格と環境の要因にもとづく精神力動論、ならびに生物学的病態理論を解説し、各々にもとづく治療法の知識を教授する。器質的な精神疾患については、脳の解剖・生理学的知識にもとづいた高次脳機能障害の発生機序と治療・ケア・予防に関するの基本方針を学ばせる。 <授業計画の概要> ・精神病理学的理論 ・精神力動論 ・生物学的病態理論 ・高次脳機能障害の発生機序と治療・ケア・予防	
専門基礎科目	リハビリテーション医学	<授業形態> 演習 <目標> 各種の機能障害の基礎的知識、さらにリハビリテーション医療の対象となる主な疾患の障害像と治療について理解させることを目標とする。リハビリテーションを進める上で重要な一次的機能障害ならびに二次性の障害の代表である廃用症候群の発生機序とその治療・予防について演習課題を交えながら教授する。 <授業計画の概要> ・代表的な対象疾患の概要 ・各種疾患のリハビリテーション（中枢神経疾患、運動器疾患、内部疾患等）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目		人間発達学	＜授業形態＞演習 ＜目標＞人の人格形成には、身体の成長とともに、精神面での発達が年齢に応じて成長することが重要である。人間発達学は、この成長の過程ならびに退行期の特徴を医療職者として、知識を習得する必要がある。本講義では、身体面、心理面や社会性などの形成過程において発生する問題を理解させ、人としての成長の度合いを観察する力を養わせる。 ＜授業計画の概要＞ ・「人間発達」とは ・胎児期、周産期 ・新生児期・乳児期 ・乳児期・幼児期・児童期 ・思春期・青年期 ・成人期・老年期 ・発達臨床	
専門基礎科目		臨床心理学	＜授業形態＞演習 ＜目標＞臨床心理学とは、心理学の応用分野の一つであり、心に悩みをもつ人に対する科学的援助体系である。実践分野としては、心理検査法と心理療法に分かれる。 本講義では、臨床心理学上の基本的な考え方と、実践に用いる基本技法の習得をめざす。また、悩める人を理解し、適切なサポートを実施できる技能と視点の修得、心の健康を維持増進するためのストレスマネジメントの修得もめざす。 ＜授業計画の概要＞ ・臨床心理学とは何か ・臨床心理学からみた症状(不安障害、気分障害) ・臨床アセスメントの必要性	
専門基礎科目		公衆衛生学B	＜授業形態＞演習 ＜目標＞健康と社会・環境の関わりについて理解させる。本講義では、人間や人間の生活を生態系の中に位置付け、人間の行動特性と生体維持の基本的メカニズムについて理解させ、社会や環境の変化が健康に与える影響を学ばせる。さらに、健康の概念を解説し、健康の維持増進や疾病予防を社会生活の中で実現するための考え方と方法について理解させる。 ＜授業計画の概要＞ ・健康維持増進、疾病予防に関する基礎的な概念 ・公衆衛生の歴史、法制度の変遷 ・領域別保健対策 ・喫煙、飲酒 ・疾病予防のメカニズム	
専門基礎科目		リハビリテーション概論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞国内外におけるリハビリテーションの意味、理念、定義とこれらの歴史的変遷について教授するとともに、リハビリテーションを取り巻く最近の動向を詳説し、今後の課題について考察させる。 ＜授業計画の概要＞ ・「リハビリテーション」の歴史的変遷（概念、理念、定義、対象、方策等） ・障がい（者）とリハビリテーション ・QOLとリハビリテーション ・リハビリテーションを取り巻く近年の動向と今後の課題	
専門科目	学域共通科目	生命倫理学	＜授業形態＞講義 ＜目標＞）生命の「コントロール」をも可能にした高度先端医療には、これまで社会が直面してこなかった問題が発生している。本講義では、医療と生命科学、および生命をめぐる倫理的問題を、生命の尊重とQOL(クオリリティ・オブ・ライフ)の観点を生命倫理の基礎として論じる。そして人としての尊厳を失わず、より良く生き続けることの大切さとこれを支援する専門職者の役割を学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ ・生命倫理学の基礎 ・QOLの概念 ・人工受精、体外受精 ・安楽死・尊厳死 ・生命に関わる諸問題と専門職者の役割	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学域共通科目	人間支援科学論	＜授業形態＞学域複数教員による集中講義 ＜目標＞人々の健康と福祉の向上に寄与する専門的・協働的实践力の基礎と、人と社会を包括的に捉える視点を身につけさせることを目的に、科学としての人間支援の全体像について学ばせる。講義共通のキーワードとして小児・児童、家族、貧困、患者、高齢者等。 ＜授業計画の概要＞ （オムニバス方式、全8回） (14 今木 雅英／1回) ・科学としての人間支援とは何か ・人間支援の多様性と専門性 (18 高見沢恵美子／1回) ・患者と家族に対する看護学的支援 (20 楠木野裕美／1回) ・子どもと家族に対する看護学的支援 (15 上野 昌江／1回) ・地域の高齢者に対する看護学的支援 (2 高畑 進一／1回) ・患者と家族に対するリハビリテーション学的支援 (16 奥田 邦晴／1回) ・高齢者、障害者に対するリハビリテーション学的支援 (25 山野 則子／1回) ・子どもと家庭に対する社会福祉的支援と教育的支援 (26 吉田 敦彦／1回) ・高齢者に対する社会福祉的支援と教育的支援	オムニバス
専門科目	学域共通科目	コラボレーション論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞人の健康と福祉は多様な側面から成り立ち、各側面は相互に影響しあいながらその全体を形成している。健康と福祉を回復、維持、あるいは育むためには、人が本来持つ強さを活性化する支援が重要であり、そのためには多様な領域の専門性と各領域間の協働が必須となる。本講義では、専門領域や専門職の多様性の理解に基づき、協働の達成に必要な基礎知識を学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ ・専門領域と専門職の多様性 ・協働の意義 ・発展プロセス、促進・阻害要因 ・協働の具体的方法 （他職種間チームワーク、施設・組織間ネットワーク、組織と制度のリンケージ）	
専門科目	学域共通科目	コミュニケーション論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞人間は人とのかかわりの中で自己を形成し、成長発達をとげていく。また、他者との意思の相互伝達であるコミュニケーションを基礎に社会は成り立っている。本授業では、コミュニケーションに関する理論を紹介し、医療職者に必要なコミュニケーション技法について学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ ・コミュニケーションの基本理念 ・社会的相互作用とコミュニケーション ・対人コミュニケーションの基礎 ・プログラム学習法を応用した基本的関わり技法の習得	
専門科目	学域共通科目	ケアリング論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞ケアリングとは、他者に対する具体的なケア（世話、心づかい）の実践であり、ニーズへの応答や他者への責任、傾聴や許容、ジェンダーといった概念と深く結びついている。本講義では、ケアの理論的基礎と、学域の各専門領域におけるケアリングの意義と課題を学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） (17 児島 亜紀子／3回) ・ケアの概念、ケアの倫理 (26 吉田 敦彦／3回) ・教育とケア (19 田間 泰子／3回) ・家族におけるケアリング、ジェンダーとケア (27 田垣 正普／3回) ・軽度障害とケア、障害の経験とケア (28 三田 優子／3回) ・精神障害者・知的障害者とケア	オムニバス
専門科目	学類共通科目	理学療法総論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞理学療法学について体系的に理解させることを目標とする。理学療法 of 歴史の変遷、医療制度・体系における理学療法の位置づけと役割等について教授する。また、各種理学療法手段について概説し、理学療法場面における思考・判断・行動プロセスの概要を教授するとともに、治療原理における運動制御の重要性についても言及する。 ＜授業計画の概要＞ ・理学療法学の基礎、学問的背景 ・理学療法の実際（目的、対象、手段、治療における理論的背景） ・医療機関および福祉機関における理学療法学実践	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類共通科目	作業療法学総論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞作業療法の理念や役割の変遷、日本の保健・医療・福祉・教育・職業関連活動領域における作業療法の役割や今後の活動展開を理解させ、作業療法実践の基礎となる対象者の評価、計画の立案・実施、効果の判定などの必要性を認識させ、専門領域への導入を図る。 ＜授業計画の概要＞ ・作業療法の概要 ・作業療法の歴史 ・作業療法の過程と実施 ・作業療法士（専門職）に求められる資質と適性 ・障害体験演習とディスカッション ・作業療法部門の管理と運営	
専門科目	学類共通科目	基礎栄養学	＜授業形態＞講義 ＜目標＞健康の維持増進や疾病の予防、治療、回復において、重要な役割を果たす栄養の意義について理解させる。本講義では、免疫機能や治癒力を向上させる栄養素の概略の解説、栄養素の消化・吸収、栄養素の機能など栄養の働きを学ばせた上で、疾病の治療期や回復期の栄養管理の必要性を理解させる。ついで、エネルギー所要量、栄養所要量の意味と意義を理解させ、その必要量の求め方や策定の基本を学ばせる。 ＜授業計画の概要＞ ・栄養の概念と歴史 ・消化と吸収 ・糖質、タンパク質、ビタミンの栄養、無機質の栄養 ・水・電解質の代謝、エネルギー代謝 ・遺伝と栄養	
専門科目	学類共通科目	救急蘇生法	＜授業形態＞講義 ＜目標＞救命救急に重要な救急蘇生法についての基本的知識を修得させることを目標とする。臨床現場に出た際に不可欠な救命救急に関する知識を中心に、救急蘇生処置が必要となる状況を理解するために、心原性および非心原性ショックや急性呼吸不全等の病態について教授するとともに、その対処方法である呼吸管理、循環管理、輸液管理の重要性や外傷学についても解説する。 ＜授業計画の概要＞ （オムニバス方式／全8回） （129 松尾吉郎／4回）救命救急に関する知識を中心に、初期救急医学に関する内容を講義する。 （116 谷口昌宏／4回）国際蘇生連絡協議会の動向も踏まえた上で、人工呼吸法、心臓マッサージ法を始めとする実践的な救急蘇生法および、AEDの原理と使用方法を解説し、蘇生法実習を交えて講義を進める。	オムニバス
専門科目	学類共通科目	言語療法学	＜授業形態＞講義 ＜目標＞生活におけるコミュニケーションの意義についての理解に基づき、リハビリテーション対象者に高頻度にみられる失語症、言語発達障害、種々の構音障害などのコミュニケーション（言語）障害の種類と分類、特徴、発生機序および基本的な評価法などを教授する。また、失事例を通して言語障害の有無と障害の程度を評価する方法を紹介し、指導・援助の原則と方法を修得させる。 ＜授業計画の概要＞ ・言語と言語障害 ・失語症と種々の構音障害 ・嚥下障害 ・聴力障害 ・対象者（児）との対応	
専門科目	学類共通科目	地域リハビリテーション論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞地域社会におけるリハビリテーションについて、その概念や制度に関する知識を深め、今後のあり方について考察させることを目標とする。地域リハビリテーションにおける専門職の役割について教授するとともに、今後の地域リハビリテーションのあり方について考察させる。 ＜授業計画の概要＞ ・地域リハビリテーションとは ・地域リハビリテーションの制度と関連専門職の役割、社会資源 ・行政における地域リハビリテーションの歴史的変遷 ・地域リハビリテーション推進事業	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	作業療法学基礎理論	＜授業形態＞演習 ＜目標＞感覚統合理論、神経発達学的治療理論、作業遂行理論、人間作業理論などの作業療法理論の概要、各理論の治療上の特色・役割を教授し、作業療法の基礎となる理論を理解させる。 ＜講義計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） （ 2 高畑 進一／2回）作業療法理論の成り立ちとその概要 （ 1 稲富 宏之／3回）精神科領域の理論の概要 （ 5 日垣 一男／4回）人間作業モデル、アンブス、COPMの理論と実際 （ 9 立山 清美／4回）感覚統合理論の理論と実際 （ 8 西川 智子／2回）作業遂行理論の成り立ちと実際	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	作業療法管理学	＜講義形態＞講義 ＜目標＞医療機関や福祉施設における作業療法部門の管理・運営に必要な基礎知識を修得させるため、理学療法部門や看護部門など他の専門職域との役割分担・連携の必要性、技術水準の維持などを教授する。さらに医療保険制度、介護保険制度などの各種社会制度の概要を理解させる。 ＜講義計画の概要＞ ・管理・運営とは ・作業療法士に必要な管理・運営の知識 ・作業療法に関わる各種の法制度 ・作業療法に関わる診療報酬制度	
専門科目	専攻専門科目	作業療法研究法	＜授業形態＞演習 ＜目標＞作業療法における研究の必要性和倫理・情報管理のあり方を論じ、研究実践の基礎を修得させる。また、実験研究法、調査研究法、文献研究法などの特徴を教授する。さらに、文献検索、計画書作成、研究実施、統計分析、論文の作成、発表までの手順と手法を解説し、研究の基礎的知識を修得させる。 ＜講義計画の概要＞ ・作業療法研究の必要性 ・研究における倫理・情報管理の必要性 ・実験研究法の概要 ・調査研究法の概要 ・単一事例研究法の概要 ・文献研究法の概要 ・論文作成の方法と手順	
専門科目	専攻専門科目	臨床生体構造学実習	＜授業形態＞実習 ＜目標＞身体運動を司る運動器の構造に関する知識は理学療法の実践に際して必要不可欠である。理学療法専門科目の履修に先立ち、生体構造学で学んだ解剖学の知識を基本に、運動学ならびに運動器障害への理学療法を実用的な知識として修得させることを目標に、模型・標本の観察および生体観察等を通して、骨・関節、筋の連結について立体的に学び、解剖学的特徴と運動学的特性に基づいた運動療法の基礎となる知識を修得させる。 ＜授業計画の概要＞ （オムニバス方式／全15回） （ 99 荒川高光／8回）主に上肢および体幹の解剖学的特徴と運動学的特性について講義と実習を行う。 （127 藤田直人／7回）主に下肢の解剖学的特徴と運動学的特性について講義と実習を行う。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	作業科学 I	＜授業形式＞講義 ＜目標＞作業療法の学問構造を学ばせるため、人間の作業行為に関する生物学的、心理的、社会的、文化的関係の基礎知識と作業学の体系および作業学成立の歴史的背景について解説する。さらに、作業遂行モデルを基にした作業構造、生活時間調査と作業バランス、作業科学実習 I および II で用いる作業分析の原理と方法の概要を解説する。 ＜講義計画の概要＞ ・人間の作業行為とは ・作業学成立の歴史的背景 ・現在の作業学の現状 ・作業遂行モデルについて ・作業分析の原理と方法	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	作業科学実習Ⅰ	<授業形態>実習 <目標>作業療法において治療手段となる種々の作業活動を体験させ、作業を科学的に分析する視点を学ばせる。 <講義計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (117 田伏 勉／2回) デッサンからアクリル画作成に至る過程を体験し、絵画活動の基礎的知識と技法の修得を図る。 (100 有賀喜代子/2回) 手工芸作業活動を体験させし、作業の特性と治療的活用の視点を身につける。 (120 豊田晃治／4回) 陶芸の特性、土練りから陶器などの作成、素焼き、釉薬、本焼きの各工程を経験しながら基礎的知識と技法の修得を図る。 (3 谷口英治 (H24まで) ・1 稲富宏之 (H25から) ／4回) 作業分析の基礎である工程分析を科学的に分析し、臨床につなぐ視点と作業の治療的意義を学修する。 (7 内藤泰男／3回) 木工の特性、作品完成までの各工程を経験しながら運動学的分析の視点を身につける。 アクリル画と思い出ぬり絵の特徴をK J法を用いて分析し、臨床における絵画の治療的活用の意義を学修する。また、作業種目の物品整理・管理等についても学修する。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	作業科学実習Ⅱ	<授業形態>実習 <目標>作業療法において治療手段となる革細工、手工芸、園芸、遊び・レクリエーションを体験させ、その実施方法と活動の治療的特性を学ばせる。加えて、学生相互の作業指導実習を通じて、作業実施計画の立て方、事前の物品や見本の準備、指導方法などを学ばせる。 <講義計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (9 立山 清美 / 12回) 革細工、手工芸、遊び・レクリエーション (121 豊原 憲子 / 3回) 福祉農園での園芸実習	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	作業科学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>作業の特性を運動、感覚、認知、社会的側面などの観点から分析し、作業を治療的に適応させる過程を学ばせる。このため①身体障害、精神障害、発達障害の各領域で用いられている作業分析の手法、②作業を客観的に測定する手法を教授する。 <講義計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (1 稲富 宏之 / 5回) 精神障害領域において用いられる分析・測定手法を演習させる。 (7 内藤 泰男 / 5回) 身体障害領域において用いられる分析・測定手法を演習させる。 (9 立山 清美 / 5回) 発達障害領域において用いられる分析・測定手法を演習させる。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	作業療法評価学	<授業形態>演習 <目標>対象者の評価を学ばせるため、WHO国際障害分類改訂版（ICF）を用いて解説し、作業療法処方から評価の実施、治療計画の立案、効果判定までのプロセスと注意点を開設する。さらに、観察・面接・検査などの概略、日常の支援者、就労経験など個々の対象者が持つ固有の属性把握など、適切な作業療法を実施するために必要な評価の概要を教授する。 <講義計画の概要> ・作業療法における評価とは ・ICFの構造と概念 ・作業療法評価のプロセスと注意点 ・面接技法 ・観察技法 ・評価に用いられる検査法	
専門科目	専攻専門科目	作業療法評価学各論Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>精神・心理機能障害に対する作業療法に必要な評価法の目的と手法を学ばせる。このため、対象者・家族からの情報収集と他部門からの情報収集、面接、観察、作業活動を利用した作業面接と観察、検査、調査バッテリー、集団評価、職業関連評価、社会機能評価、エゴグラムなどの実際を教授し、適切な評価手法を学習させる。 <講義計画の概要> ・精神・心理機能障害に対する作業療法評価の目的と意義 ・精神・心理機能障害を有する対象者の概要 ・面接、観察技法 ・集団評価 ・社会機能評価 ・各種精神機能評価	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	作業療法評価学各論Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞発達障害の作業療法に必要な評価法を学ばせる。このため、対象児の基礎情報などからの評価事柄抽出、保護者の面接、対象児観察と記録、発達評価（KIDS乳幼児発達スケールなど）、運動機能障害評価、感覚統合・感覚調整障害評価、認知機能障害評価、社会生活技能評価などの手法を教授する。 ＜講義計画の概要＞ ・発達障害に対する作業療法評価の目的と意義 ・発達障害を有する対象児の概要 ・対象児への観察、面接技法および記録法 ・保護者への介入方法 ・運動機能評価 ・感覚統合評価 ・認知機能評価 ・社会生活技能評価	
専門科目	専攻専門科目	作業療法評価学実習	＜授業形態＞実習 ＜目標＞身体障害分野で用いる作業療法評価の目的と意義、手法を学ばせる。このため、生理機能測定、形態測定、関節可動域検査、徒手筋力検査、表在・深部感覚検査、表在反射と病的反射検査、片麻痺機能検査、協調性検査、上肢機能検査などの目的と意義、手法を実技を通じて教授する。 ＜講義計画の概要＞ ・身体障害者に対する作業療法評価の目的と意義 ・身体障害者が有する障害の概要 ・生理機能測定 ・形態測定 ・関節可動域測定 ・徒手筋力測定 ・感覚、協調性、反射などの検査 ・上肢機能検査	
専門科目	専攻専門科目	身体障害作業療法学Ⅰ	＜講義形態＞演習 ＜目標＞様々な疾病・外傷によって生じる身体障害の特徴と各種疾病・外傷に応じた作業療法を学ばせる。 このため、運動協調性障害、感覚機能障害、全身耐久性低下、運動麻痺などの身体障害の特徴と、生体力学的アプローチ、神経発達学的アプローチ、リハビリテーションのアプローチなどに基づいた作業療法を教授する。 ＜講義計画の概要＞ ・身体障害の特徴 ・身体障害を引き起こす種々の疾病、外傷 ・作業療法治療の概要 ・生体力学的アプローチ ・神経発達学的アプローチ ・リハビリテーション的アプローチ	
専門科目	専攻専門科目	身体障害作業療法学Ⅱ	＜講義形態＞演習 ＜目標＞脳血管障害、リウマチ性疾患、脊髄損傷などの障害特徴に応じた作業療法を教授し、各種障害に応じた治療環境の設定、作業活動の選択と段階付け、作業活動を実施する際の注意など、作業療法治療に関する技術を総合的に学ばせる。 ＜講義計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） （鈴木三央／4回） ・中枢神経障害患者に対する神経発達学的理論に基づく作業療法について学習する。 （内藤泰男／11回） ・リウマチ性疾患に対する作業療法治療 ・脊髄損傷に対する作業療法治療 ・外傷に対する作業療法治療	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	身体障害作業療法学Ⅲ	＜講義形態＞演習 ＜目標＞熱傷、慢性中枢神経疾患、呼吸・循環器疾患などの障害特徴に応じた作業療法を教授し、各種障害に応じた治療環境の設定、作業活動の選択と段階付け、作業活動を実施する際の注意など、作業療法治療に関する技術を総合的に学ばせる。 ＜講義計画の概要＞ ・熱傷に対する作業療法治療 ・慢性中枢神経疾患に対する作業療法治療 ・呼吸、循環器疾患に対する作業療法治療 ・廃用症候群に対する作業療法治療	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	身体障害作業療法学実習	＜授業形態＞実習 ＜目標＞作業療法臨床実習Ⅲにおいて経験した脳血管障害、脳性麻痺、神経症などの疾患を有する対象者を再考させ、評価から治療・訓練までを模擬的に実施する実習を通して、より実践的な評価方法（観察、面接、検査測定）、目標設定、作業療法実施計画立案方法、治療・訓練の技術を学ばせる。 ＜講義計画の概要＞ ・各種疾患（脳血管障害、脳性まひ、神経症）に対する作業療法評価の在り方 ・各種疾患に対する作業療法実施計画立案の方法 ・各種疾患に対する具体的な評価、治療、訓練の技術および手順	
専門科目	専攻専門科目	精神障害作業療法学Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞我が国の精神保健福祉対策の概要・法制度、精神障害分野における作業療法の歴史的変遷、作業療法の機能と役割について教授する。また、作業療法評価について、その特性と目的、項目と手段、面接、観察、検査、調査、そして治療計画の立案と実施、効果判定など解説し、作業療法実施に向けた基礎知識を学ばせる。 ＜講義計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） （ 1 稲富 宏之／9回）精神障害分野における作業療法の歴史的変遷、精神作業療法の機能と役割として対象・目的・方法・内容・治療構造・理論モデル（治療構造論、精神力動モデル、学習理論と行動療法、人間作業モデル、など）を学ばせる。 （123 仲谷真一／2回）精神保健福祉対策における地域の各種施設の必要性を学ばせる。 （107 尾上智子／2回）ピアサポーターの立場から当事者の抱える問題や課題について学ばせる。 （108 川端洋子氏／2回）S S T（生活技能訓練）の理論と技法の体験学習を行い、対象者への生活技能の支援に導く力を学ばせる。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	精神障害作業療法学Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞精神障害の各疾患・障害の特性を解説し、各疾患・障害の病期・回復状態に応じた作業療法の評価、治療計画の立案・目標、役割、実施方法について学ばせる。 ＜講義計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） （ 1 稲富 宏之／11回）統合失調症、気分障害、神経症性障害（摂食障害、解離性・転換性障害含む）、薬物依存症、境界例（境界性人格障害）、老年期障害など、それぞれの疾患の病期・回復状態に応じた作業療法の評価、治療計画の立案・目標、役割、実施などについて解説する。 （132 山本和徳／2回）アルコール依存症に対する作業療法を解説する。 （101 井上鉄男／2回）急性期精神疾患の作業療法を解説する。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	精神障害作業療法学実習	＜授業形態＞実習 ＜目標＞精神障害作業療法学で学修した知識をもとに、模擬症例を題材とした小グループでの検討会を行わせ、各種精神疾患の特徴と回復過程、生活障害の特徴、対象者の年齢や社会的背景などを考慮した治療目標の設定の仕方、治療プログラムの立案方法、作業活動の選択方法、治療場面の設定方法、対象者との治療的対応関係など、精神障害に対する作業療法の実践方法について総合的に学ばせる。 ＜講義計画の概要＞ ・上記目的に合わせて学生を小グループ化し、精神科作業療法の実践について総合的に検討を行う。	
専門科目	専攻専門科目	発達障害作業療法学Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞発達障害に対する作業療法の役割、技術を学ばせるため、①作業療法の基本的理念や役割、対象疾患・障害、②正常発達の知識と臨床応用（姿勢・移動運動の発達、目と手の協調性の発達、認知の発達、日常生活活動の発達）、③対象児とその家族への支援に関する基本的な知識を教授する。 ＜講義計画の概要＞以下の項目を講義する ・発達障害における作業療法の基本的理念と役割 ・対象となる疾患、障害 ・発達障害作業療法に必要な正常発達の知識と臨床への応用 ・対象児とその家族への支援に関する基本的な知識	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	発達障害作業療法学Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞発達障害に対する介入技術を学ばせるため、①治療的介入理論と手法（感覚統合療法、神経発達学的アプローチなど）、②特別支援教育の現状と作業療法支援、③脳性麻痺、学習障害、自閉性障害などの基礎的知識および作業療法実践に必要な診方を教授する。 ＜講義計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） （118 辻 薫／2回）脳性麻痺の臨床像と作業療法を理解させるための臨床講義を担当する。 （ 9 立山 清美／13回）治療的な介入理論と手法について、基本的知識、作業療法実践に必要な診方・考え方を教授する。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	発達障害作業療法学実習	＜授業形態＞実習 ＜目標＞発達障害に対する介入方法を実習を通して学ばせる。提示した症例の治療計画をグループ討議で立案させ、模擬的治療までを経験させる。これらの過程において、治療目的や対象児の興味に合致した活動の選択と工夫・段階付け、環境設定の方法など基本的援助技法を修得させる。 ＜講義の概要＞ （オムニバス方式、全15回） （辻 薫／1回）臨床事例の提示および模擬的な作業療法実習の指導 （立山 清美／14回）辻が提示した事例をもとに学生が治療計画の立案、実施ができるよう配慮しながら、辻担当以外を担当する。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	老年期障害作業療法学	＜授業形態＞演習 ＜目標＞老年期障害に対する作業療法の基礎知識と技術を教授する。具体的には、1）一般的な身体的・心理的特性、老年期に多い疾患と障害（認知症やや廃用性症候群）、高齢者を支援する社会制度、2）老年期障害者に対する作業療法実施に必要な知識・技術を学ばせる。 ＜講義計画の内容＞ ・老年期にある人の一般的な身体的、心理的特性 ・老年期の健康の概念 ・老年期に多い疾患と障害 ・高齢者を支援する社会制度 ・老年期障がい者に対する作業療法評価、治療 ・高齢者に対する種々の治療方法	
専門科目	専攻専門科目	高次脳機能障害学Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞高次脳機能障害の特徴と評価・介入方法について教授する。具体的には、脳血管障害や頭部外傷によって生じる意識障害、記憶障害、注意障害、失行、失認、情動障害などの特徴と、評価および作業療法の介入方法について学ばせる。 ＜講義計画の概要＞ （オムニバス方式、全15回） （2 高畑 進一/10回）各種高次脳機能障害の特徴と日常生活への影響、作業療法評価と介入方法について教授する。 （6 大西 久男/5回）各種認知心理検査の特徴と施行方法、CTやMRIなど脳画像の基本的見方について教授する。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	高次脳機能障害学Ⅱ	＜講義形態＞演習 ＜目標＞高次脳機能障害の原因となる代表的な疾患について、各疾患における脳損傷の好発部位と症状の関連を神経解剖生理学的知識にもとづいて理解するとともに、病歴と神経心理学的所見ならびに脳の解剖画像（CT、MRI）・機能画像（SPECT、PET）にもとづく診断技術を習得し、さらに、病態理論に応じた治療・ケアがどうあるべきかを教授する。 ＜講義計画の概要＞ ・脳血管障害に代表される局在病変にもとづく失語・失認・失行・記憶障害・遂行機能障害・情動障害などの様式特異的障害 ・認知症性疾患や頭部外傷などのびまん性病変による複合的・様式横断的な高次脳機能障害 ・統合失調症や広汎性発達障害・PTSDなどの非器質性精神疾患における認知行動障害	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	作業療法義肢装具学Ⅰ	＜授業形態＞講義 ＜目標＞作業療法士に関わる義肢と装具の種類、構造、機能などを概説する。具体的には、切断に関する医学的知識を教授し、切断部位と人工の手足である義肢との関係を理解させる。また、装具については、運動機能障害と装具の力学的特性の関係を理解させる。さらに、義肢および装具を用いる際のチームアプローチについても学ばせる。 ＜講義計画の概要＞ ・切断に関する基礎知識 ・四肢切断者の機能について ・義肢、装具使用の目的 ・義肢の種類と用途 ・装具の種類と用途 ・チームアプローチの重要性について	
専門科目	専攻専門科目	作業療法義肢装具学Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞作業療法において多用する上肢・体幹装具、スプリント、上腕義手、前腕義手などの種類と、構成部品、製作過程を解説し、使用訓練方法と身体への適応判定方法を教授する。また、スプリント、仮義肢の製作を行わせ、ソケットの採型手法、適用技術、注意点を理解させ、各種整形外科疾患に対処する技術や、装着法、日常生活活動場面における義肢・装具の適切な使用法も修得させる。 ＜講義計画の概要＞ ・上肢装具の種類と適応 ・スプリントの作成 ・仮義手の作成 ・義肢・装具の装着法 ・義肢・装具の適切な使用法	
専門科目	専攻専門科目	福祉用具学Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目的＞福祉用具の選定・適合に必要な知識と技術を学ばせるため、福祉用具の定義と歴史、福祉用具の運用、作業療法士の役割、リスクマネジメント、生活動作（食事・整容・更衣・入浴・排泄・起居・移乗・移動）や生活関連動作（仕事・遊び）に用いる福祉用具の種類と機能特性を解説する。また、生活動作、生活関連動作別に、福祉用具の選定・適合時に行う評価方法を教授する。 ＜講義計画の概要＞ ・福祉用具の定義と歴史 ・福祉用具の適用と作業療法士の役割 ・福祉用具の種類と機能、特性 ・福祉用具の選定・適合評価	
専門科目	専攻専門科目	福祉用具学Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞各種の疾患・障害に応じた福祉用具の選定・適合に必要な知識と技術を学ばせる。このため、運動麻痺、関節可動域障害、進行性疾患などの疾病・障害特性をふまえた福祉用具選定・適合方法を解説し、加えて適合例を提示し、自立生活や介護負担軽減を目指した適用原則などの方法を教授する。 ＜講義計画の概要＞ ・疾患や障害別の福祉用具選定・適合 ・各種疾病・障害特性をふまえた福祉用具適合例を提示し、患者の自立生活や介護者の介護負担軽減を目指した適用原則および注意点、フォローアップの方法を教授する。	
専門科目	専攻専門科目	日常生活技術学	＜授業形態＞演習 ＜目標＞日常生活活動の評価・訓練において必要な知識と技術を学ばせる。このため、日常生活活動の概念と範囲を解説し、身体障害者や高齢者が、食事・更衣・排泄などの日常生活活動を取り戻すことの重要性、ＱＯＬに果たす役割を概説する。また、各種評価方法の特徴や施行方法、訓練の原則や自立を促す考え方について教授する。 ＜講義計画の内容＞ ・日常生活活動の概念と範囲 ・作業療法士の役割 ・対象者の日常生活活動に対する評価 ・対象者に対して日常生活活動への援助方法 ・日常生活活動の治療・訓練の原則	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	日常生活技術学実習	＜授業形態＞実習 ＜目標＞各種疾患・障害ごとに必要な日常生活活動の評価・訓練の知識と技術を、実習を通じて学ばせる。具体的には、運動麻痺や関節可動域障害等が及ぼす日常生活活動への影響と、評価および作業療法の介入方法について解説する。 ＜講義の内容＞ （オムニバス方式/全15回） （ 8 西川 智子/13回）身体障害や老年期障害が及ぼす日常生活活動への影響、評価の特徴と施行方法、訓練方法、さらに介護者への指導について教授する。 （109 岸本 光男/2回）発達障害障害が及ぼす日常生活活動への影響、評価の特徴と施行方法、訓練方法、さらに介護者への指導について教授する。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	職業関連技術学	＜授業形態＞演習 ＜目標＞就労支援に果たす作業療法の役割を学ばせるため、職業リハビリテーションの概要、障害者雇用の現状、授産施設・作業所における現状、就労支援のあり方、病院や更生援護施設における職業能力評価技法と訓練方法、医療的援助における作業活動の重要性や実施方法を教授する。また、見学を交え社会資源および各種機関の役割をも学ばせる。 ＜講義計画の内容＞ ・障害者雇用促進法の概要 ・障害者に対する就労支援 ・就労支援に対する作業療法士の役割 ・職業能力評価技法と訓練方法 ・障害者就労に関する各種法制度と社会資源	
専門科目	専攻専門科目	地域作業療法学Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞地域保健福祉における作業療法の実践方法を学ばせるため、地域作業療法の歴史と理念、役割について解説する。さらに、地域の障害者や高齢者およびその家族の生活実態と生活支援の必要性について解説し、訪問リハビリテーション活動、介護保険事業などにおける役割と実践方法、また、介護保険法、自立支援法などの法律と社会資源の活用方法についても解説する。 ＜講義計画の内容＞ ・地域作業療法の歴史 ・地域作業療法の理念と役割 ・地域作業療法の対象と目的 ・各種関連法規の概要と社会資源の活用方法	
専門科目	専攻専門科目	地域作業療法学Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞地域における作業療法の役割を学ばせるため、地域現場における作業療法の実践を教授する。さらに、各種サービス提供機関で働く作業療法士を招き、地域作業療法の最新の話題を学ばせる。これらの体験をふまえ、包括的な保健・医療・福祉サービスに貢献する質の高い作業療法のあり方について考えるきっかけを与える。 ＜講義計画の内容＞ （オムニバス方式、全15回） （ 2 高畑進一／1回）地域における作業療法の役割と実践の概要 （133 横井賀津志／2回）老年期障害領域での地域作業療法の実践、認知症予防事業などの実践 （115 竹田徳則／2回）地域におけるポピュレーションアプローチの実践 （134 渡辺浩一／2回）大阪市社会福祉協議会在宅サービスセンターの取り組みと作業療法士の役割 （112 嶋谷和之／2回）通園施設における作業療法の実践 （122 中島圭一／2回）発達障害児の教育の現状。特別支援学校の役割、特別支援教育について、教育の立場から作業療法に望むこと （124 中本明子／2回）精神障害領域のリハビリテーションの法制度 （125 西尾五郎／2回）精神障害者の地域生活	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	作業療法学卒業研究Ⅰ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞臨床的課題に即した研究テーマの見つけ方、基本的研究デザイン方法など、研究者としての基礎的能力を学ばせる。このため、指導教員による少人数ゼミに所属させ、作業療法学研究法で学んだ研究方法に関する基礎的知識を基に、卒業研究に向けた研究計画書の作成を行わせる。さらに、研究計画書に基づいた予備的な実験や調査を行わせる。 ＜講義計画の内容＞ ・作業療法学担当教員が、少人数のゼミ形式で担当学生を指導し、研究テーマの具体化から研究計画書の作成、一部の予備的な実験・調査実施までを行わせる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	作業療法学卒業研究Ⅱ	＜授業形態＞演習 ＜目標＞ゼミ指導教員の指導の下、作業療法を取り巻く保健・医療・福祉の各分野に関わる研究を実施させる。これまでに学んだ内容から芽生えた問題意識と卒業研究Ⅰで修得した基本的研究手法を元に研究テーマを設定し、科学的手法を用いて研究疑問を解決するためにデータ収集・分析、結果の解釈、仮説の検証を実施させる。これら一連の研究プロセスを卒業研究論文としてまとめ、発表を行わせる。 ＜講義計画の内容＞ ・指導教員のもと、各自が立てた研究計画に沿って研究を行い、卒業研究論文としてまとめる。	
専門科目	専攻専門科目	作業療法ゼミナールⅠ	＜授業形態＞講義 ＜目標＞新入学生に作業療法（士）の具体的なイメージを形成させるとともに、4年間の学習レディネスを高め、能動的学習の必要性を学ばせる。 ＜講義計画の内容＞ ・学科の施設、設備、履修課程を概説し、カリキュラムの構成等を教授する。 ・作業療法における臨床実習の位置づけ、各々の実習で必要な知識、技術を概説し、授業内容との関連性を教授する。 ・教員の臨床経験、研究など具体的な講話を通して、作業療法士の役割や業務について教授する。	
専門科目	専攻専門科目	作業療法ゼミナールⅡ	＜授業形態＞講義 ＜目標＞作業療法臨床実習Ⅱを受講するために必要な知識・技術について再認させ、能動的学習の方法を学ばせる。 ＜講義計画の内容＞ ・2年次後期までに開講された基礎医学、臨床医学、作業療法評価に関する知識の整理について教授する。 ・主要な対象者（児）の疾患・障害の知識の整理について教授する。 ・観察、面接、検査・測定の評価技術の整理について教授する。 ・観察、面接、検査・測定の結果を記載する方法について教授する。 ・作業療法臨床実習Ⅰにおける課題の解決課程について教授する。	
専門科目	専攻専門科目	作業療法ゼミナールⅢ	＜授業形態＞講義 ＜目標＞作業療法臨床実習Ⅲ（対象者の評価および治療計画立案まで）を受講するために必要な知識・技術について再認させ、実習の事前学習の方法を学ばせる。 ＜講義計画の内容＞ ・臨床実習Ⅲの手引きに沿ってオリエンテーションを実施し、対象者への評価の進め方、治療計画作成の手続き、各種記録の作成方法、ケースレポート作成の仕方などについて教授する。 ・実習施設での主たる対象疾患・障害とその評価について事前学習レポートを作成させ、その内容について具体的な指導を実施し、各自の自己学習方法について教授する。	
専門科目	専攻専門科目	作業療法ゼミナールⅣ	＜授業形態＞講義 ＜目標＞作業療法臨床実習Ⅳを受講するにあたり、臨床医学的知識や作業療法評価・治療に関する知識・技術などを再認させ、実習の事前学習の方法を学ばせる。また、実習施設での職員や対象者との人間関係や接遇について、グループワーク等を用いて学ばせる。 ＜講義計画の内容＞ ・臨床実習Ⅳの手引きに沿ってオリエンテーションを実施し、対象者への評価・治療の進め方などについて教授する。 ・実習施設での主たる対象疾患・障害とその評価について事前学習レポートを作成させ、その内容について具体的な指導を実施し、各自の自己学習方法について教授する。 ・グループワーク等を用いて、職員や対象者との人間関係や接遇を教授する	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	作業療法総合演習	＜授業形態＞演習 ＜目標＞作業療法士として臨床で働くレディネスを高めるため、必要な知識・技術を総括し、再度自己学習を行わせる。このため、事例検討や小人数でのグループワークを行わせ、各種分野で必要とされる疾患・障害と作業療法介入に関する知識と技術の整理を行わせ、各自に応じた学習方法について教授する。 ＜講義計画の内容＞ ・作業療法の対象となる疾患・障害の知識。 ・身体障害領域で必要な知識と技術。 ・精神障害領域で必要な知識と技術。 ・発達障害領域で必要な知識と技術。	
専門科目	専攻専門科目	作業療法臨床実習Ⅰ	＜授業形態＞実習 ＜目標＞医療現場や福祉現場などでの作業療法の実際場面（業務など）を見学させ、各専門職種間の役割分担と連携、他職種によって構成されるリハビリテーションチームの役割、チーム内での作業療法の特徴を学ばせる。さらに、評価の一部を行わせ、作業療法士の役割を学ばせる。 ＜講義計画の内容＞ ・夏期休暇期間に、教員の引率のもとに作業療法士の働く現場を1日見学する。 ・後期試験終了後、作業療法士の指導・監督の下に2日間2カ所の施設見学を行う。	
専門科目	専攻専門科目	作業療法臨床実習Ⅱ	＜授業形態＞実習 ＜目標＞医療現場や福祉現場などでの作業療法業務の一部を体験させ、作業療法の流れとその役割を学ばせる。 具体的には 1) 医療現場や福祉現場で作業療法士が行っている各種の評価技術を見学させる。 2) 事前に学習した作業療法評価の知識に基づいて、観察・面接・評価の一部を臨床実習指導者の指導のもとに実施させる。 ＜講義計画の内容＞ ・学生は、臨床実習指導者の指導・監督の下に作業療法評価学で学んだ検査手技を、対象者に実施する。 ・実習期間は、4日間とする。	
専門科目	専攻専門科目	作業療法臨床実習Ⅲ	＜講義形態＞実習 ＜目的＞臨床実習指導者の指導・監督の下に作業療法業務の一部を体験させ、その流れと役割を学ばせる。特に、対象者（児）の作業療法評価から計画立案までを体験し、常に目的をもって行動し、振り返る（Plan-do-see）という作業療法実践の基礎能力を習得させる。 ＜講義計画の内容＞ ・学生は、臨床実習指導者の指導・監督の下に学内で学んだ評価手段を対象者に実施し、対象者の有する問題点を抽出し作業療法治療計画を立てる。 ・実習期間は、3週間とする。	
専門科目	専攻専門科目	作業療法臨床実習Ⅳ	＜授業形態＞実習 ＜目標＞必要な知識と技術症例担当制により作業療法過程全般を経験させる。作業療法の全過程を通じて記録・報告を行わせ、臨床的知見と既習の知識、実習指導者の指導や文献等から得られたエビデンスを総合的に解釈し、科学的根拠に基づいた作業療法を展開していくための手段を修得させ、基本的な作業療法上の課題を独力で解決できる臨床的能力を修得させる。 ＜講義計画の内容＞ ・臨床実習指導者の指導・監督の下に対象者の評価を実施し、問題点を抽出し作業療法治療計画を立案し、実施する。 ・実習期間は、1期6週間の実習を3期行う。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	障がい者スポーツ指導論	＜授業形態＞講義 ＜目標＞リハビリテーション、競技、レクリエーション等、障がい者にとってスポーツが有する多面的な意義と指導方法について理解させる。障がい者スポーツの歴史、組織、種目、障害区分等について解説するとともに、車いすバスケットボール、車いすテニス、ボッチャ、シットバレー等の障がい者スポーツの紹介と模擬体験を通して、心身面への影響も含め、障がい者スポーツへの理解を深め、指導者としての役割を認識させる。 ＜授業計画の概要＞ （オムニバス方式／全8回） （ 16 奥田邦晴／3回）障がい者のスポーツが有する多面的な機能について解説し、スポーツを介して、生活支援者としてのリハビリテーション専門職者の役割について考察する。 （114 高橋 明／5回）障がい者のスポーツの歴史および種々のスポーツについて解説し、模擬体験を通して心身面への影響も含め障がい者のスポーツへの理解を深める。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	応用栄養学Ⅲ	＜授業形態＞講義 ＜目標＞人間の必要とするエネルギー量や栄養素は年齢や性別によるものだけでなく、環境や強い身体活動などの外的要因によっても異なってくる。本講義では、健康増進や競技時の身体活動や、ストレス・精神状態と栄養の関連、高・低温、高・低圧などの外部環境と栄養の関連などを解説し、要因の影響を受けた身体状況の評価方法やそれに対応する栄養管理について理解させることを目標とする。 ＜授業計画の概要＞ ・運動と栄養 ・ストレスと栄養 ・特殊環境と栄養 ・エネルギー代謝 ・水分補給と体温調節	

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（地域保健学域 総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	<授業形態>講義・演習 <目標>人体は誕生、成長、活動、病み、老い、死に至る有限の動物である。生物はこの過程を繰り返すことで、種を維持する。本講義では、生物としての人間、その営み、生命現象について論理的な思考を形成する。また、主として、身体の調節系と統御系の視点から、人間の生物学的更生と機能を相互に学習し、日常生活を可能にしている身体の機構と意義について考察する。 <授業計画の概要> ・身体のあらまし ・顕微鏡実験 ・神経系、消化器系、泌尿器系の構造と機能 ・感覚について ・血液とリンパ	講義 15時間 演習 30時間
専門基礎科目	形態機能学Ⅱ	<授業形態>講義・演習 <目標>本講義では、器官系の働きを学習する。器官系はそれぞれ独立して機能するのではなく、神経系、ホルモン等の物質でその活動が調節されていることを理解させる。器官の傷害は人間の生命活動に大きな影響を与えるので、器官に関する知識の獲得は、人間の健康状態を判断するために必要である。その延長線上には、病態生理の理解、疾病の解釈、病気を持つ人々への援助があることを理解させる。 <授業計画の概要> ・循環器系、呼吸器系の構造と機能 ・電解質と体液、ホルモン ・生殖系と発生 ・骨格と関節	講義 15時間 演習 30時間
専門基礎科目	生化学B	<授業形態>講義 <目標>本講義では、人体を構成する物質の化学的性質と代謝に重点を置いて解説する。また酵素反応の速度論、物質代謝や物質輸送のエネルギー論、および生体内酸化還元反応について解説する。さらに、生体構成物質を生体から分離・分析する技術の基本原則と基礎知識について解説するとともに、代謝経路の異常が疾病の発生に関係していることについても概説する。 <授業計画の概要> ・生体構成物質の化学 ・酵素の構造と機能 ・生体エネルギー論 ・糖質、脂質、アミノ酸、ヌクレオチドの代謝 ・生体構成物質の分離分析技術	
専門基礎科目	栄養生化学	<授業形態>講義 <目標>栄養素がヒトの生体機能恒常性にどのように関わっているかについての理解させる。 <授業計画の概要> 全ての動物は、タンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなどの栄養素として摂取し、自己再生のために利用している。 その動的過程について ・生体成分の合成やエネルギーの生成に如何に関わっているか ・どのように調節されているか 等を学ばせる。	
専門基礎科目	生化学実験Ⅰ	<授業形態>実験 <目標>本講義では、生命体の構成成分は何か、その役割は何か、そしてどのように変化するかといった生化学の内容をよく理解させるための実験を行う。生体構成物質の分離精製技術、生体構成物質の分光学的・化学的・免疫化学的な定性定量分析技術、生体構成物質の機能の解析技術などを修得させる。 <授業計画の概要> ・実験講義 ・基礎実験 ・酵素反応 ・タンパク質の電気泳動とクロマトグラフィー ・遺伝子操作	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	生化学実験Ⅱ	<授業形態>実験 <目標>生化学は人体の機能の化学に関する基礎となる重要な分野である。本講義では、生体を構成する成分(糖質、脂質、タンパク質)や酵素についてさらに理解を深めることを目的に実験を行う。さらに、コンピュータを用いた実験データの整理や解析方法、レポートのまとめ方についても修得させ、応用力を養い、創造的な思考を養うことを目的とする。 <授業計画の概要>。 ・糖の検出 ・タンパク質の分離と確認 ・脂質の分離、消化	
専門基礎科目	微生物学総論	<授業形態>講義 <目標>自然界には肉眼では見えないほど小さな多種類の微生物(細菌、真菌、原虫、ウイルス)が生息しており、その多くはヒトには無害であるが、なかには有益なもの、あるいはヒトや動物に病気を起こすもの(病原微生物)もある。本講義では、これらの微生物に共通する性質や疾病を引き起こす代表的な微生物について教授し、感染症についても概説する。 <授業計画の概要> ・微生物学の基礎 ・感染と感染症 ・感染症の種類 ・感染に対する生体防御機構 ・感染症の予防・診断・治療	
専門基礎科目	薬理学総論	<授業形態>講義 <目標>医薬品には副作用や薬物中毒などの好ましくない作用がある。本講義では、医薬品が人体の生理機構のなかで、どのように作用するかを解説し、使用方法など医療職者が知っておくべき医薬品の基礎知識を学ばせる。 <授業計画の概要> ・薬物作用と受容体、薬効に影響を与える因子 ・薬物の体内動態、薬物相互作用など ・自律神経系と体性神経系の機能 ・交感神経系・副交感神経系興奮薬と遮断薬 ・オータコイド ・心臓・血管系、中枢神経系に作用する薬物	
専門基礎科目	病理学総論	<授業形態>講義 <目標>本講義では、病理学の医学における位置づけを教授し、病理学そのものの性格を説明する。そして、疾病を病因の観点から説明し、また、疾病の基本である病変を奇形、代謝障害、進行性病変、循環障害、炎症および腫瘍の6つに分類し、それぞれについて視聴覚教材等を用いて講義する。あわせて各々の病変の代表的な疾患についても解説する。 <授業計画の概要> ・病理学の意義と役割 ・細胞障害の機序とその修復 ・炎症 ・感染症、免疫異常、代謝障害、循環障害、染色体・遺伝子及び発生異常、腫瘍	
専門基礎科目	内科学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>代表的な内科系疾患の原因や病態の理解、リスク管理などに必要な症候学、病態生理学や臨床検査データの理解、感染症予防のための基本的事項の理解とともに、一般的な治療方法についても理解させることを目標とする。本講義では、主に循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患などを中心に講義する。 <授業計画の概要> ・内科学の概念 ・診断と治療の実際 ・症候学 ・循環器疾患 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患 ・肝胆膵疾患	
専門基礎科目	内科学Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>代表的な内科系疾患の原因や病態の理解、リスク管理などに必要な症候学、病態生理学や臨床検査データの理解、感染症予防のための基本的事項の理解とともに、一般的な治療方法についても理解させることを目標とする。本講義では、主に代謝系疾患、免疫疾患、感染症疾患などを中心に講義する。 <授業計画の概要> ・血液・造血器疾患 ・代謝性疾患 ・内分泌疾患 ・腎・泌尿器疾患 ・膠原病・アレルギー疾患・免疫不全 ・中毒および環境要因による疾患	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	小児・高齢医学	<授業形態>演習 <目標>人間のライフステージにおける初期段階としての周産期・小児期と、最終段階としての高齢期に焦点をあて、それぞれのステージにおける身体特性と疾患特性について教授する。 <授業計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (110 落合 利佳／7回) 小児期における発達、先天異常、新生児、神経等の分野から、小児の疾患・障害の原因、付随する問題点の病態に関する基本事項を講義する。 (105 阿部 和夫／8回) 高齢期における加齢に伴う身体および精神的側面の変化と特徴的疾患について概説し、これら疾患・障害の原因ならびに対処法に関する基本事項を講義する。	オムニバス
専門基礎科目	整形外科学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>整形外科疾患の原因や病態、検査データをもとにした診断や画像診断、治療等に関して系統的に教授することで、運動器系障害の基礎的知識を十分に習得させ、理学療法および作業療法の評価・治療に展開させる。本講義では、保存的治療と観血的治療という代表的整形外科の治療法を概説した上で、外傷、関節リウマチ、変形性関節症、骨系統疾患、代謝性骨疾患等について総論的に教授する。 <授業計画の概要> ・歴史、筋骨格系組織の生理学について ・骨折と脱臼 ・骨と関節の感染症 ・関節リウマチ、壊死性骨疾患、骨系統疾患、腫瘍ほか	
専門基礎科目	神経内科学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>神経疾患の全体像を体系的に捉えるとともに、各疾患の病態と検査、診断、治療に関する基本的知識を習得させることを目標とする。 神経内科学Ⅰでは、総論的に中枢神経系および末梢神経系の解剖生理学的知識を踏まえた神経症候学を解説し、各種の代表的疾患の原因ならびに病変局部位と症候の対応を理解させ、解剖・機能画像、神経生理検査ほかの臨床検査をもとにした診断ならびに治療についての基本事項を教授する。 <授業計画の概要> ・中枢神経系および末梢神経系の神経症候学 ・各種代表疾患の原因ならびに病変部位 ・各種代表疾患の診断ならびに治療の概要	
専門基礎科目	精神医学Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>精神疾患の全体像を体系的に捉えるとともに、各疾患の病態と検査、診断、治療に関する基本的知識を習得させることを目標とする。 精神医学の歴史を概説し、他の医学分野と異なる方法論的特性を有することを理解させ、基本的な精神症候学を学ばせたうえで、統合失調症・気分障害・神経症・人格障害・発達障害・摂食障害・物質関連性障害・てんかん・認知症・睡眠障害に関する基本的知識を教授する。 <授業計画の概要> ・精神医学の歴史 ・統合失調症、気分障害、神経症、人格障害 ・発達障害、摂食障害 ・物質関連性障害 ・てんかん、認知症、睡眠障害	
専門基礎科目	人間発達学	<授業形態>演習 <目標>人の人格形成には、身体の成長とともに、精神面での発達が年齢に応じて成長することが重要である。人間発達学は、この成長の過程ならびに退行期の特徴を医療職者として、知識を習得する必要がある。本講義では、身体面、心理面や社会性などの形成過程において発生する問題を理解させ、人としての成長の度合いを観察する力を養わせる。 <授業計画の概要> ・「人間発達」とは ・胎児期、周産期 ・新生児期・乳児期 ・乳児期・幼児期・児童期 ・思春期・青年期 ・成人期・老年期 ・発達臨床	
専門基礎科目	臨床心理学	<授業形態>演習 <目標>臨床心理学とは、心理学の応用分野の一つであり、心に悩みをもつ人に対する科学的援助体系である。実践分野としては、心理検査法と心理療法に分かれる。 本講義では、臨床心理学上の基本的な考え方と、実践に用いる基本技法の習得をめざす。また、悩める人を理解し、適切なサポートを実施できる技能と視点の修得、心の健康を維持増進するためのストレスマネジメントの修得もめざす。 <授業計画の概要> ・臨床心理学とは何か ・臨床心理学からみた症状(不安障害、気分障害) ・臨床アセスメントの必要性	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目		公衆衛生学B	<授業形態>演習 <目標>健康と社会・環境の関わりについて理解させる。本講義では、人間や人間の生活を生態系の中に位置付け、人間の行動特性と生体維持の基本的メカニズムについて理解させ、社会や環境の変化が健康に与える影響を学ばせる。さらに、健康の概念を解説し、健康の維持増進や疾病予防を社会生活の中で実現するための考え方と方法について理解させる。 <授業計画の概要> - 健康維持増進、疾病予防に関する基礎的な概念 - 公衆衛生の歴史、法制度の変遷 - 領域別保健対策 - 喫煙、飲酒 - 疾病予防のメカニズム	
		公衆衛生学実習	<授業形態>実習 <目標>社会的要因では、地域生命表の作成、平均寿命の算出、がん検診の有効性など地域保健統計手法や、慢性疾患の疫学的調査法である患者・対照研究、コホート研究などを修得させる。環境要因では、河川、大気、土壌、生物など地域の身近な環境の調査実習を行い、それに加えて上水試験、下水試験、空気試験などの基本的測定方法を修得させる。 <授業計画の概要> - 環境要因の調査 - 健康、疾病、行動に関わる統計資料の読み方 - 健康状態・疾病測定と評価	
		健康情報管理実習	<授業形態>実習 <目標>保健医療サービスに携わる専門職者にとって重要な「根拠のある医療（EBM）」の概念について解説し、その実践のために必要となる健康情報の収集、活用、提供を行なうための情報処理方法について習得させる。さらに、得られたデータから有用な情報を取り出す方法論としての統計処理について理解させる。また、インターネットなどの情報技術に基づいた健康情報システムの事例についても講義する。 <授業計画の概要> - EBNに基づく栄養情報処理 - 学術情報の取得 - 分布にかかわらない統計方法	
		リハビリテーション概論	<授業形態>講義 <目標>国内外におけるリハビリテーションの意味、理念、定義とこれらの歴史の変遷について教授するとともに、リハビリテーションを取り巻く最近の動向を詳説し、今後の課題について考察させる。 <授業計画の概要> 「リハビリテーション」の歴史の変遷（概念、理念、定義、対象、方策等） - 障がい（者）とリハビリテーション - QOLとリハビリテーション - リハビリテーションを取り巻く近年の動向と今後の課題	
		生命倫理学	<授業形態>講義 <目標>生命の「コントロール」をも可能にした高度先端医療には、これまで社会が直面してこなかった問題が発生している。本講義では、医療と生命科学、および生命をめぐる倫理的問題を、生命の尊重とQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の観点を生命倫理の基礎として論じる。そして人としての尊厳を失わず、より良く生き続けることの大切さとこれを支援する専門職者の役割を学ばせる。 <授業計画の概要> - 生命倫理学の基礎 - QOLの概念 - 人工受精、体外受精 - 安楽死・尊厳死 - 生命に関わる諸問題と専門職者の役割	
専門科目	学域共通科目			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学域共通科目	人間支援科学論	<授業形態>学域複数教員による集中講義 <目標>人々の健康と福祉の向上に寄与する専門的・協働的実践力の基礎と、人と社会を包括的に捉える視点を身につけさせることを目的に、科学としての人間支援の全体像について学ばせる。講義共通のキーワードとして小児・児童、家族、貧困、患者、高齢者等。 <授業計画の概要> (オムニバス方式、全8回) (1 今木 雅英／1回)・科学としての人間支援とは何か ・人間支援の多様性と専門性 (24 高見沢恵美子／1回)・患者と家族に対する看護学的支援 (27 檜木野裕美／1回) ・子どもと家族に対する看護学的支援 (19 上野 昌江／1回) ・地域の高齢者に対する看護学的支援 (23 高畑 進一／1回) ・患者と家族に対するリハビリテーション学的支援 (20 奥田 邦晴／1回) ・高齢者、障害者に対するリハビリテーション学的支援 (31 山野 則子／1回) ・子どもと家庭に対する社会福祉の支援と教育的支援 (32 吉田 敦彦／1回) ・高齢者に対する社会福祉的支援と教育的支援	オムニバス
専門科目	学域共通科目	コラボレーション論	<授業形態>講義 <目標>人の健康と福祉は多様な側面から成り立ち、各側面は相互に影響しあいながらその全体を形成している。健康と福祉を回復、維持、あるいは育むためには、人が本来持つ強さを活性化する支援が重要であり、そのためには多様な領域の専門性と各領域間の協働が必須となる。本講義では、専門領域や専門職の多様性の理解に基づき、協働の達成に必要な基礎知識を学ばせる。 <授業計画の概要> ・専門領域と専門職の多様性 ・協働の意義 ・発展プロセス、促進・阻害要因 ・協働の具体的方法 (他職種間チームワーク、施設・組織間ネットワーク、組織と制度のリンケージ)	
専門科目	学域共通科目	コミュニケーション論	<授業形態>講義 <目標>人間は人とかかわりの中で自己を形成し、成長発達をとげていく。また、他者との意思の相互伝達であるコミュニケーションを基礎に社会は成り立っている。本授業では、コミュニケーションに関する理論を紹介し、医療職者に必要なコミュニケーション技法について学ばせる。 <授業計画の概要> ・コミュニケーションの基本理念 ・社会的相互作用とコミュニケーション ・対人コミュニケーションの基礎 ・プログラム学習法を応用した基本的関わり技法の習得	
専門科目	学域共通科目	ケアリング論	<授業形態>講義 <目標>ケアリングとは、他者に対する具体的なケア（世話、心づかい）の実践であり、ニーズへの応答や他者への責任、傾聴や許容、ジェンダーといった概念と深く結びついている。本講義では、ケアの理論的基礎と、学域の各専門領域におけるケアリングの意義と課題を学ばせる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (21 児島 亜紀子／3回)・ケアの概念、ケアの倫理 (32 吉田 敦彦／3回)・教育とケア (26 田間 泰子／3回)・家族におけるケアリング、ジェンダーとケア (34 田垣 正善／3回)・軽度障害とケア、障害の経験とケア (35 三田 優子／3回)・精神障害者・知的障害者とケア	オムニバス
専門科目	学類共通科目	理学療法学総論	<授業形態>講義 <目標>理学療法学について体系的に理解させることを目標とする。理学療法の歴史の変遷、医療制度・体系における理学療法の位置づけと役割等について教授する。また、各種理学療法手段について概説し、理学療法場面における思考・判断・行動プロセスの概要を教授するとともに、治療原理における運動制御の重要性についても言及する。 <授業計画の概要> ・理学療法学の基礎、学問的背景 ・理学療法の実践（目的、対象、手段、治療における理論的背景） ・医療機関および福祉機関における理学療法学実践	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学類共通科目	作業療法学総論	<授業形態>講義 <目標>作業療法の理念や役割の変遷、日本の保健・医療・福祉・教育・職業関連活動領域における作業療法の役割や今後の活動展開を理解させ、作業療法実践の基礎となる対象者の評価、計画の立案・実施、効果の判定などの必要性を認識させ、専門領域への導入を図る。 <授業計画の概要> ・作業療法の概要 ・作業療法の歴史 ・作業療法の過程と実施 ・作業療法士（専門職）に求められる資質と適性 ・障害体験演習とディスカッション ・作業療法部門の管理と運営	
	学類共通科目	基礎栄養学	<授業形態>講義 <目標>健康の維持増進や疾病の予防、治療、回復において、重要な役割を果たす栄養の意義について理解させる。本講義では、免疫機能や治癒力を向上させる栄養素の概略の解説、栄養素の消化・吸収、栄養素の機能など栄養の働きを学ばせた上で、疾病の治療期や回復期の栄養管理の必要性を理解させる。ついで、エネルギー所要量、栄養所要量の意味と意義を理解させ、その必要量の求め方や策定の基本を学ばせる。 <授業計画の概要> ・栄養の概念と歴史 ・消化と吸収 ・糖質、タンパク質、ビタミンの栄養、無機質の栄養 ・水・電解質の代謝、エネルギー代謝 ・遺伝と栄養	
	学類共通科目	救急蘇生法	<授業形態>講義 <目標>救命救急に重要な救急蘇生法についての基本的知識を修得させることを目標とする。臨床現場に出た際に不可欠な救命救急に関する知識を中心に、救急蘇生処置が必要となる状況を理解するために、心原性および非心原性ショックや急性呼吸不全等の病態について教授するとともに、その対処方法である呼吸管理、循環管理、輸液管理の重要性や外傷学についても解説する。 <授業計画の概要> （オムニバス方式／全8回） （117 松尾吉郎／4回）救命救急に関する知識を中心に、初期救急医学に関する内容を講義する。 （113 谷口昌宏／4回）国際蘇生連絡協議会の動向も踏まえた上で、人工呼吸法、心臓マッサージ法を始めとする実践的な救急蘇生法および、AEDの原理と使用方法を解説し、蘇生法実習を交えて講義を進める。	オムニバス
	学類共通科目	言語療法学	<授業形態>講義 <目標>生活におけるコミュニケーションの意義についての理解に基づき、リハビリテーション対象者に高頻度に見られる失語症、言語発達障害、種々の構音障害などのコミュニケーション（言語）障害の種類と分類、特徴、発生机序および基本的な評価法などを教授する。また、失事例を通して言語障害の有無と障害の程度を評価する方法を紹介し、指導・援助の原則と方法を修得させる。 <授業計画の概要> ・言語と言語障害 ・失語症と種々の構音障害 ・嚥下障害 ・聴力障害 ・対象者（児）との対応	
	学類共通科目	地域リハビリテーション論	<授業形態>講義 <目標>地域社会におけるリハビリテーションについて、その概念や制度に関する知識を深め、今後のあり方について考察させることを目標とする。地域リハビリテーションにおける専門職の役割について教授するとともに、今後の地域リハビリテーションのあり方について考察させる。 <授業計画の概要> ・地域リハビリテーションとは ・地域リハビリテーションの制度と関連専門職の役割、社会資源 ・行政における地域リハビリテーションの歴史的変遷 ・地域リハビリテーション推進事業	
	専攻専門科目	総合化学	<授業形態>講義 <目標>栄養療法学を修めるために必要な生化学、栄養学、食品学などの基礎となる化学、特に無機化学、分析化学、有機化学の基本を中心に講義する。栄養療法が対象となるヒトの生命現象および栄養療法に必要な食品の性質など、を理解するための化学的知識・分析法や思考法を習得させる。 <授業計画の概要> ・原子・分子の構造 ・放射性核種と放射線 ・化学反応とエネルギー ・水・溶液と濃度の概念 ・酸・塩基と分析への応用 ・酸化・還元と分析への応用 ・有機化合物の構造と反応	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	基礎栄養学実習	<授業形態>実習 <目標>基礎栄養学で学んだ内容をさらに深く理解させるための実習を行う。人間のエネルギー代謝量や基礎代謝量の測定実習を行い、それぞれの代謝に影響を及ぼす因子を理解させる。また、動物実験において栄養素の消化吸収率を求め、エネルギー所要量の算定を学ばせる。 <授業計画の概要> ・ラットを用いた栄養実習 ・熱損失の測定、エネルギー消費量測定 ・窒素分析 ・タンパク質利用効率測定 ・血清尿素濃度測定 ・人工唾液による脂肪の消化	
専門科目	専攻専門科目	食品科学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>栄養学にとっては必須項目である食品についての基礎を学ばせる。食品の種類や分類、食品の持っている特性、およびタンパク質、炭水化物、脂質などの栄養素の化学、代謝、機能について解説する。さらに、食品成分表の意義や成分値測定法などにも触れ、食品についての知識を理解させる。 <授業計画の概要> ・食品の歴史の変遷、食物 ・食嗜好の形成、食生活の変化 ・食品のもつべき特性、機能性食品 ・食品の分類、食品成分表 ・食品の化学成分（タンパク質、脂質）	
専門科目	専攻専門科目	食品科学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>食品の性状、栄養特性、安全性の確保について理解させる。食品ならびに食品に含まれる成分の性状や特徴を、その生育や生産の歴史的背景も含めて解説する。食品の栄養特性と安全性の確保について理解させるために、食品の物性を左右する高分子について解説し、食品の加工や調理・保存の過程における物性の成分・品質変化について学ばせる。 <授業計画の概要> ・食品の化学成分 ・食品の色と味、非栄養素成分 ・食品成分の変化と栄養、酵素的变化 ・農産物・畜産物・水産物の科学 ・食品の機能性	
専門科目	専攻専門科目	食品科学Ⅲ	<授業形態>講義 <目標>適正な栄養摂取のためには食品の組み合わせが必要となる。本講義においては、経口栄養の意義や目的と、調理に関する基本的な知識、およびバランスの取れた栄養素を食品から摂取する方法を理解させる。また、適正な栄養摂取のために、食品材料の選択から、食品の調理・加工・保存の方法についての基礎を理解させる。 <授業計画の概要> ・調理学の概要 ・食事計画 ・食べ物のおいしさ ・植物性食品、動物性食品、抽出食品素材、調味料・香辛料の調理性 ・調理操作、調理機器、調理文化、環境と調理	
専門科目	専攻専門科目	食品科学実験Ⅰ	<授業形態>実験 <目標>食品栄養学Ⅰ、Ⅱで学んだ内容をさらに深く理解させるための実験を行う。食品成分を化学的に理解させるため、食品の分析手法や成分値測定方法を修得させ、各種食品の成分値を求めさせる。さらに、食品の栄養特性、嗜好性を高める処理方法、安全性を確保する処理方法を行わせる。また、食品加工・保存処理による、成分や品質の変化の過程を確認させる。 <授業計画の概要>（オムニバス方式、全15回） （12 岩城 俊雄／8回） 水分、タンパク質、脂質、炭水化物、灰分、油脂などの成分の測定技術を修得させ、各種食品の成分値を求めさせる。 （14 山本 公平／7回） 無機質、ビタミン、脂肪酸、コレステロール等の定量について修得させる。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	食品科学実験Ⅱ	<授業形態>実験 <目標>食品栄養学Ⅲで学んだ内容をさらに深く理解させるための実験を行う。植物性食品、動物性食品など多種類の食品の調理・加工の過程における性質の変化を理解させる。また、非加熱調理操作や、加熱調理操作などの目的にあった調理操作を修得させる。さらに、官能検査などの感覚的な評価方法も取り入れ、食材の調理・加工方法を学ばせる。 <授業計画の概要> ・植物性食品および動物性食品の調理性 ・食品の選び方と下処理 ・調理の基本操作、日本・西洋・中国料理の基本調理 ・食品の加工	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	食品衛生学	<授業形態>講義 <目標>食品を介して引き起こされるヒトの健康危害と、危害防止のための食品の衛生管理について理解させる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (106 今川 忠/7回) 病原微生物・有害化学物質・動物性及び植物性天然毒に起因する食中毒、食物アレルギーなど様々な健康危害について原因物質とその危害について学習させる。 (14 山本公平/8回) 食品の腐敗と変質、加工や保存を目的とした食品添加物、食品内の異物・残留物や食品の保存に使用されている容器や包装についても講述し、様々な段階での多様な有害物質による食品汚染を理解させ、食品の生産・製造・貯蔵・流通の過程での安全性確保について解説する。	オムニバス
	専攻専門科目	食品衛生学実験	<授業形態>実験 <目標>食品衛生学で学んだ内容をさらに深く理解させるための実験を行う。 <授業計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (106 今川 忠 /7回) 無菌操作、滅菌法、消毒法、染色法など食中毒起因菌を取り扱うための基本操作や、我が国で発生が多い黄色ブドウ球菌など食中毒菌の性状観察や検出方法を修得させる。 (14 山本公平/8回) 分光光度計、ガスクロマトグラフ、高速液体クロマトグラフ、原子吸光度計を使用した、保存料、合成着色料などの食品添加物の含有試験や、有害性金属の試験などの基本的な手法を修得させる。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	応用栄養学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>本講義においては、ヒトのライフステージの中で、妊娠期、授乳期、乳幼児期、思春期に至る栄養と栄養管理について学ばせることを目標とする。その他、ヒトの職制の本質と栄養適応能力や生体リズム、食物と薬物の相互作用などについても解説する。 <授業計画の概要> ・栄養環境への適応 ・妊娠期、授乳期、新生児・乳児期、幼児期、学童期、思春期の栄養 ・食物アレルギー ・薬物と食物の相互作用の解説	
専門科目	専攻専門科目	応用栄養学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>本講義では、ヒトのライフステージの中で、青年期から成人期、壮年期、更年期、高齢期に至るまでの加齢に伴う人体の構造や機能の変化と栄養状態の特徴を理解するとともに、それぞれのライフステージにおいて必要な栄養管理について学ばせることを目標とする。 <授業計画の概要> ・生体の加齢変化 ・食事摂取基準 ・成人期、壮年期、更年期、高齢期の栄養 ・ライフステージ別の食事計画	
専門科目	専攻専門科目	応用栄養学Ⅲ	<授業形態>講義 <目標>人間の必要とするエネルギー量や栄養素は年齢や性別によるものだけでなく、環境や強い身体活動などの外的要因によっても異なってくる。本講義では、健康増進や競技時の身体活動や、ストレス・精神状態と栄養の関連、高・低温、高・低圧などの外部環境と栄養の関連などを解説し、要因の影響を受けた身体状況の評価方法やそれに対応する栄養管理について理解させることを目標とする。 <授業計画の概要> ・運動と栄養 ・ストレスと栄養 ・特殊環境と栄養 ・エネルギー代謝 ・水分補給と体温調節	
専門科目	専攻専門科目	応用栄養学実習	<授業形態>実習 <目標>応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだ内容をさらに深く理解させるための実習を行う。妊娠・授乳期では妊娠期の食事の作成や母乳と人工乳の比較、調乳などの実習、小児期では離乳食やアレルギー除去食の作成、青年期では食事調査や食生活の指導、高齢期では易嚥下食やミキサー食の作成などを行う。 <授業計画の概要> ・妊娠期・授乳期・乳幼児期・学童期・青年期・成人期・高齢期に適する献立作成 ・ライフステージごとの食生活指導方法 ・栄養評価ソフトの活用	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	栄養評価学	<授業形態>講義 <目標>個人の身体組成や計測値、血液性状値、栄養摂取状況などの情報から、エネルギーや栄養素の量の出納を明らかにして、栄養素の蓄積量や必要量を正確に測定し評価する方法や、経時的に変化する栄養状態の評価について学び、栄養アセスメントに必要な能力を身につけさせる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (4 堀部秀一 /8回) 身体計測、血液生化学などの検査による傷病者の病態評価および経時的な変化の評価 (13 黒川通典 /7回) 食事摂取量の評価と過不足の判定 ・身体計測、血液生化学などの検査による栄養状態の評価	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	栄養評価学実習	<授業形態>実習 <目標>栄養評価学で学んだ内容をもとに、実習を通じて臨床現場における管理栄養士として必要な栄養アセスメントが行える技術を身につけさせる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (13 黒川通典 /8回) 学生相互が体脂肪量、除脂肪量、体水分、骨密度などの身体組成の測定、体囲、皮下脂肪厚などの身体計測、摂取栄養量の推定、消費エネルギーの測定などを行い、栄養状態を評価する原理と方法を理解させる。 (5 邨次 誠/7回) 栄養評価方法の1つである血液中のタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなどの成分や尿中の窒素などの成分の測定技術を修得させる。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	栄養教育論Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>栄養評価で求めらた栄養量をどのように摂取するかは栄養管理上で最も重要な点である。栄養教育では、地域、慣習、家庭、個人により異なる栄養摂取状況を正確に把握し、栄養を適切に摂取させる方法論を学ぶ必要がある。本講義では生活習慣、健康行動と食行動、食環境との関連を理解させた上で、身体状況、栄養摂取状況などの情報の収集法や分析法を学ばせ、対象者を正確に把握する方法を修得させる。 <授業計画の概要> ・栄養教育マネジメント ・栄養教育のためのアセスメント ・栄養教育の実施および評価	
専門科目	専攻専門科目	栄養教育論Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>適切な栄養摂取を促すには、対象者自身が自ら習慣化した食行動を変容させる必要がある。本講義では、食行動の背景を解説し、行動変容の方法論を学ばせる。食行動の形成は繰り返しの食生活から始まり、その確立には行動科学的な側面や生理的、物理・化学的、文化・社会的、心理的要因が関与している。その行動を理解させ、変容の方法論として、クライアント中心療法などの栄養カウンセリングマインドについて修得させる。 <授業計画の概要> ・行動科学と教育 ・食行動変容と栄養教育 ・栄養教育の方法と評価	
専門科目	専攻専門科目	栄養教育論Ⅲ	<授業形態>講義 <目標>対象者を正確に把握し、行動変容の方法論を学んだ上で、具体的な栄養教育内容の組み立てや栄養教育のための手法を学ばせる。 <授業計画の概要> (オムニバス方式、全15回) (7 大関 知子/10回) 栄養教育の効果の評価方法なども解説し、教育計画、実施、効果の評価という一連の教育プログラムの繰り返しだが、食行動の変容に繋がることを理解させる。 (8 小川 由紀子/5回) ライフステージ別、疾患別、地域、職域、個人と集団別など各対象の栄養教育について修得させる。	オムニバス
専門科目	専攻専門科目	栄養教育論実習	<授業形態>実習 <目標>栄養教育論で学んだ内容をさらに深く理解させるための実習を行う。情報を基に個人や集団に対する一連の教育プログラムを実習させる。さらに、カウンセリング能力を高めるためのロールプレイングや事例研究などを積極的に取り入れ、栄養教育の体験実習を行う。 <授業計画の概要> ・カウンセリングの基礎技法 ・カウンセリングの実践 ・患者に対する栄養教育 ・大学生に対する栄養教育 ・3～5歳対象の教育内容（食育）の立案、媒体作成	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	臨床栄養学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>治療の一環に、制限食、強化食、特定保健用食品、栄養剤などを与えることにより、栄養が疾病の進展阻止と治癒を直接的、間接的に可能にすることに着目した臨床栄養管理の概念を学ばせる。本講義ではこの基礎知識として、各疾患の栄養状態・栄養ケアを理解し、内科系疾患を中心、症例を扱い、病態や栄養状態を評価して栄養ケアプランや食事プランを作成させる。 <授業計画の概要> - 臨床栄養学の意義と目的 - 消化器疾患、肝臓疾患、内分泌・代謝疾患の病態生理と栄養管理 - 糖尿病の食品交換表の使い方	
専門科目	専攻専門科目	臨床栄養学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>本講義においては循環器疾患、腎疾患などの生活習慣病に対する治療における臨床栄養管理を理解させる。さらに、臨床栄養評価・必要栄養量算定・栄養ケアプランの作成と実施・モニタリング・カルテ記述など栄養管理業務について基礎知識を理解させる。 <授業計画の概要> - 循環器疾患、腎臓疾患の病態生理と栄養管理 - 低栄養の栄養管理、嚥下困難 - 血液疾患の病態生理と栄養管理 - 医の倫理・患者の権利と管理栄養士業務	
専門科目	専攻専門科目	臨床栄養学Ⅲ	<授業形態>講義 <目標>本講義においては、臨床栄養管理を実施するために必要な各疾患の病態メカニズムについて講義する。また、呼吸不全、重症感染症、がん、炎症性腸疾患などの疾患および経口栄養法について解説する。さらに、栄養サポートチームの重要性と役割について理解させ、医師、看護師などとの連携の強化を図る必要性を学ばせる。 <授業計画の概要> - 消化器疾患、肝臓疾患、内分泌・代謝疾患、循環器疾患、腎臓疾患の病態生理 - 術前栄養・術後栄養・経腸栄養・中心静脈栄養の栄養管理 - 栄養サポートチームの重要性と役割	
専門科目	専攻専門科目	臨床栄養学実習	<授業形態>実習 <目標>臨床栄養学で学んだ内容をさらに深く理解させるための実習を行う。経口栄養法については、糖尿病食、腎臓病食、肝臓病食、嚥下困難食、炎症性腸疾患など主要な疾患の食事について、栄養基準を求め、献立作成、調理、試食を行う。経口栄養法については、経腸栄養剤の調配合の栄養基準を求める実習を行う。 <授業計画の概要> - 病態栄養アセスメント - 栄養管理カルテの記録 - ベッドサイドへの訪問による栄養アセスメント - 栄養管理計画栄養管理のモニタリング	
専門科目	専攻専門科目	公衆栄養学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>地域や職域などの集団の健康問題における栄養の影響ならびに問題解決方法を解説し、疾病予防の基本的根拠を理解させる。本講義においては、がんや心疾患および脳血管疾患などの生活習慣病を取り上げて、疾病発症と生活習慣要因、遺伝要因、外部環境要因との関連性について、発症のメカニズムを中心に解説する。 <授業計画の概要> - 我が国および諸外国の健康・栄養問題の現状と課題 - 我が国の栄養政策 - 日本人の食事摂取基準 - 公衆栄養マネジメント、アセスメント、公衆栄養プログラム	
専門科目	専攻専門科目	公衆栄養学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>地域や職域の健康問題の解決のため、実態把握や情報の収集方法や栄養疫学の方法論を学ばせる。さらに、それらを総合的に判定し、疾病のハイリスク者および予備群に対する、適切な栄養プログラムの作成、栄養教育の実践、実践後の評価判定を行う過程を理解させる。 <授業計画の概要> - 栄養疫学概説、疫学の理論、疫学演習 - 食事の個人内変動と個人間変動 - 食事摂取量の測定方法、疫学で理解する食事摂取基準 - 高血圧・高脂血症・糖尿病、循環器疾患、がん、認知症・骨粗鬆症の栄養疫学	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	公衆栄養学実習	<授業形態>実習 <目標> 公衆栄養学で学んだ内容をさらに深く理解させるための実習を行う。国民栄養調査のデータを中心に地域の情報を収集・分析し、総合的に評価・判定する能力を養わせる。さらに、地域において対象者となる在宅高齢者や寝たきり者などの個人ならびに保健所や病院、職域などの集団を取り上げ、グループワークによる問題解決の過程や解決の技法を修得させる。 <授業計画の概要> ・我が国の栄養施策の解析演習 ・栄養疫学演習 ・既存資料分析と活用演習 ・市町村における具体的な目標・計画の立案実習	
	専攻専門科目	給食経営管理論Ⅰ	<授業形態>講義 <目標> 給食経営管理論は給食管理と経営管理で構成されているが、本授業では給食管理を主に取り扱う。給食管理で基本となる概念や栄養・食事計画の立案から評価までの一連の業務を学び、フードサービスに必要な知識の習得およびマネジメント能力を身につけさせる。 <授業計画の概要> ・給食の概念、栄養・食事管理、事務管理 ・給食の設備・施設管理、生産管理 ・給食の衛生管理	
専門科目	専攻専門科目	給食経営管理論Ⅱ	<授業形態>講義 <目標> 給食経営管理論は給食管理と経営管理で構成されているが、本授業では経営管理を主に取り扱う。マーケティングの原理や応用を理解させるとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学ばせる。また、保健・医療・福祉領域の場で実施されている各種の給食において、総合的な能力及びその実施状況について必要な指導や助言をする能力を身につけさせる。 <授業計画の概要> ・給食とマーケティング ・組織、人事労務管理、会計・生産管理 ・給食の品質管理、事故・災害時対策 ・保健・医療・福祉・介護における給食の位置づけと給食経営	
専門科目	専攻専門科目	給食経営管理論実習	<授業形態>実習 <目標> 給食経営管理論で学んだ内容を実践し、特定多数人を対象としたフードサービス全般についてのマネジメント能力を養う。HACCPの概念に基づいたドライシステムの実習室において、給食経営管理の各業務をPlan（計画）・Do（実施）・Check（検証）・Action（反映）のマネジメントサイクルで行い、マネジメントの実践による能力の習得とともに大量調理の技術を習得させる。 <授業計画の概要> ・栄養・食事計画の作成 ・工程管理の実践 ・生産管理、衛生管理の実践 ・人事・労務管理の実践 ・品質管理の実践	
専門科目	専攻専門科目	基礎口腔保健学	<授業形態>講義 <目標> 口腔保健は食生活を確保する観点からも健康の維持増進を促すものである。本講義では口腔保健の意義について学ばせる。そのため、口腔の発達や、咀嚼、嚥下、味覚などの機能、う蝕や歯周病などの概略と予防、唾液やブラークの健康への影響、口腔保健指標や口腔領域の疫学など口腔保健学の基本的な知識を学ばせ、人の健康との関連を理解させる。 <授業計画の概要> ・歯の構造 ・顔面、顎骨の構造 ・口腔清掃法 ・歯周病の発生と病態、予防	
専門科目	専攻専門科目	応用口腔保健学Ⅰ	<授業形態>講義 <目標> 口腔は、食物摂取をするための重要な器官である。本講義では基礎口腔保健学の基礎知識を基に、経口による食物摂取の重要性について理解を深め、経口摂取のための口腔の重要性を認識することを目標とする。そのため、口腔の健康を脅かす要因やその影響について解説する。さらに、歯科疾患の処置・修復方法についても解説し、口腔の状況を把握する能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・咀嚼と嚥下 ・口腔の発達と機能の獲得 ・う蝕の概要ともたらす影響、処置 ・歯周病の概要ともたらす影響、処置	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	応用口腔保健学Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>妊娠期、乳幼児期、学齢期、青年期、成人期、高齢期、要介護期などのライフステージにおける特徴的な口腔状況について解説し、各期の食生活と口腔状況の関連を学ばせる。また、各期における口腔保健管理方法について概説し、具体的な口腔管理プログラムの作成、実施、評価が行える能力を養わせる。 <授業計画の概要> ・乳幼児期の口腔の特徴と管理について ・学齢・青年期の口腔の特徴と管理について ・成人期の口腔の特徴と管理について ・高齢期の口腔の特徴と管理について ・要介護高齢者の口腔の特徴と管理について	
	専攻専門科目	口腔保健学実習	<授業形態>実習 <目標>基礎および応用口腔保健学で学んだ内容を深く理解させるための実習を行う。口腔・歯の観察方法を学ばせ、対象者の口腔の状況を正確に把握できる能力を養わせる。また、口腔の基本的な機能である咀嚼能率、咬合力の測定、唾液量、口腔感覚(味覚、体性)などの実習を行い、口腔・歯の役割を理解する。さらに、口腔の健康の維持増進や疾患予防に不可欠なオーラルケアについての技法を修得させる。 <授業計画の概要> ・口腔の観察 ・咀嚼と嚥下の観察 ・唾液量の測定(安静時唾液量、刺激時唾液量)	
専門科目	専攻専門科目	栄養療法臨床実習Ⅰ	<授業形態>実習 <目標>対象者の健康の維持増進、疾病の予防や治療、回復に関する栄養の役割を理解させるため、早期臨床体験実習として2年次に実施する。病院、高齢者施設、給食施設、学校、地域などで実習を行い、食と栄養に関わる現状を学ばせる。 <授業計画の概要> ・病院や高齢者施設、給食施設、学校、地域などで提供される「食」の実態を見聞し、食と栄養に冠する現状や問題点を知る。 ・各施設における管理栄養士業務を知る	
専門科目	専攻専門科目	栄養療法臨床実習Ⅱ	<授業形態>実習 <目標>栄養教育論や応用口腔保健学を基礎として、保育園や幼稚園、事業所などで、健康な小児と成人を対象に、栄養評価や栄養教育の実習させる。栄養評価を行うため、口腔の状況を含む身体状況の把握については身体計測法や、歯・口腔の観察法を、栄養状況の把握については食生活調査法などを修得する。さらに、これらの情報を基に、小児と成人を対象に、栄養教育の計画作成と実践を行う。 <授業計画の概要> ・介護老人施設にて栄養管理、口腔機能訓練見学実習 ・保育園にて栄養教育の実施	
専門科目	専攻専門科目	栄養療法臨床実習Ⅲ	<授業形態>実習 <目標>臨床栄養学および給食経営管理論を基礎として、病院で医師、管理栄養士の指導のもとに、消化器疾患、内分泌・代謝性疾患、循環器疾患、腎疾患などの患者や強制栄養法を行っている患者に対して、治療・回復食作成などの栄養管理を実習させる。さらに、病院給食施設において、給食の実態を把握させるとともに、集団給食の管理や衛生・安全管理などの給食の管理業務について理解を深めさせる。 <授業計画の概要> ・給食経営管理実習 ・栄養管理業務 ・コミュニケーション力 ・医療人としての自覚	
専門科目	専攻専門科目	栄養療法臨床実習Ⅳ	<授業形態>実習 <目標>公衆栄養学を基礎として、地域や職域などの健康問題を解決するための実習を行う。地域の健康情報を基に、健康教育、健康相談などの基本的な公衆衛生活動を実施し、地域保健管理全般について実習させる。また、地域における栄養情報の収集、栄養診断、対策、改善活動および評価などの実習を行い、公衆栄養活動に必要な知識および技能を修得させる。 <授業計画の概要> ・栄養関連サービスのプログラムの作成・実施・評価に必要な理論と方法の修得 ・各種サービスやプログラムの調整、社会資源との連携の理解	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専攻専門科目	総合栄養療法学演習	<授業形態>演習 <目標>栄養療法学に関する基礎および専門科目を習得し、栄養療法臨床実習（総合実習）を終えた時期に開講し、栄養療法学に必要な知識・技術の習得や、管理栄養士・栄養士としての社会的役割の認識が出来ているかどうかを、事例検討を通して、総合的に確認させる。 <授業計画の概要> ・栄養管理の計画・実施・評価 ・チーム医療人としての適正	
専門科目	専攻専門科目	卒業研究	<授業形態>実習 <目標>保健・医療・福祉の各分野に関わる種々の課題を取り上げ、実験および調査研究を計画・実施させる。教養科目、専門支持科目、専門科目で学んだ内容をはじめ、臨床実習を通じて芽生えた問題意識を元に研究テーマを設定し、科学的手法を用いて解決するためにデータ収集や分析を行い、結果の解釈や仮説の検証を実施させる。また、新たに得られた知識の評価や残された課題の明確化などを行い、一連の研究のプロセスを論文としてまとめさせる。	複数クラス
専門科目	専攻専門科目	学校栄養教育論Ⅰ	<授業形態>講義 <目標>学校教育における食に関する指導の必要性を解説し、栄養教諭の制度・役割および職務内容について理解する。また、幼児・児童および生徒の発達と学校給食の意義や役割、学校給食の運営管理や法令制度について学ぶ。さらに、食生活に関する歴史や文化的事項についても学び食に関する指導方法の幅を広げる。 <授業計画の概要> ・学校教育における食に関する指導の必要性 ・栄養教諭の制度・役割・職務内容 ・学校給食の意義・役割 ・子どもの発育と食生活 ・食文化の変遷と学校給食	
専門科目	専攻専門科目	学校栄養教育論Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>給食時間、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、個別的栄養相談および家庭・地域との連携等、食に関する指導方法について実践演習を行いながら学ばせる。また、食品の品質や安全性に関する知識と、その情報に基づく判断能力を修得させる。 <授業計画の概要> ・給食の時間、教科、特別活動における食に関する指導 ・食物アレルギー等の個別指導 ・学校、家庭、地域が連携した食に関する指導	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の場合は、学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
（地域保健学域 教育福祉学類）			
科目 区分	授業科目の名称		備考
専門 基礎 科目	統計学基礎Ⅰ		〈授業形態〉講義 〈概要〉社会的諸現象を実証に基づいて解析し、教育福祉分野における実践の基礎とするため、数量的データの基礎的な分析手法を身につけさせる。 〈授業計画〉（全15回） ・記述統計 ・主要な確率分布 ・信頼区間の推定と仮説の検定 ・独立する2つのデータの差の検定 ・比率の検定 ・頻度の分析 ・相関関係 ・因果関係（回帰） ・実験計画法
専門 科目	学域 共通 科目	生命倫理学	〈授業形態〉講義 〈概要〉生命の「コントロール」をも可能にした高度先端医療には、これまで社会が直面してこなかった問題が発生している。本講義では、医療と生命科学、および生命をめぐる倫理的問題を、生命の尊重とQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の観点を生命倫理の基礎として論じる。そして人としての尊厳を失わず、より良く生き続けることの大切さとこれを支援する専門職者の役割を学ばせる。 〈授業計画〉（全15回） ・生命倫理学の基礎 ・QOLの概念 ・人工受精 ・体外受精 ・安楽死・尊厳死等の諸問題と、専門職者の役割
専門 科目	学域 共通 科目	人間支援科学論	〈授業形態〉講義 〈目標〉人々の健康と福祉の向上に寄与する専門的・協働の実践力の基礎と、人と社会を包括的に捉える視点を身につけさせることを目的に、科学としての人間支援の全体像について学ばせる。・講義共通のキーワードとして小児・児童、家族、貧困、患者、高齢者等。 〈授業計画の概要〉（全8回、学域複数教員によるオムニバス形式の集中講義） （24 今木 正英／1回） ・科学としての人間支援とは何か ・人間支援の多様性と専門性 （33 高見沢恵美子／1回） ・患者と家族に対する看護学的支援 （35 檜木野裕美／1回） ・子どもと家族に対する看護学的支援 （25 上野 昌江／1回） ・地域の高齢者に対する看護学的支援 （32 高畑 進一／1回） ・子どもと家庭に対するリハビリテーション学的支援 （28 奥田 邦春／1回） ・高齢者、障害者に対するリハビリテーション学的支援 （ 9 山野 則子／1回） ・子どもと家庭に対する社会福祉の支援と教育的支援 （ 1 吉田 敦彦／1回） ・高齢者に対する社会福祉の支援と教育的支援
専門 科目	学域 共通 科目	コラボレーション論	〈授業形態〉講義 〈目標〉人の健康と福祉は多様な側面から成り立ち、各側面は相互に影響しあいながらその全体を形成している。健康と福祉を回復、維持、あるいは育むためには、人が本来持つ強さを活性化する支援が重要であり、そのためには多様な領域の専門性と各領域間の協働が必須となる。本講義では、専門領域や専門職の多様性の理解に基づき、協働の達成に必要な基礎知識を学ばせる。 〈授業計画の概要〉（全15回、オムニバス形式） （8 山中京子／9回） ・専門領域と専門職の多様性 ・協働の意義 ・発展プロセス ・促進要因と阻害要因 ・協働の具体的方法（多職種間チームワーク） （9 山野則子／3回） ・協働の具体的方法（施設・組織間ネットワーク） （3 関川芳孝／3回） ・協働の具体的方法（組織と制度のリンケージ）
専門 科目	学域 共通 科目	コミュニケーション論	〈授業形態〉演習 〈目標〉人間は人とのかかわりの中で自己を形成し、成長発達をとげていく。また、他者との意思の相互伝達であるコミュニケーションを基礎に社会は成り立っている。本授業では、コミュニケーションに関する理論を紹介し、人間支援の専門職に必要なコミュニケーション技法について学ばせる。 〈授業計画の概要〉（8回） ・コミュニケーションの基本理念 ・社会的相互作用とコミュニケーション ・対人コミュニケーションの基礎 ・プログラム学習法を応用した基本的関わり技法の習得
専門 科目	学域 共通 科目	ケアリング論	〈講義形態〉講義 〈目標〉ケアリングとは、他者に対する具体的なケア（世話、心づかい）の実践であり、ニーズへの応答や他者への責任、傾聴や許容、ジェンダーといった概念と深く結びついている。本講義では、ケアの理論的基礎と、学域の各専門領域におけるケアリングの意義と課題を学ばせる。 〈授業計画の概要〉（全15回、学類教員およびゲスト講師によるオムニバス） （2 児島亜紀子／3回） ・ケアの概念、ケアの倫理 （ 1 吉田敦彦／3回） ・教育とケア （ 4 田間泰子／3回） ・家族におけるケアリング、ジェンダーとケア （16 田垣正普／3回） ・軽度障害とケア、障害の経験とケア （19 三田優子／3回） ・精神障害者・知的障害者とケア

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	教育福祉学への招待	<講義形態>講義 <目標>教育福祉学類の基盤となる教育福祉学的視点を総合的に学ばせることにより、人を、その人がより良く生きられるよう、生涯を通じて包括的に支援することの意義を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回、学類教員および地域福祉研究センター専任教員によるオムニバス) (4 田間泰子／1回)・教育福祉学類の教育理念、および教育福祉と社会1 (社会学) (10 渡辺博明／1回)・教育福祉と社会2 (政治学) (14 嵯峨嘉子／1回)・教育福祉と社会福祉1 (公的扶助論) (16 田垣正善／1回)・教育福祉と社会福祉2 (障害者福祉論) (19 三田優子／1回)・教育福祉と社会福祉3 (精神保健学) (18 松田博幸／1回)・教育福祉と社会福祉4 (セルフヘルプグループ論) (7 東優子／1回)・教育福祉と社会福祉5 (セクシュアリティとジェンダー論) (9 山野則子／1回)・教育福祉と子どもと家庭・学校1 (社会福祉学) (15 里見恵子／1回)・教育福祉と子どもと家庭・学校2 (保育学) (12 伊藤嘉余子／1回)・教育福祉と子どもと家庭・学校3 (養護理論) (6 西田芳正／1回)・教育福祉と教育1 (社会教育論) (21 吉武信二／1回)・教育福祉と教育2 (健康教育論) (11 伊井直比呂／1回)・教育福祉と教育3 (多文共生論) (13 小野達也／1回)・教育福祉と地域1 (地域福祉論) (5 中山徹／1回 平成24～26年度) (48 吉原雅昭／1回 平成27年度) ・教育福祉と地域2 (地域福祉研究センターの研究事業)	オムニバス
			教育福祉学概論Ⅰ	<講義形態>講義 <目標>教育福祉学を構成する社会福祉学と教育学について基礎的な知識を学ばせることにより、統合的な教育福祉学の専門的基礎を身につけさせる。社会福祉に関する日本の政策と援助活動を総合的に理解するために必要な基礎的知識と原理的知見を学ばせる。教育に関しては諸事象を多角的総合的に理解するために必要な基礎的知識と原理的知見を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回、オムニバス) (2 児島亜紀子／8回)・教育福祉と社会福祉の概念・社会福祉のなかの教育的側面・日本の社会福祉の歴史・社会福祉の対象 (1 吉田敦彦／7回)・教育福祉学の意義、対象および課題・教育のなかの福祉的側面・日本の教育の歴史と近代学校の抱える課題	オムニバス
			教育福祉学概論Ⅱ	<授業形態>講義 <目標>教育福祉学を構成する社会福祉学と教育学について基礎的な知識を学ばせることにより、統合的な教育福祉学の専門的基礎を身につけさせる。人びとの抱え持つ生活上の困難と、それらに向けた社会福祉的支援の取り組みについて理解させる。人の生涯にわたる発達課題と、その学びを保障する教育的支援の取り組みについて理解させる。 <授業計画の概要>(全15回、オムニバス) (1 吉田敦彦／8回)・人間観と教育観・育てること／学ぶこと／教えること ・現代の教育改革の動向と教育福祉学的課題・持続可能な未来のための福祉と教育 (2 児島亜紀子／7回)・人々の抱える生活上の問題と社会福祉の取り組み (ひとり親、障がい者、児童、高齢者ほか)・日本の社会福祉の政策動向と教育福祉学的課題	オムニバス
			保育学概論	<授業形態>講義 <目標>保育の思想と歴史的変遷について学ぶことを通して、保育の意義について理解させる。さらに、政策と保育所保育指針を理解させ、保育の内容及方法の基本について理解させたうえで、保育の現状と課題について考察する力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・保育の意義・政策と保育所保育指針における保育の基本・保育の目標と方法 ・保育所の思想と歴史的変遷・保育の現状と課題	
			生涯学習概論	<授業形態>講義 <目標>本講義では、誕生から老いまでの人間の生涯発達プロセスを踏まえ、学び成長する主体としての人間形成と、生涯にわたる学習を保障し支援する社会のあり方、とくに家庭教育と学校教育と社会教育の連携について、生涯学習政策の動向を概観しながら理解させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・人間にとって「学ぶ」ということ・近代学校の限界と生涯学習の意義・ライフコースの全体性と生涯学習・学校教育と学校外の学びと教育・市民的公共性と生涯学習関連施策・ユネスコの教育政策と生涯学習	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	社会調査論入門	<授業形態>講義 <目標>社会調査の意義と、データ収集から分析までの諸過程、および調査の諸類型に関する基礎的事項を習得させることを通して、社会現象や諸事例を科学的に把握し、解決方法の発見や仮説の構築・検証を行なうための基礎的態度と知識を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回、オムニバス) (4 田間泰子/8回)・社会調査史 ・調査目的 ・調査倫理 ・調査方法の種類(量的調査と質的調査) ・国勢調査と官庁統計 ・調査票調査とフィールドワークの特徴 (16 田垣正普/7回)・調査方法の種類その2(質的データ、アクションリサーチほか) ・ニーズと調査 ・基礎的な統計的分析方法 ・マスメディアと調査 ・ITの活用	オムニバス
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	スクール・ソーシャルワーク概論	<授業形態>講義 <目標>ソーシャルワークの知識、理念、技術に基づいて、子ども家庭相談体制の一環として、学校という場でスクールソーシャルワークを展開することの意義と特性、過程、理論を理解させる。また、エビデンスに基づいた実践の意義を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・児童を取り巻く環境と学校 ・スクールソーシャルワークの意義と理念 ・海外のスクールソーシャルワーク ・実践理論・実践モデルと支援方法 ・エビデンス・ベースド・プラクティス	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	家族社会学	<授業形態>講義 <目標>家族を、個人を取り巻く第一次的に重要な社会関係と位置づけ、家族に対する理論的理解力と、現実の家族のあり方に対する実証にもとづく分析的態度を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・家族の概念・定義・機能 ・諸理論の展開と特徴 ・データに基づく家族の多様性と歴史の変容の理解 ・社会環境と家族の関係 ・家族と個人の関係 ・家族政策の国際比較 ・家族問題の事例研究	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	地域社会学	<授業形態>講義 <目標>さまざまな社会現象と社会問題が生起する場である地域社会を対象とする社会学的研究成果を、都市社会学を中心に学ばせ、自分たちが生活する社会の特性、問題性と解決の方向性についての理解を深めさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・伝統的村落社会論 ・都市社会学のルーツとしてのシカゴ学派都市研究 ・都市とは何か ・都市形成と農村の変容 ・現代の都市社会と問題性	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	教育福祉と政治	<授業形態>講義 <目標> 教育福祉について、その理念や方法が社会における規範のあり方や資源の配分に左右されるという点で政治と深く関わっていることを学ばせるとともに、それらをめぐる諸政策の現代政治における位置づけについて考察する力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・現代社会における生活と政治の関係 ・福祉をめぐる政策と政治 ・保育をめぐる政策と政治 ・教育をめぐる政策と政治 ・社会政策の体系とその国際比較 ・「福祉国家」の発達・再編と教育福祉	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	教育福祉と健康	<授業形態>講義 <目標>健康は人々が幸福な生活を送る上で非常に重要な要因と考えられるが、現在健康やダイエットに関する誤った情報が氾濫し、人々の健康を脅かす可能性を否定できない現状がある。この現状を踏まえ、健康を維持増進するために必要な基礎的知識や科学的根拠に基づいた正しい理論を学ばせ、心身の健康維持増進に効果的な食生活と運動生活を自立して追究する能力と、それを教育福祉の実践に活かす能力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・教育福祉と健康の概念 ・身体組成と健康ダイエット ・基礎代謝と活動代謝 ・疾病予防と日常生活管理・アルコール ・たばこと健康 ・健康増進させる個々の生活の検討	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	教育福祉の諸問題A(貧困と社会)	<授業形態>講義 <目標>現代社会に存在する貧困の諸問題について、その存在形態、特徴、出現のメカニズムについて理解を深めさせ、それらが教育福祉と深く関連していること、そして貧困および社会的排除に対応すべき貧困政策のあり方について学ばせる。諸外国の貧困政策についても基礎的知識を学ばせ、比較の視点を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・教育福祉と貧困 ・貧困の概念 ・貧困の測定 ・雇用・失業と貧困 ・貧困と居住不安定 ・女性・ひとり親家庭と貧困 ・子ども・若者と貧困 ・貧困と社会的排除 ・諸外国の貧困政策	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	教育福祉の諸問題B (性と人権)	<授業形態>講義 <目標>性に関する諸問題をめぐる議論においては、様々な価値観が対立し、合意形成が困難であるとされる。本講義では、性(セクシュアリティ)をめぐる今日の話題を取り上げ、問題の背景と、それが教育福祉と深く関連していることを理解させる。それと同時に、自己の価値観と向き合う機会を提供することを通じて、様々な言説に対するリテラシーを向上させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・教育福祉と性 ・セックス／ジェンダー／セクシュアリティ ・性の健康と権利：その概念の変遷と理念 ・「セックス・エリート」概念と「リプロダクティブ・パイアス」	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹講義科目	教育福祉の諸問題C (多文化共生)	<授業形態>講義 <目標>国際社会や地域社会において異なる文化的背景をもつ人々が共に生きていくための教育福祉の課題について、基礎的知識を学ばせるとともに課題解決するための基礎的能力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回、オムニバス) (20 森岡次郎／10回)・教育福祉と多文化共生 ・多文化共生に関わる理論的アプローチの概観 ・社会的マイノリティの有する多様な「文化」に関する議論 ・異なる文化を有する「他者」との共生に向けた理論的・実践的課題 (11 伊井直比呂／5回) ・国際社会における取り組み ・地域社会における取り組み	オムニバス
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹演習科目	教育福祉フィールドワークⅠ	<授業形態>演習 <目標>様々な「生きづらさ」を抱える人々の暮らしを教育福祉の視点で理解し、実際に支援を組み立ててゆく過程における基本技能を、小集団討議を活用した事例学習によって身につけさせる。 <授業計画の概要>(全30時間。教員3人によりクラス定員20人以下の3クラス並行開講) 以下の項目について講義を受けたのち小集団に分かれて事例学習。 ・「問題」の把握方法 ・アセスメントと支援の焦点化 ・支援において活用する社会資源 ・支援の展開過程の理解 ・事例は、社会的排除、虐待（児童・高齢者）、家庭内暴力（DV）、低所得者、ホームレス等	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹演習科目	教育福祉フィールドワークⅡ	<授業形態>演習 <目標>教育福祉の視点による相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。 <授業計画の概要>(全30時間。教員3人によりクラス定員20人以下の3クラス並行開講) 小集団に分かれ、「教育福祉フィールドワークⅠ」で習得した基本技能を用いて、様々な社会集団や組織、コミュニティにおけるニーズを把握するための情報収集・分析 ・検討した結果に基づく、問題解決のための計画の作成（通称「ことおこしプロジェクト」の開始）	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹演習科目	教育福祉フィールドワークⅢ	<授業形態>演習 <目標>教育福祉の視点による相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力、および総合的かつ包括的支援と多職種連携・協働の実践力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全30時間。教員3人によりクラス定員20人以下の3クラス並行開講) 小集団に分かれ、「教育福祉フィールドワークⅡ」で作成した計画の実行と成果に関する評価（通称「ことおこしプロジェクト」の実施と終結） ・成果についてのプレゼンテーション ・計画から介入効果のアセスメントまでの報告書作成	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹演習科目	教育福祉インターンシップA	<授業形態>実習 <目標>国内のNPOや学校、社会福祉施設、自治体、公益団体など、様々な専門的活動、文化的活動、または社会の現場を実地に体験することによって、大学での勉学で得た見識をさらに広め、協働する力、実践力と洞察力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・関心分野および研修先に関する事前学習(全体) ・実地研修(グループ別) ・研修日誌の作成(グループ別) ・報告会(全体)	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基幹演習科目	教育福祉インターンシップB	<授業形態>実習 <目標>海外における社会、文化、そして教育やソーシャルワーク、さらに、様々な協働のシステムを学ぶことによって、見識を広め、洞察力と行動力を身につける。海外での体験から、日本の現状を分析し、提案できる力に発展させる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・海外の行き先に関する事前学習(全体) ・海外での文化研修・授業参加・発表(グループ別) ・研修日誌の作成(グループ別) ・報告会(全体)	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	法律学	<授業形態>講義 <授業目標>憲法、行政法、民法、労働法等について、市民生活を営む上で直面するであろう具体的な法律問題を通じて、法律の基礎的知識を理解させた上で、問題の解決に必要な法的ものの考え方、リーガルマインドを習得させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ 憲法(基本的人権・統治機構)・ 行政法(行政行為・行政救済の仕組み)・ 民法(契約、不法行為、扶養・相続)・ 労働法(労働基準法)	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	政治学	<授業形態>講義 <目標>1970～80年代までの経済成長期に形成された社会の仕組みや人々の生活様式が、その後徐々に変化しながら現在に至っているとの認識に立ち、政治学の新しい理論動向をも解説しながら、現代社会に特有な諸問題を政治との関わりにおいて考察する力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ 価値変動と政治 ・ 現代の民主主義論 ・ 現代の議会政治と政党政治 ・ 環境問題と政治 ・ ジェンダーと政治 ・ 社会保障改革と政治 ・ グローバル化と政治 ・ 地方分権と地方自治 ・ 現代政治における市民参加と情報公開	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	社会学	<授業形態>講義 <目標>社会学と隣接諸領域の研究成果に基づき、近・現代世界に特有の社会的事象を認識するために必要と考えられる社会理論の基本的諸類型と重要な諸概念を学ばせる。これを通じて、現代社会システムの動態や構造とそれが抱える諸問題に関する社会科学的な観察力、人間と社会に対する共感的な理解と実践的かつ批判的な判断力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(15回) ・ 社会学の諸理論と諸概念 ・ 社会科学的観察と想像力 ・ 社会現象の分析事例	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	ジェンダーと社会	<授業形態>講義 <目標>ジェンダー・センシティブな視点の習得により、さまざまな社会問題に潜むジェンダーを分析的に把握し、問題解決に向かうことができる実践的な力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ ジェンダー概念と必要性の理解 ・ ジェンダーの世界的多様性と歴史的变化 ・ ジェンダー理論と分析的な先行研究例 ・ ジェンダー構造にともなう差別 ・ ジェンダーと政策・国際的動向 ・ 今日の社会の諸問題と今後の課題	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	社会政策論	<授業形態>講義 <目標>社会政策は、労働・生活過程に対する政策であり、国民生活の安定と向上を目的としているが、社会・経済環境の変容の中で転機を迎えている。本講義では、国内外の社会政策論の基礎的理論と、近年の理論的枠組みに関する理解を深め、社会政策の現状に関する分析と政策判断能力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ 社会政策の基礎理論 ・ 歴史 ・ 政策主体 ・ 政策対象とその変容 ・ 現代的な社会政策論の各論(雇用政策、所得保障等) ・ 変容する福祉国家と今後の政策課題	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	権利擁護論	<授業形態>講義 <授業目標>相談援助活動と権利擁護との関わり、虐待防止法制、成年後見制度、日常生活自立支援事業についての基礎的知識を学ばせるとともに、支援の実践とその課題について考察を深めさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ ソーシャルワークにおける権利擁護 ・ 成年後見制度の現状と課題 ・ 日常生活自立支援事業の現状と課題 ・ 権利擁護活動の実践方法	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	文化と共生	<授業形態>講義 <目標>国家や資本主義的世界経済の支配の下に置かれてきた人々の視点から、世界の不公正な成り立ちがどのように見られ、抵抗されたのか、そして彼らは、いかにしてそこから逃れようしてきたのかを講義する。アフリカやアジアなどの世界システムの周辺に生きる人びととのあり方と、現代日本社会のあり方を比較対照して検討する。 <授業計画の概要>(全15回) ・ 資本主義経済に抗する「モラル・エコノミー」の実践 ・ アフリカにおける妖術のリバイバル ・ ナショナリズムと社会的排除 ・ 国家と記憶の政治	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	共生社会と宗教	<授業形態>講義 <目標>「グローバリゼーション時代の宗教」を考察する。21世紀は、じつに「宗教の時代」なのである。宗教が分からなければ、世界は分からない。21世紀、人類は異質との共生を樹立できなければ、未来は拓けない。その試みの中で、宗教を理解することが決定的に重要となる。 <授業計画の概要>(全15回) ・エスニシティと宗教 ・国家と宗教 ・近代における宗教 ・民俗宗教とポストモダン ・グローバリゼーション時代における宗教の変容 ・共生社会の必然性	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	共生社会とアイデンティティ	<授業形態>講義 <目標>本講義では、社会構造やさまざまな社会制度が、人々のアイデンティティをどのように形作り、また変容させようのかについて考えていく。その際、特に心理学における類似の議論との対比をしつつ、社会科学における捉え方の理解を通して、この領域のもつ重層性について把握させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・アイデンティティの捉え方の諸相 ・自我形成と他者の役割 ・社会問題としての不登校・ひきこもり現象について	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	マイノリティと歴史環境	<授業形態>講義 <目標>近代の世界秩序は、独立した主権を持つ政治単位としての国民国家と、共通の起源・文化・歴史を共有する集団としての民族国家という二つの概念の融合によって構成されるが、国民国家システムは文明・進歩の概念に依拠しつつ、少数民族の国民国家への統合を正当化する。本講義では、マイノリティがこうして近代のアイデンティティを担保する必要性から産出される過程を、具体的な歴史過程の事例によって学ばせ、その課題を考察する能力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・国民国家とは ・民族国家とは ・近代とアイデンティティ ・諸マイノリティグループの産出課程 ・シチズンシップ	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	日本の歴史環境	<授業形態>講義 <目標>本講義の目標は、現代の市民社会の一員として未来を担っていくべき主体として、現代日本を構成している歴史的環境を構造的に把握し、将来を豊かな歴史認識にもとづいて構想していく能力を身につけさせることである。 <授業計画の概要>(全15回) 日本史の概説について講義しながら、現代日本に関わる歴史的諸問題の起源と構造について考察を行なう。	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	東洋文化史	<授業形態>講義 <目標>中国を中心とする東アジアの様々な文化事象を歴史的視点から取り上げ、問題提起を行う。これにより、東アジアが日本文化のルーツのひとつであることを確認し、東アジア文化の新たな可能性を考えさせる。 <授業計画の概要>(全15回。3人の教員による3クラス並行開講) 道教、陰陽五行、壺中天、養生術、山水論等、東アジアの文化にかかわるさまざまな問題を提供し、思想・歴史・文学等の枠組みにとらわれずに、多面的に解説する。	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	西洋文化史	<授業形態>講義 <目標>西洋文化がどのように形成されていったか、その過程を見るとともに、そのようにして形成された西洋文化の諸層を多角的な視点に立って講義する。それによって西洋文化を論じる視点の基礎を習得させる。 <授業計画の概要>(全15回。教員2名による隔年担当) ・ギリシア文化の形成 ・ギリシア文化の伝播 ・ギリシア文化・アラビア文化の受容と西欧文化の形成 ・西洋文化における社会の変遷 ・西洋文化におけるジェンダー観の変遷 ・文学テキストに反映された西洋文化の諸相	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	外国史	<授業形態>講義 <目標>幾つかの歴史的テーマを設定して講義を行い、更に関連論文を講読して要旨を受講者で分担作成・発表させる。それらを通して、特定の歴史事象を掘り下げて考察し、自らの考えをまとめて発表する方法を習得させる。 <授業計画の概要>(全15回) 以下の中からテーマを選んで講義を行った上、論文の講読と内容検討を行う。 自然環境と開発／生活と技術／都市と農村について／世界の一体化／日本のアジア進出／人の移動	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	地理学基礎	<授業形態>講義 <目標>地理学的思考を修得し、多様な社会現象を空間的側面から考察する力をはぐくむことを目的とする。 <授業計画の概要>(全15回) 人文地理学の思考とはどのようなものか、「環境」「地域」「景観」にかかわる地理的概念の基礎について講義することからはじめる。そのうえで、文化、環境問題、政治、都市、村落、言語、観光などにかかわる社会諸現象について、地理学的視角から課題を見つけ出し、基礎的概念を応用しながら解説・分析するプロセスについて、具体例を通して講義する。	
専門科目	教育福祉基礎科目群	基盤講義科目	地域研究	<授業形態>講義 <目標>グローバル化が進展する一方、ローカルな視点が社会の様々な側面で注目されている。本講義では、ローカルなるものの代表である地域に焦点を当て、地理学・地誌学的な視点から地域の諸事象について考える能力を養う。世界の複数の都市をとりあげ比較することで、日本の都市の特徴と問題について考えさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・都市構造や都市システムのモデル ・都市構造と都市システムの変容 ・日本の大都市と地方都市とその問題 ・世界の様々な都市と都市問題	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	ソーシャルワーク概論	<授業形態>講義 <目標>ソーシャルワークにおける相談援助活動の実際と、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について学ばせる。多彩なゲストスピーカーおよびその活動によって専門職の概念と範囲を明らかにする。専門職倫理に対する理解を深める。 <授業計画の概要>(全15回) ・社会的排除(被差別部落問題・滞日外国人問題・性的少数者)・虐待(児童・高齢者)・家庭内暴力(DV)・低所得者／ホームレス・その他の危機状態にある相談援助事例	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	介護概論	<授業形態>講義 <目標>介護の目的と介護専門職の役割・範囲について理論的に学ばせる。また、介護対象者とその家族のあり方や、関係職種との協働について理解させるとともに介護の技法を学ばせ、対象者のより良い生活を支援できる力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・介護の目的 ・介護専門職の役割 ・介護対象と生活の把握 ・介護施設の特徴 ・関係職種との協働 ・介護過程展開の技術 ・介護方法論	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	医学概論	<授業形態>講義 <目標>ソーシャルワーカーに必要な医学・医療の基礎的知識を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・人体の構造と機能 ・健康とは何か ・国際生活機能分類 ・ソーシャルワークにおいて重要な疾患 ・臨床医学と予防医学 ・保健医療専門職と地域保健 ・保健医療機関 ・患者の権利とインフォームドコンセント ・リハビリテーションの考え方	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	公的扶助論	<授業形態>講義 <目標>社会保障制度の最後の切りどころである公的扶助制度の意義と役割、公的扶助制度の歴史的変遷、日本の生活保護制度の基本的な仕組みについて学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・公的扶助制度の概念 ・公的扶助制度の歴史的展開 ・生活保護制度の目的、基本原理および基本原則 ・保護基準、生活扶助基準額の算定方式 ・被保護者の権利及び義務、不服申し立て ・保護の機関と実施体制及び財源	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	障害者福祉論	<授業形態>講義 <目標>障害者福祉と関連領域の制度・施策について、目標と理念、支援のあり方と課題を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・実態調査からみる障害者の現状 ・障害者福祉の理念と歴史 ・障害者を巡る制度上の定義 ・障害者福祉に関連する諸法律（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、障害者雇用促進法） ・障害者自立支援法 ・現行法による行政計画 ・障害者等の反社会的行為 ・諸団体および組織の役割とネットワーク ・諸外国の差別禁止法	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	医療福祉論	<授業形態>講義 <目標>疾患により人が受ける影響、その結果生じるニーズ、支援者や機関の機能、支援者と機関間の協働について学ばせることにより、疾患を持つ人の多様な経験とその支援について学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・疾患による身体・心理・社会・実存的影響 ・疾患による影響から生じた人生および生活の再構築のニーズ ・疾患に関わる諸専門的支援者の役割と機能 ・非専門的支援者の役割と機能 ・チームアプローチと機関間のネットワークの意義と実際	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	高齢者福祉論 A	<授業形態>講義 <目標>加齢と障害について総合的に学ぶことを通し、人生の最後まで尊厳ある生活をおくるためにはどのようなことが必要なのか、社会的な支援のあり方を含め理解させる。本講義では、高齢者福祉に関連する法と制度等の基礎的知識と、高齢者の生活環境の実態を学ばせ、福祉・介護の必要性和需要を理解させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢 ・高齢者福祉制度の発展過程 ・関連する法制度と施策の状況 ・介護の概念および対象 ・介護過程と介護予防 ・諸外国の高齢者ケア ・高齢者政策の今後の課題	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	高齢者福祉論 B	<授業形態>講義 <目標>加齢と障害について総合的に学ぶことを通し、人生の最後まで尊厳ある生活をおくるためにはどのようなことが必要なのか、社会的な支援のあり方を含め理解させる。本講義では、終末期に到る高齢者のより具体的なあり方と介護保険制度等の社会的仕組みについて学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・介護と住環境 ・介護と福祉用具 ・認知症ケア ・終末期ケア ・介護保険制度と介護報酬 ・高齢者虐待の防止 ・ケアの評価 ・情報の公開 ・リスクマネジメント ・組織および団体の役割と実際	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	地域福祉論 A	<授業形態>講義 <目標>現代における地域福祉の有用性、および、地域福祉の基本的な概念を理解させるため、地域福祉が重視されてきている歴史的背景や社会福祉の理論的展開を学ばせる。また、住民主体の視点に即して、地域福祉を追求、実現するために必要な構成要素を学ばせ、課題を考察する力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・現代社会の地域生活 ・地域福祉の必要性 ・地域福祉の構成要素 ・地域福祉の様々な考え方 ・これからの地域福祉のあり方	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	地域福祉論 B	<授業形態>講義 <目標>地域福祉を展開するための様々な活動、事業、推進方法を理解させるため、地域福祉に関わる施設、機関、地方自治体や住民、ボランティア、NPO等の役割と現状と課題を学ばせる。 <講義計画の概要>(全15回) ・関連する法制度と施策の状況 ・地域福祉の主体と対象 ・地域福祉に関わる組織、団体、および専門職とネットワーク ・ニーズの把握方法 ・ケアシステムの構築と評価 ・計画と資金	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	精神保健福祉論	<授業形態>講義 <目標>精神保健福祉論は精神保健福祉専門科目の中核科目であるが、精神障害者への福祉がすべての障害者に共通する「障害者福祉」の基本的な理念と歴史に深く関わっていることに鑑み、精神保健福祉の基礎的知識を学ばせるとともに、障害者福祉の理念と歴史に精神障害者福祉が果たしてきた役割を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・障害者福祉の理念と障害者が置かれてきた歴史 ・関連する法制度及び施策の状況 ・精神保健福祉の理念と意義 ・精神障害者を取り巻く現状と課題	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	ソーシャルワーク論 A	<授業形態>講義 <目標>社会福祉の支援方法(ソーシャルワーク)のうち、個人や家族というミクロレベルの対象への直接的な相談支援(ミクロ・ソーシャルワーク)の方法について、理念とそこから導き出される原理・原則、支援者が果たす役割を学ばせる。また、相談支援のプロセスと、理論の具体的な応用について理解を深めさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・相談支援の基盤となる理念 ・相談支援の原理・原則 ・専門的・非専門的支援者の役割と機能 ・ミクロ・ソーシャルワークのプロセス ・諸理論とその相談場面への応用	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	ソーシャルワーク論 B	<授業形態>講義 <目標>社会福祉の支援方法のうち、グループを用いたメゾ(中位)・ソーシャルワークの方法について、理念とそこから導き出される原理・原則、支援者が果たす役割を学ばせる。また、グループワークのプロセス、理論と技法について理解を深めさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・社会生活におけるグループの意味 ・グループワークの対象 ・グループにおける交互作用 ・グループワークの理論的モデルとアプローチ ・グループワークの歴史 ・グループワークのプロセス ・スーパービジョンおよびセルフ・ケア	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	ソーシャルワーク論 C	<授業形態>講義 <目標>ソーシャルワーク理論・実践モデルの変遷を概観することを通じて、総合的かつ包括的ソーシャルワーク実践の必須概念を習得させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ソーシャルワークの対象 ・専門職の概念と範囲、専門職倫理 ・ソーシャルワークの理論と実践モデルの歴史の変遷 ・ソーシャルワーク実践における新しい潮流	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	精神保健学	<授業形態>講義 <目標>現代社会はストレス社会といわれ、多くの人たちが自らのストレス状態を訴えている。社会福祉サービスを受ける人たちも、サービスを提供する人たちもその例外ではない。本講義では、人の心を健康という側面から捉え、ストレスとそれに関連する知識を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・心の健康とは何か ・精神保健福祉対策の歴史と現状 ・ストレスと関連疾患 ・ストレスの認知と対処(coPing)、マネジメント ・筋弛緩法の実践 ・触法精神障害者問題 ・芸術と精神保健	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	社会福祉計画論	<授業形態>講義 <目標>社会福祉事業を実際に計画していく能力を身につけさせる。そのために、計画の策定方法に関する基礎的知識を学ばせるとともに、国、都道府県、市町村、市町村社協等の計画書を読み、分析する力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・社会福祉計画の読み方の基本 ・社会福祉計画の作り方の基本 ・「計画」の概念、構成要素、歴史 ・高齢者支援(介護保険)、障害者支援、子育て支援、地域福祉等の計画	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	コミュニティとソーシャルワーク	<授業形態>演習 <目標>地域での福祉実践を進めていくための基盤の整備と開発に関する考え方を、演習形式で具体的・実践的に学ばせることにより、地域に働きかけていく具体的な能力を身につけさせる。 <講義計画の概要>(全15回。教員2人により定員20人以下の2クラス並行開講) ・地域への働きかけ方 ・ニーズの把握 ・資源の調達・調整、企画・開発 ・ネットワークの推進 ・計画づくり ・サービスの評価	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	社会福祉運営論	<授業形態>講義 <目標>社会福祉事業を実際に運営していく能力を身につけさせる。そのために、問題を分析し、目標体系を定め、事業を起案、準備して実施し、事後評価するうえで必要とされる技能や視角を習得させる。また、事業運営にとって重要となる政策・制度を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・問題解決の過程モデル ・問題の分析、目標の体系化、事業の起案、事業案の比較検討 ・事業実施のための準備(PERT図、Gantt図)、事業の事後評価 ・関連する法制度 ・政策決定過程と財務過程	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	福祉と就労	<授業形態>講義 <授業目標>社会福祉の重要な構成要素としてね更生保護と就労支援のありかたについて学ばせる。そのために、更生保護制度に関する基礎的知識、刑事司法・少年司法分野の組織および団体と専門職の仕事が果たす役割、相談援助と就労支援との関わりを理解させるとともに、支援活動の実際と課題について考察する力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ 刑務所・少年院と更生保護制度の関係・更生保護に関わる団体とその活動・相談援助と就労支援の関わり・就労支援制度の概要・就労支援活動の組織と運営	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	社会保障論	<授業形態>講義 <目標>日本において少子高齢化が進展し、安定的生活の基礎となる雇用・労働形態も変容し、国民生活の不安定化が指摘されている。こうした中で社会保障のあり方が問われている。本講義では、受講生が社会保障制度の全体像と制度の基本的知識を学ばせ、政策的判断能力を習得させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ 社会保障制度の基本的理念・体系・概要・社会保障制度の骨格である各種社会保険制度と相互の関連・社会保険制度の周辺の諸制度・社会保障制度の国際比較	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	社会福祉原論	<授業形態>講義 <目標>社会福祉の原理や倫理を学ばせる。そのため、市場と国家の役割、国家と個人との関係性、および福祉国家に関する諸理論を学ばせ、社会福祉政策の意義と役割を理解させる。そのうえで、政策目標の実現という観点から、援助行為の理想と実際、および理論的・実践的課題について習得させる。 <授業計画>(全15回) ・ 市場と国家・福祉国家の機能・福祉国家を根拠づける思想・社会福祉政策の位置づけ・福祉国家を支えるさまざまな援助専門職者・専門職者の価値と倫理・社会福祉援助理論の動向	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	セルフヘルプ・グループ論	<授業形態>講義 <目標>セルフヘルプ・グループ(SHG、自助グループ)に関連する諸理論と、さまざまな領域におけるSHGの活動の実際を事例として学ばせることを通じて、社会福祉の援助方法におけるSHGの意義と、専門職者としてどのような実践を展開すればよいのかを習得させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ SHGに関連する諸理論・地域社会におけるSHGへの援助・社会福祉の援助におけるSHGの意義と課題・SHG活動の実際と事例	
専門科目	専門展開科目郡	福祉系展開科目	相談援助演習	<授業形態>演習 <目標>個人や家族というミクロレベルの対象への直接的な相談支援で用いられる技法を、ロールプレーなどの学習方法で習得させる。次いでその技法を用いて相談支援を実際に展開するプロセスを事例を用いて体験的に理解させる。 <授業計画の概要>(全15回。新任養護と非常勤の2人で1クラスを共担) ・ 面接の意義、構造と種類・非言語的コミュニケーション・言語的コミュニケーション(基本技法)・言語的コミュニケーション(展開技法)・基本技法と展開技法の統合・アセスメントの実際・プランニングの実際	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	教育社会学	<授業形態>講義 <目標>広く教育・地位達成のメカニズムと子どもの生育背景・属性による達成の規定性を論じる「再生産論」の観点から、意図的・組織的な社会化の制度として学校を位置づけ、学校教育の可能性と課題について学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ 社会化の専門機関としての学校教育・学校の組織と文化・教育・地位達成のメカニズム・学校教育と不平等の再生産・社会的排除・再生産の軽減と学校教育	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	教育の思想と歴史	<授業形態>講義 <目標>教育の理念、歴史および現代的課題について基礎的知識を学ばせ、教育や人間に関する幅広い事象について考察できる力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・ 教育とは何か・教育における近代・近代の教育思想・学校とは何か<その成り立ち>・リテラシーと授業の可能性・アイデンティティと他者・ポストモダン教育学・学校における教師の役割	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	教育の法と制度	<授業形態>講義 <目標>教育に関わる法と政策の基礎的知識を学ばせるとともに、教育上の諸問題における「教育と法の関係」や「法が教育に果たす役割」の検証を通して、現実の教育諸制度のあり方を考察できる力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・教育関連法規 ・教育政策 ・現代の教育における諸問題 ・法が教育に果たす役割 ・現行法規および政策の課題	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	社会教育入門	<授業形態>講義 <目標>学校外でなされる教育的営為について、個人のライフコースに応じて多様な実践があることを学ばせ、その魅力・必要性と可能性を理解させる。また、その展開の場である公民館など社会教育の制度と施設について基礎的知識を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・伝統的村社会における人間形成・社会教育の歴史・家族における人間形成の変容と課題・子どもの遊びと仲間集団・若者と余暇活動・中高年の教育活動 ・社会教育の制度と施設	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	生涯学習支援	<授業形態>講義 <目標>地域社会で学ぶことの意義について、多様な観点から、具体的な実践場面の考察を通じて学ばせるとともに、生涯学習支援者としての実践力を身につけさせるために、学習講座の企画実施に関するプロセスやワークショップ的手法などについて学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回、オムニバス) (1 吉田敦彦／3回) ・学習支援の計画と立案・情報収集と整理 (6 西田芳正／3回) ・地域社会における生涯学習の意義 (20 森岡次郎／3回) ・学習経験のレビュー方法 (11 伊井直比呂／3回) ・学習相談の進め方・データの活用と情報提供システムの構築 (21 吉武信二／3回) ・モデル事例	オムニバス
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	人間形成論	<授業形態>講義 <目標> 人間が形成されていくプロセスについて、他者と出会い、文化や社会と関わることによって可能になるという根本的な観点のもと、基礎的理論的知識を学ばせるとともに、その諸相について理解を深めさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・人間形成と教育 ・自然と文化と人間 ・生／死／いのちと人間形成 ・人間の発達と人類の歴史 ・近代公教育制度の歴史的意義 ・オルタナティブ教育 ・個性と社会性 ・芸術としての教育 ・アイデンティティと物語 ・バイオグラフィック ・出会いと対話	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	生涯スポーツ指導	<授業形態>講義 <目標>適切なスポーツ指導の意義とともに、様々な年齢層や社会的立場の人々に対し、安全に、効果的に、楽しくスポーツ活動を実施させるための指導実践の方法を学ばせる。さらに、スポーツ指導者として望ましい指導計画を立案する能力を育て、適切なスポーツ指導が追究できる力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・生涯スポーツ指導の意義と機会 ・心身の発達や生活環境に応じた身体教育とスポーツ指導 ・スポーツ障害予防と緊急事態の対応 ・スポーツ指導計画の立案	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	ジェンダーと教育	<授業形態>講義 <目標>教育および広く人間形成においてジェンダーが果たす役割について基礎的知識を学ばせ、性別にかかわらず一人一人が自らの能力を発揮するためにはいかなる教育が必要かを考察する力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・近代におけるジェンダー教育の歴史 ・学校における明らかなカリキュラムと隠れたカリキュラム ・教科書の内容におけるジェンダー ・学校外の場におけるジェンダーと教育 ・ジェンダー公平な教育 ・教育におけるジェンダーと国際社会における取り組み	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	教育課程論	<授業形態>講義 <目標>教育課程の歴史と意義、および教育課程編成の事例や方法について学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・教育課程の歴史と現状 ・学校における意義とその今日的課題 ・教育課程の編成をめぐる代表的な思想 ・典型的な事例と方法 ・担当教科<専門教科>の教育課程の分析 ・指導計画の立案	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	教育方法学	<授業形態>講義 <目標>教育方法と教師の指導技術を中心に、教育方法学の基礎的知識と授業づくりの基礎的技法を学ばせる。また、優れた教師の教育実践例とそれを支える教育の方法・技術を理解させるとともに、学校・教師が抱える今日のエデュケーションについて分析的・総合的に考察でき、教師の自身の授業哲学を見つめ、それを授業の計画や指導方法に具体化できる力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・教育方法の諸理論 ・授業づくりの基礎的技法 ・すぐれた実践例 ・授業哲学の具体化	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	倫理学	<授業形態>講義 <目標>自律と公共性という観点から、倫理学の方法に関する基礎的知識を学ばせる。また、現代社会のなかでどのようなことが倫理的な問題領域としてとらえられるか、その問題に対してどのように考えることが倫理学なのかを理解させ、自ら問題を見だし、設定し、それについて自分で考える主体的な能力を身に付けさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・倫理学とは何か ・倫理学の問題領域 ・倫理学的方法 ・諸事例	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	道徳教育論	<授業形態>講義 <目標>道徳教育の意義や目的、歴史など道徳教育の基本的知識を学ばせる。また、道徳の指導のための授業構成の方法論を学ばせ、授業計画の立案と模擬授業を行うことで、学校のエデュケーション全体、「道徳の時間」を始めとした各教科、特別活動、及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切に道徳教育を実践するための指導力を身に付けさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・道徳教育の意義と目的 ・道徳教育の歴史 ・「道徳の時間」の授業方法 ・授業計画の立案 ・模擬授業	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	臨床心理学概論	<授業形態>講義 <目標>臨床心理学の歴史と方法に関する基礎的知識を学ばせうえて、臨床心理学の特殊性を理解させ、個人の深層心理と環境との相互関連について理解を深めさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・心の病とその治療法に関する歴史的な展開 ・主観性を対象とする臨床心理学の特殊性 ・主観概念、主体概念の検討 ・心の構造と機能 ・心理的問題の分類 ・臨床心理学的な査定と介入の概説 ・臨床心理学と心理臨床の実践	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	教育相談論	<授業形態>講義 <目標>教育現場において児童生徒の人格的成長を支援するための基礎となる諸理論を、発達・臨床・教育の角度から学ばせるとともに、不登校など具体的に教育相談において出会う諸問題について検討し、それらに対処する基礎力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・発達課題とその年代における問題との関連 ・不登校やいじめの状況 ・児童生徒の心理や教育相談のあり方 ・カウンセリングの基礎知識 ・教師の役割とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割との類似点と相違点	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	特別支援教育	<授業形態>講義 <目標>日本における障害児教育の歴史と、近年のインクルーシブ教育の理念および特別支援教育の意義・目的を学ばせる。また、児童・生徒にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題を理解させ、発達障害に対する理解と援助の方法について学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・障害児教育の歴史 ・特別支援教育の意義と目的 ・インクルーシブ教育 ・発達障害(LD、ADHD、広汎性発達障害等) ・教育計画および指導計画の立案 ・家庭及び関係機関との連携	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	社会教育計画	<授業形態>講義 <目標>社会教育の計画・立案について、実際の事例に基づきながら、実践的な理解を得させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・社会教育の事業計画の概要 ・社会教育の対象 ・様々な社会教育施設の役割 ・社会教育施設の運営 ・社会教育の広報および広聴 ・社会教育の評価手法 ・社会教育政策の課題	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	学校教育史	<授業形態>講義 <目標>日本における学校教育の思想とその実践形態の確立について、学制頒布に代表される近代学校教育制度の導入によって、藩校や寺子屋に代表される近世の「学び」の実態が、いかなる変容を遂げたのかという点を中心に学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・近世の「学び」のあり方(藩校、寺子屋等) ・近代教育思想(ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ等) ・植民地教育史 ・近代学校教育制度の導入の影響 ・教科書やカリキュラムにみる日本の学校教育観	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	社会（地歴分野）教育法 A	<授業形態> 講義 <目標>社会科学的認識に関する授業実践の概要を理解させ、地歴分野にかかわるケース研究、教材開発、授業構成などの方法論を習得させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・社会認識教育の基本的な考え方 ・地歴分野の教育の意義・目的とカリキュラム ・日本史・世界史・地理などをめぐる諸問題の事例研究 ・授業計画の作成と検討 ・教材開発	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	社会（地歴分野）教育法 B	<授業形態> 講義 <目標>中学校社会科(地歴分野)・高等学校地理歴史科についてその目標や学習内容を検討し、有効な指導のあり方やそれを反映する学習指導案の作成など実践的に習得させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・中学校社会科の歴史 ・地理および歴史教育に関する諸外国の動向 ・教材および学習指導要領等の検討 ・「歴史の共有」、「持続可能な社会」など未来を志向する今日的な学習課題	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	社会（公民分野）教育法 A	<授業形態>講義 <目標>社会科学的認識に関する授業実践の概要を理解させ、公民分野にかかわるケース研究、教材開発、授業構成などの方法論を習得させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・社会認識教育の基本的な考え方 ・公民分野の教育の意義・目的とカリキュラム ・社会・経済・政治・倫理などをめぐる諸問題の事例研究 ・授業計画の作成と検討 ・教材開発	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	社会（公民分野）教育法 B	<授業形態>講義 <目標>中学校社会科(公民分野)・高等学校公民科について、その目標や学習内容を検討し、有効な指導のあり方やそれを反映する学習指導案の作成など実践的に習得させる。特に、学習者の「学び」と社会とのつながりを築く指導計画、教材、学習評価のあり方を考察させる。 <授業計画の概要>(全15回) ・最近の中学・高校生の現状と社会環境 ・中学校社会科(公民分野)および高等学校公民科の教育内容 ・国際教育、「持続可能な社会」など未来を志向する今日的な学習課題	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	福祉科教育法 A	<授業形態>講義 <目標>福祉科教育の概要と意義を学ばせるとともに、授業実践の見学と模擬授業の相互検討を通して、授業実践力の基礎を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回。一部に演習的要素を含む) ・高等学校の歴史と福祉科の登場 ・福祉科の意義 ・福祉科教育の内容 ・授業見学 ・模擬授業と検討 ・授業計画の作成と検討	
専門科目	専門展開科目郡	教育系展開科目	福祉科教育法 B	<授業形態>講義 <目標>授業実践記録等を参考資料として教科および授業展開についての知識を深める。また、授業実践の見学と模擬授業の相互検討を通して、授業実践力をさらに伸ばす。 <授業計画の概要>(全15回。一部に演習的要素を含む) ・授業実践記録等の批判的検討 ・授業見学 ・模擬授業と検討 ・授業計画の作成と検討	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	子ども家庭福祉論	<授業形態>講義 <目標>子どもを巡る問題は、児童虐待、いじめ、少年犯罪など、日々絶えることなく起きている。本講義では、児童に関する現代的課題を考えていく上で必要な知識、理論、法律を学ばせ、実際に起きている事柄を分析できる力を習得させる。 <授業計画の概要>(全15回) - 子育てをめぐる現代の社会情勢 - 子ども家庭福祉制度の歴史 - 子どもの権利 - 子ども家庭福祉の法制度 - 子どもの発達	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	児童養護論	<授業形態>講義 <目標>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について基礎的知識を学ばせ、社会的養護と児童福祉の関連性および児童の権利擁護・自立支援について理解させる。また、関連する諸法律と制度、および現状と課題を学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) - 社会的養護の意義と歴史の変遷 - 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護 - 社会的養護の制度や実施体系 - 施設養護の実際 - 社会的養護の現状と課題	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育者論	<授業形態>講義 <目標>保育士の制度的な位置づけを理解することで、保育士の専門性と役割について理解させ、保育者としての倫理を身につけさせる。さらには、保育士間で協働を実践し、保育者が専門職として成長することの重要性を理解させる。 <授業計画の概要>(全15回) - 保育士の役割と倫理 - 保育士の制度的位置づけ - 保育士の専門性 - 保育者の協働 - 保育者の専門職的成長	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	子どもの心理学	<授業形態>講義 <目標>子どもの発達にかかわる心理学の基礎的知識を学ばせることにより、子どもへの理解を深める。子どもが人の相互的にかかわりを通して発達していくこと、および生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解させ、保育との関連を考察させる。 <授業計画の概要>(全15回) - 保育と心理学 - 子どもの発達理解 - 人との相互的にかかわりと子どもの発達 - 生涯発達と初期経験の重要性	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	子どもの心理学演習	<授業形態>演習 <目標>子どもの心身の発達と保育実践について理解を深めるため、具体的に生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解させ、保育における発達援助について学ばせる。 <授業計画の概要>(全15時間) - 子どもの発達と保育実践 - 生活や遊びを通した学びの過程 - 保育における発達援助	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育内容演習 A (表現)	<授業形態>演習 <目標>養護と教育に関連する保育の内容を総合的に展開していくための知識・技術・判断力を習得させる。子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域から捉え、本講義では表現について、子どもへの理解を深めながら保育内容について具体的に学ばせる。 <授業計画の概要>(全30時間) - 子どもの生命の保持のための養護 - 子どもの情緒の安定を図るために行なう養護 - 発達のための援助 - 豊かな感性や表現する力を養うこと - 創造性を豊かにすること	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育内容演習 B (健康)	<授業形態>演習 <目標>養護と教育に関連する保育の内容を総合的に展開していくための知識・技術・判断力を習得させる。子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域から捉え、本講義では健康について、子どもへの理解を深めながら保育内容について具体的に学ばせる。 <授業計画の概要>(全30時間) - 子どもの生命の保持のための養護 - 情緒の安定を図るために行なう養護 - 発達のための援助 - 健康な心と体を育てること - 自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養うこと	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育内容演習C (言葉・環境・人間関係)	<授業形態>演習 <目標>養護と教育に関連する保育の内容を総合的に展開していくための知識・技術・判断力を習得させる。子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域から捉え、本講義では言葉・環境・人間関係について、子どもへの理解を深めながら保育内容について具体的に学ばせる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・子どもの生命の保持のための養護 ・情緒の安定を図るために行なう養護 ・自立心を育て、人と関わる力を養うこと ・周囲の環境に好奇心や探究心をもって関わり、それを生活に取り入れていこうとする力を養うこと ・言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うこと	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育の表現技術A(造形)	<授業形態>演習 <目標>保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得させる。本演習では、身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現の内の、造形表現に関する知識や技術を習得させる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・子どもの発達と造形表現に関する知識と技術 ・身近なものの色や形、感触、イメージ等に親しむ経験と保育環境 ・子どもの経験と造形表現を結びつける遊びの展開	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育の表現技術B(身体)	<授業形態>演習 <目標>保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得させる。本演習では、身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現の内の、身体表現に関する知識や技術を習得させる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・子どもの発達と運動機能や身体表現に関する知識と技術 ・見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動等と保育環境 ・子どもの経験と造形表現を結びつける遊びの展開	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育の表現技術C(言語)	<授業形態>演習 <目標>保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得させる。身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現の内の、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得させる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・保育の環境構成及び具体的展開のための技術 ・言語表現等に関する知識や技術 ・子どもの発達と絵本・紙芝居・人形劇・ストーリーテリング等に関する知識と技術 ・子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境 ・子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財とを結びつける遊びの展開	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育の表現技術D(音楽)	<授業形態>演習 <目標>保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得させる。本演習では、身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現の内の、音楽表現に関する知識や技術を習得させる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術 ・身近なものの音、人の声や音楽等と保育環境 ・子どもの経験と音楽表現を結びつける遊びの展開	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	乳児保育演習	<授業形態>演習 <目標>乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等を学ばせるとともに、保育所、乳児院における乳児保育の現状と課題を理解させる。また、3歳児未満児の発育・発達と、健やかな成長を支える生活と遊びについて理解させる。そのうえで、具体的に乳児保育の計画作成、保育の内容や方法、環境構成、記録の書き方等の演習を行って実践力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・乳児の保育の理念と役割 ・乳児保育の現状と課題 ・3歳児未満児の発達と保育内容 ・乳児保育計画の作成と検討 ・乳児保育の実際 ・保護者や関係機関との連携	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	養護内容演習	<授業形態>演習 <目標>社会的養護における児童の権利擁護と保育士など専門職の倫理、および施設養護及び社会的養護の実践について学ばせる。また、個々の児童に応じた支援計画の作成を通じて、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容及びソーシャルワークの方法と技術について理解させる。さらに、社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解を深めさせる。 <授業計画の概要>(全15時間) ・社会的養護における児童の権利擁護 ・保育士等の倫理及び責務 ・社会的養護の実施体系 ・支援の計画と内容及び事例分析 ・社会的養護にかかわる専門的技術 ・今後の課題と展望	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	子どもの保健学A	<授業形態>講義<目標>子どもの身体および諸機能の発達過程と、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学ばせる。また、子どもの疾病とそれに対する適切な保育のあり方について学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・子どもの健康と保健の意義 ・子どもの発育・発達と保健(身体発育・生理機能・運動機能・精神機能) ・子どもの疾病と保育	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	子どもの保健学B	<授業形態>講義 <目標>子どもの精神保健とその課題について学ばせる。また、保育の環境とその衛生安全管理、危機管理、子どもの健康と安全を守る実施体制に関し基礎的知識を学ばせる <授業計画の概要>(全15回) ・子どもの精神保健 ・保育環境整備と保健 ・保育現場の衛生安全管理と危機管理 ・健康および安全のための実施体制	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	子どもの保健学演習	<授業形態>演習 <目標>子どもの健康及び安全にかかわる保健活動について、具体的に計画し評価する力を身につけさせる。子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えさせ、子どもの疾病とその予防及び適切な対応、救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ばせる。また、現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解を深めさせる。 <授業計画の概要>(全15時間) ・保健活動の計画作成と評価 ・子どもの保健と環境 ・子どもの疾病と適切な対応 ・事故防止と健康安全管理 ・心とからだの健康問題と地域保健活動	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	子どもの食と栄養	<授業形態>演習 <目標>健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ばせ、子どもの発育・発達と食生活との関連について理解を深めさせる。また、食育において養護と教育が一体化していることをふまえ、食育環境の現状と課題を地域社会・文化とのかかわりの中で理解させる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・子どもの健康と食生活の意義 ・栄養に関する基礎的知識 ・子どもの発育・発達と食生活 ・食育の基礎的知識 ・食を通じた保護者への支援 ・家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	障がい児保育演習	<授業形態>演習 <目標>障害児保育を支える理念や歴史の変遷を学ばせる。また、障害児保育と様々な障害について理解を深めさせ、子どもを理解し援助する方法、保育環境について学ばせる。具体的に、障害のある子どもの保育の計画を作成させ、個別支援及び他児とのかかわりの中で育ちあう保育実践についての理解を深めさせる。保護者支援や関係機関との連携、現状と課題も理解させる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・障害児保育を支える理念 ・障害の理解と発達の援助 ・障害児保育の実践 ・家庭及び関係機関との連携 ・障害のある子どもの保育の現状と課題	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育内容総合演習	<授業形態>演習 <目標>保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し保育の全体的な構造を理解させる。また、保育内容の歴史の変遷、子どもや集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点やかわりについて学ばせ、生活全体の中で養護と教育的な展開を具体的な保育実践につなげて理解させる。保育の多様な展開についても具体的に学ばせる。 <授業計画の概要>(全15時間) ・保育の基本と保育内容 ・保育内容の歴史の変遷 ・保育内容と子どもの理解 ・保育の基本を踏まえた保育内容の展開 ・保育の多様な展開	
専門科目	専門展開科目郡	子ども家庭系展開科目	保育課程論	<授業形態>講義 <目標>保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について、基本を理解させ、具体的な保育課程の編成と指導計画の作成を学ばせることにより、計画、実践、評価、改善の過程についてその全体構造を動的に捉える力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15回) ・保育の計画と評価の基本 ・保育所における保育の計画 ・保育の計画の作成と展開 ・保育所における保育の評価	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	社会福祉実習	<授業形態>実習 <目標>相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得させる。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を身につけさせるとともに、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解させる。 <授業計画の概要>(全180時間。実習先別に分けた7コースを各1人の教員が担当) 社会福祉士国家試験受験資格の取得を目指す学生を対象にした法定実習(180時間以上)をおもに夏期休業中の集中型で実施する(実習配属先によっては分散型で実施する。)	
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	社会福祉実習指導	<授業形態>実習 <目標>相談援助実習の意義について理解させる。相談援助実習に係る個別指導と集団指導を通じて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得させる。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得させ、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全90時間) 実習の配属先に応じて各コース別指導(実習前指導・実習期間中の巡回指導・実習後指導)を行う。 教員全員(13回/30回)・全体のオリエンテーション、実習先について、プレゼンテーション、振り返り 実習先別クラス担当教員(17回/30回) ・各実習先コース別指導 ・実習先の巡回指導	
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	保育実習ⅠA (保育所)	<授業形態>実習 <目標>保育所の役割と機能を具体的に理解させ、観察・記録や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深めさせる。また、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ばせる。保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解させるとともに、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ばせる。 <授業計画の概要>(全10日間) ・保育所の役割と機能 ・子どもの理解 ・保育内容と保育環境 ・保育の計画・観察・記録 ・専門職としての保育士の役割と職業倫理	
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	保育実習指導ⅠA (保育所)	<授業形態>演習 <目標>保育実習の意義・目的と内容を理解し、自らの課題を明確にする力を身につけさせる。また、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、およびプライバシーの保護と守秘義務等について理解させる。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15時間) ・保育実習の意義 ・実習内容と課題の明確化 ・実習に際しての留意事項 ・実習の計画と記録 ・事後指導における実習の総括と課題の明確化	
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	保育実習ⅠB (児童福祉施設)	<授業形態>実習 <目標>居住型児童福祉施設等および障害児通所施設等の役割や機能を具体的に理解させ、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深めさせる。また、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの理解・援助及び保護者支援について総合的に学ばせる。養護の計画、支援、記録及び自己評価等について具体的に理解させるとともに、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ばせる。 <授業計画の概要>(全10日間) ・児童福祉施設等の役割と機能 ・子どもの理解 ・養護内容と生活環境 ・養護の計画・支援・記録 ・専門職としての保育士の役割と職業倫理	
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	保育実習指導ⅠB (児童福祉施設)	<授業形態>演習 <目標>保育実習の意義・目的と内容を理解し、自らの課題を明確にする力を身につけさせる。また、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、およびプライバシーの保護と守秘義務等について理解させる。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする力を身につけさせる。 <授業計画の概要>(全15時間) ・保育実習の意義 ・実習内容と課題の明確化 ・実習に際しての留意事項 ・実習の計画と記録 ・事後指導における実習の総括と課題の明確化	
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	保育実習Ⅱ (保育所)	<授業形態>実習 <目標>子どもの観察や関わりの視点を明確にして、保育の理解を深めさせる。既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び保護者支援について総合的に学ばせ、計画、実践、観察、記録及び自己評価等及び保育士の業務内容や職業倫理について実践に結びつけて理解させる。さらに保育士としての自己の課題を明確にさせる。 <授業計画の概要>(全10日間) ・保育所の役割や機能について具体的展開 ・観察に基づく保育理解 ・子どもの保育及び保護者・家庭への支援と知識社会等との連携 ・指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・保育士の業務と職業倫理 ・自己の課題の明確化	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	保育実習指導Ⅱ (保育所)	<授業形態>演習 <目標>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ばせる。実習と既習の教科の内容、およびその関連性を踏まえ、保育の実践力を高めさせる。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ばせる。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にさせる。 <授業計画の概要>(全15時間) ・保育実習による総合的な学び ・保育実践力の育成 ・計画と観察、記録、自己評価 ・保育士の専門性と職業倫理 ・事後指導における実習の総括と評価	
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	スクール・ソーシャルワーク実習	<授業形態>実習 <目標>学校現場等での実習を通じて、これまで学んできた学校および福祉に関する理論と実践技術への理解、スクールソーシャルワークの必要性和活動への理解を深めさせるとともに、実際に学校現場に何が起きているのか、ワーカーは何ができるかを学ばせる。また、自身で設定した課題を実践現場を経験することで学びを深めさせる。 <授業計画の概要>(80時間。実習先により2コースに分かれ各教員1人が担当) ・子どもと教師の行動観察 ・個別面接やケース会議への参加 ・適応指導教室・施設・発達障害児支援センター、児童相談所などの理解	
専門科目	専門展開科目郡	展開実技実習科目	スクール・ソーシャルワーク実習指導	<授業形態>実習 <目標>社会福祉の基礎的な知識・技術を習得した上で各自の問題意識や課題を生かして、学校現場でのソーシャルワークを実践的に考える。また、学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得させる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・個別指導並びに集団指導 ・教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握 ・総合的な対応能力 ・具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として体系立てる能力 (5回/全15回)・オリエンテーション、中間報告、最終報告、まとめほか (10回/全15回)・具体的な実習計画、指導	
専門科目	教育福祉総合科目群	展開演習科目	教育福祉ゼミナールA	<授業形態>演習 <目標>教育福祉に関する問題関心を深め、研究の基礎となる文献の検索、読解、討議の方法などを学ぶ。 <授業計画の概要>(全30時間。全担当教員が1人1クラスを担当) 小人数制ゼミナール形式により、文献講読、学生による研究発表と共同討議、フィールドワークやサーベイ調査などを行う。	
専門科目	教育福祉総合科目群	展開演習科目	教育福祉ゼミナールB	<授業形態>演習 <目標>教育福祉に関する問題関心を深め、研究の基礎となる文献の検索、読解、討議の方法などを学ぶ。 <授業計画の概要>(全30時間。全担当教員が1人1クラスを担当) 小人数制ゼミナール形式により、文献講読、学生による研究発表と共同討議、フィールドワークやサーベイ調査などを行う。	
専門科目	教育福祉総合科目群	展開演習科目	保育・学校ソーシャルワーク演習	<授業形態>演習 <目標>保育・子育て領域および学校領域におけるソーシャルワークの重要性と、ソーシャルワークの視点を導入することの責任の重大さを理解させ、実際に保育・子育て支援、学校における支援をどのように進めていけばいいのかについて、ミクロ、メゾ、マクロを視野に入れたソーシャルワーカーとしての援助方法を習得させる。 <授業計画の概要>(全30時間) ・地域・学校・保育現場の把握とアセスメント ・個別事例のアセスメント・援助技法の体験的習得 ・記録用紙の作成とデータの整理・分析 ・保護者への支援 ・特別な対応を要する家庭への支援	
専門科目	教育福祉総合科目群	総合発展科目	教育福祉学演習Ⅰ	<授業形態>演習 <目標>卒業論文執筆に必要な研究の基礎を習得するとともに、研究論文の執筆方法について学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回。全担当教員が1人1クラス担当) 教育福祉ゼミナールA、Bで身につけた視点や知識をさらに深めるために文献講読、ディスカッション等をおこなう。卒業論文を執筆するための知識や技法を身につけるとともに、卒業後、それぞれの活動領域において必要とされる視点や知識を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	教育福祉総合科目群	総合発展科目	教育福祉学演習Ⅱ	<授業形態>演習 <目標>卒業論文執筆に必要な研究の基礎を習得するとともに、研究論文の執筆方法について学ばせる。 <授業計画の概要>(全15回。全担当教員が1人1クラス担当) 教育福祉ゼミナールA、Bで身につけた視点や知識をさらに深めるために文献講読、ディスカッション等をおこなう。卒業論文を執筆するための知識や技法を身につけるとともに、卒業後、それぞれの活動領域において必要とされる視点や知識を学ぶ。	
専門科目	教育福祉総合科目群	総合発展科目	コラボレーション演習	<授業形態>演習 <目標>多様な側面を持つ人の健康および福祉を回復、維持、向上あるいは育むためには、人が本来持つ強さを活性化する支援が重要であり、その支援には、多様な領域の専門性と同時に各領域をつなぎ、支援を全体として統合する各領域間の連携・協働が必須である。本演習では、連携・協働の実践力を養成するため、多様な対人支援領域を専門とする学生から成るグループワークやフィールドワークを通じて体験的に他領域の支援理念や支援方法の理解を促進させ、多職種や多機関の連携・協働のための具体的方法を習得させる。 <授業計画の概要>(全30時間) 協働方法習得のためのグループワーク：チーム形成および葛藤解決などの技法(全体授業：12時間) フィールドワーク：各機関施設に多職種からなる学生チームが出向く(3グループに別れて活動：15時間) フィールドワーク体験の振り返り、報告会(全体授業：3時間)	
専門科目	教育福祉総合科目群	総合発展科目	教育福祉学卒業研究	<授業形態>演習 <目標>自身の問題関心に基つき、教育福祉学類で学んできた成果を卒業研究として集大成させる。 <授業計画の概要>(全60時間。全担当教員が1人1クラス担当) ・文献・資料・データの収集 ・分析と論理的構成 ・研究報告(論文執筆を含む)	

<注>

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。